

2020年度 年報

Annual Report 2020



大阪大学国際教育交流センター

Center for International Education and Exchange, Osaka University

巻 頭 言

大阪大学国際教育交流センター長
有 川 友 子

2020年度は、国際教育交流センターにとりまして、新型コロナウイルス感染症の中での1年となりました。

本年報では、国際教育交流センターにおけるこの新型コロナウイルス感染症拡大への対応を詳細に報告し、その後、2020年度の各種教育交流支援等の活動について報告しております。

新型コロナウイルス関連といたしましては、2020年初期からの国内の動向、大阪大学の対策、また大きな影響を受けた外国人留学生の受入と派遣の状況を記録した上で、国際教育交流センターにおいて行っております各種留学生日本語教育関係、短期留学交流関係、留学生支援・交流関係につきまして、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中での具体的な対応を詳細に記録しました。

その後、本年度のトピックスとして、「1. 日本語・グローバル理解演習（JGU600/JGU500）のラインナップが完成」「2. OUマルチリングプラザの開設」「3. CIEE研究協議会シリーズ—多文化交流の最前線」「4. 日本語よろず相談窓口」「5. ウェルカム阪大！新入留学生交流会」「6. 留学生向けのストレス解消のヒント」「7. 「大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保」による事業」、以上7件につきまして報告しております。多くのトピックについて、新型コロナウイルス感染症拡大とも関連した活動となりました。

この世界的な感染症拡大のもとで、2020年度は留学教育交流が大きな影響を受けた1年でしたが、オンラインでの教育や交流支援活動が大きく広がった1年でした。またオフライン（対面）での様々な活動の重要性を認識した1年でもありました。

尚、大阪大学の外国人留学生数は2020年5月1日現在で2,611名となりました。この人数にはその時点で本学に在籍しているものの未渡日の留学生も含みますが、2019年度までに既に来日していた大多数の留学生、2020年秋に新規に来日した留学生もおりますので、多くの留学生が大阪大学に学ぶ状況は続いております。またオンラインにて海外から国際教育交流センターの各種プログラムに参加したり授業等を履修する留学生が増えたことも、2020年度の大きな変化でした。

最後になりますが、今後も暫くの間は新型コロナウイルスの影響は続いていくと思います。ウィズコロナ・ポストコロナを見据えて、これからもグローバルイニシアティブ機構など関係部署と連携しつつ、国際教育交流センターは留学生中心の部局として、積極的に貢献してまいります。

大阪大学国際教育交流センター 2020年度 年報

目 次

巻 頭 言	1
I. 新型コロナウイルス感染症拡大への対応	4
1. 全般的な状況	4
2. 留学生日本語プログラム関係	6
3. 短期留学交流関係	10
4. 留学生支援・交流関係	14
5. サポートオフィス	16
II. 本年度のトピックス	17
1. 日本語・グローバル理解演習（JGU600/JGU500）のラインナップが完成	17
2. OUマルチリンガルプラザの開設	18
3. CIEE 研究協議会シリーズ ― 多文化交流の最前線	20
4. 日本語よろず相談窓口	21
5. ウェルカム阪大！ 新入留学生交流会	23
6. 留学生向けのストレス解消のヒント	23
7. 「大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保」による事業	24
III. 現 況	26
1. 運営形態	26
2. 組織	26
3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等	27
IV. 留学生対象日本語プログラム	29
1. 日本語集中コース	30
2. 留学生日本語選択コース	36
3. 全学共通教育	37
4. 国際交流科目	39
5. 学際融合教育科目	40
V. 国際教養・専門複合型プログラム	41
1. 行事	42
2. 2020 年度春夏学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト	43
3. 2020 年度秋冬学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト	45
4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数	47
5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み	47
VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム	53
1. 『超短期』プログラム	53
2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP	54
3. 『学外連携実習』 ExPERT	55
4. Faculty-led プログラム UMOS	56
5. Winter Online Japanese Course	56

VII. 留学生支援	57
1. 生活・就学支援	57
2. 地域との連携	62
3. 留学生に対するキャリア支援	64
VIII. 海外派遣留学支援	69
1. 海外研修・異文化体験プログラム	69
2. 海外留学オリエンテーション	70
3. 大学間交換留学者数	71
4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション	73
5. 海外留学相談	74
6. 英語学習支援プログラム Project HELP!	77
IX. サポートオフィス	82
1. 査証（ビザ）関連手続きの支援	82
2. 住宅・宿舍手配の情報提供・支援	83
3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催	83
4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催	84
5. ホームページの管理運営	84
6. 各種印刷物の改訂版作成・配布	85
X. 大学院・学部教育	86
1. 授業担当	86
2. 研究指導	92
3. 研究指導学生学位論文	94
4. リサーチ・アシスタント（RA）の受入れ	94
XI. その他の活動	95
1. 各種行事	95
2. 海外出張・海外研修	97
3. 出版物・印刷物等（2020年5月から2021年4月まで）	98
4. 来訪者対応	98
5. 研究者のためのオーラル・コミュニケーション日本語	98
6. にほんごテーブル	98
7. CIEE研究会	100
XII. 教員個人データ	101
資料編	
資料1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2020年度 留学生日本語プログラム 時間割	133
資料2 2020年度 留学生日本語プログラム（選択コース）履修登録者数（実人数）一覧	137
資料3-1 国際交流科目授業時間割（令和2年 春～夏学期）	139
資料3-2 国際交流科目授業時間割（令和2年 秋～冬学期）	140
資料4 日本語授業についてのアンケート	141
資料5 国際交流科目 授業評価アンケート（質問票）	145
資料6 国際交流科目 授業アンケート（結果）	150

I. 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

1. 全般的な状況

2020（令和2）年は新型コロナウイルス拡大に伴う対応に追われた1年だった。国際教育交流センターの様々な活動も直接大きな影響を受けた。詳細は各チームの報告に譲ることとし、本稿ではまず新型コロナウイルス感染拡大を受けて発令された国内の緊急事態宣言や入国・出国制限、大阪大学独自の対策をまとめる。そして大阪大学の活動基準及び大学全体の留学生の状況の中で、国際教育交流センターに関係するところを中心に、国際部国際学生交流課作成データを参考に簡単に報告する。

(1) 国内の動向

国内では1月16日に新型コロナウイルス感染が初めて確認され、1月30日には政府による新型コロナウイルス感染症対策本部が設置された。さらに3月5日には国内での感染拡大を受け、感染症対策本部により「水際対策の抜本的強化に向けた新たな措置」が決定された。この対策措置は同9日に開始され、これにより中国や韓国からの入国が制限され、入国後14日間の待機が求められることとなった。4月7日には7都府県（埼玉、千葉、東京、神奈川、大阪、兵庫、福岡）を対象に緊急事態宣言が発令され、16日には対象地域が全国に拡大した。宣言期間中、対象地域では外出自粛が強く要請された。この宣言は39都道府県では5月14日に解除され、その後、大阪では同21日、全国では同25日に解除された。

10月1日には、防疫措置を確約できる受入企業・団体を条件として、全ての国・地域からの新規入国が原則として許可された。さらに11月1日からは、日本在住の在留資格保持者等を対象に、全ての国・地域からの帰国・再入国時に、防疫措置を確約できる受入企業・団体を条件として、14日間の待機緩和が認められた。

しかしその後、世界的な感染拡大及び変異株の確認により、12月26日には新たな水際対策措置が決定され、同28日に全ての国・地域からの新規入国が停止され、上述の日本在住の在留資格保持者に対する14日間の待機緩和についても認められないこととなった。この水際対策措置は2021年3月末も継続している。

(2) 大阪大学における対策

大阪大学では、2020年3月に新型コロナウイルス対策本部が設置された。また緊急事態宣言の発令を受け、大阪府からの行動自粛要請に対して、適切かつ柔軟に対応するために、大阪大学の独自の活動基準が定められた。この活動基準は、学生・教職員の健康と安全の確保を最優先としつつ、教育と研究の維持も最大限考慮して決定されたものであり、状況により適宜変更の上、公表されることとなった。

5月21日には、感染者からの濃厚接触者発生を抑え、学内におけるクラスター形成を阻止することを目標とした「感染予防のための標準的対策」が学内の対策本部より発表された。さらに7月9日には、同対策本部によりソーシャルディスタンスの考え方やマスク着用ルールなどを含む「コロナ新時代における大阪大学の行動ガイドライン」が公表され、その遵守が全ての大阪大学構成員に対して求められた。

(3) 大阪大学における2020年外国人留学生数の状況

① 留学生の在籍数

まず本学の外国人留学生数について、5月1日現在と11月1日現在で比較する。2020年5月1日現在

2,611名、2019年5月1日現在2,594名と比較すると17名増となっている。一方で、11月1日現在で留学生数を比較すると、2020年が2,647名となり、2019年の2,825名に比較して178名減となっている。主に研究生と交換留学生などの非正規課程の留学生数の減少による影響がみられる。

尚、2020年度の留学生数は、本学に留学生の身分で在籍している学生数であり、5月1日もしくは11月1日時点で未渡日であっても、いずれ入国可能な時期に渡日を予定していた学生を含んでいる。未渡日の留学生であっても、すでに本学に在籍していることから、海外からオンラインで授業を履修していたり、研究指導等を受けていたりする留学生もいた。

② 外国人留学生の入国状況

日本への入国制限が続く中、2020年秋に一時入国が可能となった時期があった。水際対策支援について大学として業者に委託して手配を行った入国（再入国）の留学生数については以下の通りとなっている。

2021年2月10日現在の情報であるが、再入国（一時出国）対象の留学生の77名が渡日済みである（大学を通した手配18、その他の手配59）。新規入国（国費）の留学生の125名渡日済み（大学を通した手配125、その他0）。国費学部前予備教育生については62名渡日済みである。新規入国（私費）の留学生の343名渡日済み（大学を通した手配282、その他の手配61）である。（この人数には休学からの復学等により在留資格の再申請が必要なものを含まれている。）2021年春の入国がどうなるか現時点で不明である。再入国は可能であるが、新規渡日は4月1日の時点で未定である。

(4) 大学間協定に基づく交換留学生（受入・派遣）の状況

また本学と海外の協定校の間で、半年から1年間について受入派遣双方向の交換留学を積極的に行っている。しかしながらこの交換留学についても新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。以下に大学間協定に基づく交換留学の2020年度の状況について説明する。

まず交換留学による本学学生の派遣であるが、2020年について大学として派遣停止を行った。2019年度中に大学間交換留学生として派遣された学生のうち、65名が2020年に当初の予定から中止もしくは中途帰国した。次に大学間協定に基づく全学交換留学生の受け入れ実績状況であるが、2020年春夏学期は受け入れをすべて中止したため、受入実績はゼロである。

2020年秋冬学期についてiExPO^{*1}とFrontierLab@OsakaU^{*2}については、2020年5月15日の段階で中止が決定された。一方で、OUSSEP^{*3}とMaple^{*4}については中止とはせず、来日が可能となるまで、もしくはオンラインでの参加と受講を可能とした。OUSSEPは27名が入学（23名渡日、4名オンライン）、Mapleは53名が入学（渡日49名、4名オンライン）となった。

なお、2021年春夏学期受け入れについては、OUSSEP及びオンラインで指導が可能なiExPOとFrontierLab@OsakaUについて、2020年12月22日の時点で合計142名の受け入れがいったん決まった。しかしながら、2021年に入ってもコロナウイルス感染が収まらない状況が続き、3月12日の時点で既に89名が辞退している。

(注)

*1：iExPOとは、本学の学部/大学院研究科が個別に留学生を受入れる制度

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange_program/iexpo/iExPOguide

*2：FrontierLab@OsakaUとは、理学部、基礎工学部、工学部、情報科学研究科及び関連部局に所属する特定分野の「研究室」に外国人学生を一定期間受け入れるプログラム

*3: OUSSEPは大阪大学短期留学特別プログラム

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange_program/oussep/oussepguide

*4: Mapleとは、日本語日本文化教育センターによる日本語日本文化の特別プログラム

https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange_program/maple/mapleguide

(参考資料)

- 外務省海外安全ホームページ
- 大阪大学活動基準
- 国際部国際学生交流課作成データ

2. 留学生日本語プログラム関係

(1) 日本語集中コース

2020年4月、当初の予定では、日本語集中コース（以下、IJ）は、例年通り、いわゆる国費大使館推薦の留学生（以下、国費留学生）を30名以上、さらに、学内のその他の在籍身分の留学生を受け入れて、4クラス体制（100、150、200、300）により、ICホール2階の講義室において、毎日対面で運営される予定であった。しかしながら、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、上記の予定での新規留学生の来日そのものが実現せず、種々の情報入手の遅延が深刻となり、全く先が読めない状況となった。以下、関連の背景や対処について記録しておきたい。

① IJ開始前の種々の背景と学生の状況

IJ開始前の上記状況の背景にはさまざまなものが存在していた。すでに学籍があれば海外に在住していてもオンラインで授業受講が可能であるが、当時は、そのような単純な結論で済む展開にはならなかった。国費留学生については、学生個人による留学延期とその時期の判断、ごく一部は留学断念の判断を行い、また、事務的には、ビザ発給や奨学金受給開始時期の問題、自国のロックダウンによるあらゆる渡航手続きや情報獲得の困難が生じていた。それらの困難の状況は、国によってさまざまであった。学内募集の場合についても、未来日の場合、オンライン（skype）による面接時にも、ビザ発給停止についての不安を訴えるケースもあり、その学生の場合は4月からのコース受講を断念した。このように、留学という、大きな決断をして希望に満ち行動を始める直前において、学生たちも、先行き不透明な事態の中、終わりの見えない不安にかられていた。多くの質問や情報提供依頼のため、教員やスタッフに何度もEメールで連絡をとるケースもあった。

上記の学生たちはいずれも、来日後に集中的な日本語学習を行ってから大学院に進学するという進路を控えており、来日時期の検討の際には、どの学生も、大学院への入学時期の決定とその前の日本語能力の獲得について、特に懸念が大きかった様子がうかがえた。

② 春～夏学期（2020年4月～8月）と秋～冬学期（2020年10月～2021年2月）の状況

春～夏学期については、IJをコーディネートする教員は、国費学生担当の事務職員から渡日に関わる最新情報を、またフロントスタッフから個々の学生からの問い合わせ状況の情報を得て、4月からのコース運営の計画を大きく変更した。国費学生が来日を延期することとなったため、学内募集で面接を終えた、日本語レベルがIJに適合した受講希望者5名の学生のみを受け入れることとした。来日を延期した国費学生に対しては、10月までの半年間、日本語学習の意欲を維持するためにも、ウェブ上のさまざまなコンテ

ンツを紹介し、自国で自学自習を行うよう促した。初心者であるIJ100に入る予定の学生は、各々文字学習から開始した。

4月には、留学生交流アドバイジングチームの教員とも連携してオンラインでオリエンテーションを全て行い、続いて、全授業をオンラインで展開した。学期末の修了発表のみは、対面で行った。幸い、ほとんどの指導教員の参加を得て活発な質疑応答ができ、修了発表会も滞りなく終了できた。1名は個別の事情でコースを途中で辞退したが、他の4名の学生は、出席率も、2名が100%、2名が95%以上の良好な状況であった。

秋～冬学期については、10月には、4月渡日予定であった国費学生のうち21名が3クラス（100、200、300）に分かれてIJ受講を予定（一部は1年延期で2021年へ）することとなった。21名の渡日準備に合わせて、授業開始日を10月15日と設定した。10月から11月にかけて五月雨式に来日が進み、来日後は、上陸した国際空港付近のホテルで2週間待機となった。その待機期間においても、すでにIJの授業を受講できる体制となっていた。学生たちは、来日時期が国・地域によって不統一なため日本との時差が大きく、本年報に詳細を記載したように、出身地域別に時差別対応をとったクラスもある。一例を挙げれば、IJ200では、アジア・ヨーロッパグループと中南米グループに分け、担当講師の人的リソースを分割し、専任のコーディネータは両方のグループへの対応を行った。夜の10時や11時に受講する場合でも、学生たちの学習意欲は高く維持されていた。IJの3クラスの全体的な出席率は極めて高く21名中18名が95%以上で、うち5名が100%であった。

③ 今後の課題など

オンライン授業では、対面授業と異なり、実際に、学生が他のクラスメートと十分な交流を行うことが難しい。学生は、教員側が考えている以上に、自分は日本語能力が向上していない、という実感を持つ傾向のあることがわかった。このようなことから、オンライン授業では、従来以上にきめ細やかな個別の対応や配慮が必要であると言える。また、IJは毎日行われる授業であるため、日々の学習の質・量が、翌日や翌週以降の学習の質・量に少なからぬ影響を及ぼす場合が存在する。このような集中的でハードなコースではあるものの、学生たちの大部分は、大学院受験を控えており緊張感が続く中、大学院入学までに日本語能力を高めようと、極めて熱心な態度で努力を重ね、オンライン環境の中でも、クラス内での交流も一定程度深まったと見られる。修了発表についても、指導教員からの事前のアドバイスも受けつつ、研究室へのアクセスを試みた結果、いずれも高評価を得ることができた。多くの指導教員からも「これほど上達するとは思っていなかった」との評価を受けた。

なお、教材の配布と、学生が来日前に自国での教材購入が円滑に行われない地域などもあるため、課題はある。一方で、オンラインによる一定以上の学習成果が見られたことに対しても、今後のハイブリッド型の教育実践についても選択肢を広げたとと思われる。

(2) 国際交流科目

新型コロナウイルスの感染拡大により、特に影響を受けたのが短期留学生であった。短期留学生、すなわち半年ないし1年程度の期間、大学間協定や部局間協定に基づいて来日する留学生については厳しい入国制限がなされ、多くの来日予定だった学生が留学をキャンセルせざるを得ない事態となった。留学予定期間中に事態が改善することを期待して予定通り留学することを選択した学生も、学期当初は母国等で授業に参加し、ビザや飛行機などの手配が完了した学生から順に来日するという状況であった。

このような状況の下、特に短期留学生が多く履修する国際交流科目日本語（JA・JGU）でも、例年とは異なる対応を余儀なくされた。以下、2020年度の国際交流科目日本語（JA・JGU）におけるコロナ関係の影響と対応方法についてまとめる。

① 開講・不開講の判断

日本語プログラムの各授業は原則として、履修登録者数が5人未満の場合に不開講となる。しかし緊急事態宣言発令下で開始された2020年度春～夏学期については、1人でも履修登録者がいる授業はすべて開講した。緊急事態宣言が解除された秋～冬学期も、不開講とする基準を3人未満とした。その結果、春～夏学期のJGU600で1コマ、秋～冬学期のJA100で2コマ（1トラック）の授業が不開講となった。

② 学生対応

上述のように、特に学期開始時には、母国等から授業に参加する学生が多く存在した。中にはヨーロッパ・南米等、日本との時差が大きい国・地域在住の学生もあり、在住地によるクラス（トラック）分けや授業時間の変更なども検討したが、複数の教員・学生全てのニーズをカバーする調整は困難を極め、結果としてほとんどの授業が当初予定されたクラス分け・授業時間で実施された。

③ 授業実施方法

多くの授業はZoomを用いた同期型（リアルタイム型）のオンライン授業として実施された。ただし、JA100とJA400の一部の授業では指定された動画の視聴と課題提出を組み合わせた非同期型（オンデマンド型）授業が行われた。

④ 学生の履修状況

例年、国際交流科目日本語（JA・JGU）を履修する学生は真面目で熱心なタイプが多いが、2020年度はさらにその傾向が強まり、非常に熱心に取り組む学生が多かった。コロナ禍においてもあきらめずに留学を選択する学生の、日本語学習に対するモチベーションの高さ、そして、結果的にどのクラスも履修者が比較的少数となり、個に対応したきめ細かい指導が可能になったことが功を奏したと考えられる。

⑤ 今後の課題など

・海外在住学生への対応

海外在住の学生の場合、教科書購入が困難だったり、時間がかかったりする学生が多かった。電子書籍が販売されている教科書も増えているが、海外からも容易に教科書が入手できるようになることが望ましい。また、ヨーロッパや南米等、日本との時差が大きい地域に住んでいる学生への対応も大きな課題であるが、学生の居住地域が多岐に渡る上、他の履修科目との兼ね合いなどもあり、2020年度にはほとんど対応することができなかった。

・担当教員の負担軽減・ノウハウ等の共有

オンラインツールを用いることで、世界各地からの受講が実現できたことは大きな成果である。しかし、急に降って湧いた「授業のオンライン化」により、担当教員は教材や授業方法のオンライン対応のために多大な時間と労力を費やすことになった。国際教育交流センターでは、オンライン授業実施に関する各種の情報提供や、オンライン授業に関する意見交換会の実施などに取り組んだものの、まだまだ

多くが各教員の自助努力に委ねられているのが現状である。非常勤講師も含め、ICT環境の整備や授業運営に関する情報共有等を全学的にサポートする仕組みの構築が必要といえる。

(3) 留学生日本語選択コースの内のJB100 からJB300

ここでは、選択コースの内のJB100 からJB300 までのクラスの状態について報告する。以下では、対象のクラスをまとめて言う場合はJBと呼ぶ。

JBでは、入門・基礎のJB100 から中級前半のJB300 までの3レベルを設定し、口頭と書記の両様での日本語の十分な基礎技量を習得することを目的とする総合日本語科目として開講されている。通常は各レベルで30名以上の履修者がいるので、春～夏学期のJB300 以外は以下のように同じレベルで2トラックを設定している。2020 年度も例年に準じた形でクラス開講の計画をした。

表 JBとして開講されたクラス

	春～夏学期		秋～冬学期	
JB100	トラック 1	トラック 2	トラック 1	トラック 2
JB200	トラック 1	トラック 2	トラック 1	トラック 2
JB300	1 トラックのみ		トラック 1	トラック 2

JBは非正規科目ながら、センターの専任教員がコーディネータとなり非常勤講師によって実施される正規科目に準じる日本語科目である。JBを構成する各科目は、研究活動等に従事しながらも基礎からしっかりと日本語力を身につけることを希望する大学院生、研究生、短期留学生等が受講する重要な日本語科目である。

① 受講状況の概要

春～夏学期のJB100 の受講者は例年と比べて激減した。コロナの影響で、春～夏学期に新規渡日予定だった短期留学生の受入れが中止され、また4月から新規に在籍する予定だった研究生や大学院生などでは落ち着いた状況で日本語の受講まで考えられなかったためと思われる。留学生の在籍が回復した秋～冬学期にはJB100 の受講者数も回復したが例年よりは少なかった。JB200 とJB300 については、春～夏学期・秋～冬学期とも微減にとどまっている。すでに、在学している学生で同レベルの日本語を受講する学生がいたことと、秋～冬学期には研究生や短期留学生等の受入れが回復したことがその要因と見られる。

下記のように授業はすべてオンラインで実施された。春～夏学期については、1つのクラス（JB200 トラック 2）以外は学生は全員研究室や自宅など国内での受講をした。秋～冬学期については、いずれの授業でも学期当初はかなりの数の学生が海外からの受講となっていたが、上述の日本語集中コースや国際交流科目の場合と同様に学期中に五月雨式に来日し、2週間の待機期間中も含めて受講を続けた。

② 授業の実施状況

表に示した計11科目ではいずれにおいてもオンラインミーティングソフトを使った同時双方向授業を基本として実施した。授業の実施時間も、一部海外からの受講学生の場合に時差のために不便な時間となることもあったが、通常の開講時間で授業を実施した。その他に、オンデマンドで音声同期PPT教材やワークシートなどを各クラスで計画的に提供している。一部のクラスで一部はオンデマンド授業も実施された。

③ 今後の課題など

基礎段階のJB100とJB200については、コースで活用するリソースとして音声と同期したPPT教材をセンターとしてすでに制作し、対面の授業で活用していた。それを利用して、コーディネータが急遽授業で配信するためのタスクカードを制作した。タスクカードは、必要な指示（英語による）とダウンロードのためのリンクを示したもので、JB100とJB200の各トラックで授業資料の重要な部分として活用された。授業担当の教員は従来より同PPT教材を活用した授業実践を行っていたので、急遽オンライン授業となった状況にも比較的混乱なく対応することができた。

その他の課題はオンライン授業実施上の課題で、上述の国際交流科目の場合とほぼ同様である。

(4) 全学共通教育

国際教育交流センターが共通教育に提供する日本語関係科目は、当初は5月連休明けからの対面授業の可能性を模索していたが、大阪大学および全学教育推進機構・マルチリンガル教育センターの方針により、すべて遠隔授業で行うこととなった。

オンラインミーティングソフトを使った同時双方向授業が半数強、残りがオンデマンドや課題提出型授業でスタートしたが、6月ごろからすべて同時双方向授業となった。

共通教育全体としては、その後、実験や実技を中心に対面で行われる授業も徐々に増えてきたが、国際教育交流センターの提供する科目は、年度を通して遠隔で行った。

遠隔授業の実施にあたって、学生のネット環境の不備や授業運営上の困難が懸念されたが、特に大きな問題はなく、授業に対する不満等も聞かれなかった。また、受講者数にも例年と比較して大きな変化はなかった。

(5) 学際融合教育科目

学際融合教育科目は、5月以降の対面授業の可能性を模索しつつ4月の授業開始を2週間遅らせて遠隔授業でスタートした。しかし、その後の新型コロナウイルスの感染状況により、春～夏学期および秋～冬学期のすべての授業を遠隔で行うこととなった。

授業は、Zoomを利用した同時双方向型あるいは同期と非同期（課題提出）を組み合わせる形で実施された。

なお、国際教育交流センターが提供する学際融合教育科目のうち、上級専門日本語科目の一部は留学生日本語選択コースの科目と合同で実施されているが、とくに秋～冬学期は選択コース科目の履修者数が例年より増加した。この背景としては、すべての授業が遠隔となったために教室移動の手間がなくなったことや、登校が難しくなったことで所属研究室での活動の比重が例年より低下したために、本科目を履修しやすくなったことがあるように推察される。

3. 短期留学交流関係

2020年度はコロナに始まりコロナに終わった年になった。そして同時に短期プログラム研究開発チームとしては、現場に割く予定であったエフォートが霧消し、多くのプログラムを用意していたにもかかわらず、そのほとんどについて、実施を見送ったり、変更を余儀なくされたる残念な年でもあった。

またチームとして特に留意したのは、仕事を失い、経済的に苦しい立場に陥った方々も多かった中、大学での自分たちの働き方が一般社会における「常識」のあり方と乖離をしないように、という配慮だった。

そのため現場の仕事が失われていく一方で、その後始末などに追われるだけではなく、対外的に説明のつく方法で、コロナ後を見据えた仕事を自ら創り出し、将来を見据えた企画や調査といった結果を出すことに力を注いだ一年間となっている。例えば、全国の大学や学生等を対象とした調査の実施などに取り組み、結果として、チーム全体としての外部資金獲得などにも結びついている。

国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）についてはKidZania 甲子園と協定を結んで「インターンシップ」を導入することで準備を進めていたものの、KidZaniaの運営自体等が難しいという状況下で休業となってしまった。同様に阪大生協やホテル運営会社（共立メンテナンス社・YOLO Japan 社、LCA 小学校）などと連携予定であった夏のインターンシッププログラム ExPERT（Extension Program for Education in Real-world Trainings）や、例年 UCEAP や豪州の協定校と連携してきた日本語集中プログラム J-Ship（Japanese Short-term In-session Program）についても、一旦「お休み」になっている。それらに加え、2020 年当初に学外に教室を設けて学生を受け入れていた UMOS（University Malborne Overseas Study）プログラムや春休みにおこなわれていた超短期プログラムについても、国境を越えた人の移動ができないために中止されている。それに代わって、規模は小さいながらも 2 単位を発給するオンラインでの代替プログラムを急遽実施して、本学の授業等に興味を持つ学生をつなぎ止めている。

派遣についても夏休み、春休みのプログラムは軒並み中止となった。ただしモナシュ大学との共同での派遣プログラムへの参加者については、単位を発給し、コロナ禍の非常時でもグローバル志向の学生からの意欲の芽を摘まない努力を継続してきました。留学を希望する学生たちへの相談業務は、オンラインも駆使して学生たちの悩みを聞くとともに、留学を中止したり中断を余儀なくされた学生に対し、その不安を和らげるべく、希望者に対して個別の面談を実施している。

緊急避難的にオンラインに移行するだけでなく、ポストコロナ期に向けて、オンラインの利点と限界を見極める、そのためのデータと経験値を蓄積するための一年になった。

(1) 受入れ

① OUSSEP プログラムにおける新型コロナ・ウィルス感染症対応

新型コロナウイルス感染症の流行により、本年度は OUSSEP 学生の受け入れに影響があった。春～夏学期は新規受け入れの中止となり、辞退者が 42 名、新規受け入れが 0 名、2019 年度秋～冬学期の継続生が 19 名、継続中止者が 4 名、2020 年度春～夏途中帰国者（母国にてオンラインにてプログラムを受講）が 2 名であった。秋～冬学期に関しては受け入れは再開したが、プログラム辞退者が 17 名、新規入国者が 23 名、母国にてオンラインにてプログラムを受講した学生が 4 名であった。また、秋～冬学期の学生の受け入れ再開に伴い、学生にきめ細かなサポートを提供するため、学生の個別面談を 2 度オンラインにて実施・提供した。

プログラム運営や授業については、大学の活動基準に従い授業はオンラインもしくはハイブリッドの授業を実施、毎月実施している OUSSEP アセンブリーもオンラインにて実施した。各実施日の参加者数は以下の通りである。

実施日	4/7	5/14	6/11	7/16	12/8	1/18
参加者数	19	13	14	6	12	8

また、OUSSEP の修了要件である広島・宮島への研修旅行の現地見学は中止となったが、代替としてのオンライン研修を学生に提供した。

② Winter Online Japanese Course

夏J-ShIPおよび冬J-ShIPの実施が中止となり、超短期日本語プログラムとして初の試みとなるオンラインプログラムを開発した。

募集にあたり、授業の一部を紹介した動画とコーディネータ、日本語担当教員、大阪大学の日本人学生サポーターによるプログラムの紹介動画を作成した。

プログラム実施期間は、2021年2月1日(月)～2月19日(金)の約3週間で、中級レベル終了(JLPTのN3)程度の日本語能力を獲得させることを目的とし、計30コマの集中的な日本語教育を行った。

受講は10名(モナッシュ大学6名、ソウル神学大学4名)で、全員が非常に高いモチベーションを保ちつつ、所定の課題を達成し2単位を取得した。学生アンケートでは「大阪大学で日本語を学びたい」、「コロナが終わったら、みんなと大阪でもう一度会いたい」との声もあり、本プログラムを通して、日本語能力の向上に加え、クラスメートとの良好な関係が構築されたことがうかがえる。受講生全員が日本語の上達に満足したと回答し、高い評価を得た。

(2) 派遣

① 派遣学生の書類選考、オンライン面接

新型コロナウイルス感染拡大により、2020年度の大学間交換留学派遣は全て中止となったが、学生の留学に対する興味・関心は引き続き高く、大学間交換留学応募数には影響が出ていない状態である。2021年度大学間交換留学には139名の応募があった。学生の選考に関しては、例年書類選考及び対面にて面接を実施していたが、本年度はオンラインにて面接を実施し、学生の選考を行った。

(詳細は、VIII. 海外派遣留学支援 3. 大学間交換留学者数を参照)

② オンライン海外留学相談

2020年度は、SkypeとZOOMを用いて、「教員による留学相談」および「交換留学経験学生による留学相談」を実施した。3月末から1週間程度で、3つのSkypeアカウントの作成、オンライン留学相談のシュミレーション、オンライン相談に対応した案内チラシの作成、相談担当学生へのオンライン勤務管理の指示等を行った。細心の注意を払いながら迅速に対応した結果、大きな混乱もなく、オンラインによる留学相談を実施することができた。オンライン相談には、移動の必要がなく、学生と資料を共有しやすいというメリットがあった。しかし、昼休みに大学にいる学生にとっては、アクセスポイントや落ち着いて相談する場所を探すことが難しいというデメリットもあった。そのため、2021年度は、対面とオンライン両方の留学相談を実施し、より多くの学生のニーズに応えられるよう計画を進めている。

(詳細は、VIII. 海外派遣留学支援 5. 海外留学相談を参照)

③ 留学予定であった学生への個別相談

新型コロナウイルス感染症の流行により、交換留学プログラムが延期・中止となった。この状況を受け、93名の交換留学内定学生が延期・辞退・再応募の判断を迫られ、担当者への連絡が集中したため、個別にオンライン相談会を実施した。

(詳細は、VIII. 海外派遣留学支援 5. 海外留学相談(3)を参照)

④ オーストラリア・モナッシュ大学春季語学研修(オンライン)

本年度は対面による語学研修が中止となったが、代替プログラムとして、オーストラリア・モナッシュ

大学春季語学研修がオンラインにて実施され、12名の学生が参加した。また本プログラムの参加者の学びを最大限に引き出すため、事前・事後研修を実施した。

(詳細は、VIII. 海外派遣留学支援 1. 海外研修・異文化体験プログラムを参照)

(3) Project HELP!

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、HELP!メンティー向け説明会、HELP!オリエンテーションおよびブリティッシュ・カウンシルによるIELTS研修が全てオンラインで実施された。メンタリングは、学内の活動基準に合わせて、春～夏学期は全てオンラインで実施させ、秋～冬学期は対面とオンラインを併用可とした。オンラインによるオリエンテーション準備のために、3月にZOOM講習を受講し、IELTS研修、メンターオリエンテーション、メンティーオリエンテーション、顔合わせオリエンテーションについても全ての計画の立て直しに多くの時間を費やしたが、迅速な対応により、全てのオリエンテーションを問題なく遂行することができた。

参加者からは、オンライン英語学習の難点として、交流が難しい点と発音が聞き取りにくい点が挙げられたが、最終的には途中でドロップアウトする参加者もおらず、修了率100%で2020年度のProject HELP!を締めくくることができた。

さらに、外部機関と連携したHELP!+についても、3つのプログラムの実施に協力した。アークスリー主催の中高生対象の「夏季異文化学習プログラム」(8月)は、メンター経験のある留学生の派遣が決まっていたが中止となった。しかし、株式会社甲南学園サービスセンターと甲南高校による「グローバル・スタディ・プログラム『国内留学特別プログラム・対面セミナー』」や、アークスリー主催による小中学生対象の「留学生との英語体験学習」にはHELP!経験学生を派遣し、これまでとは形を変えた新たなHELP!+を実施した。このように、パンデミック状況下であっても、学外連携・地域貢献の取り組みを積極的に行い、国内の国際交流を促進する活動に従事した。

(4) 関連業務

① 国際交流科目を対象とした授業評価アンケート

毎学期実施している国際交流科目を対象とした授業評価アンケートについても、パンデミックの影響により多くの対応を迫られた。まず、2020年4月の緊急事態宣言発令により、全ての国際交流科目がオンラインとなり、通常の授業が実施できなかったため、これまで毎学期実施していた中間アンケートを中止とした。そして、秋～冬学期も引き続き、担当教員の負担軽減のために期末アンケートのみを実施することとし、希望する教員にのみ中間アンケートを実施することとなった。また、授業アンケートの「実施要項」については、同期／非同期、両方の授業形態に合わせたインストラクションを考え、作成し直した。

② 国際交流科目担当教員及びTA予定者対象オリエンテーション並びにFD研修

国際交流科目担当教員及びTA予定者対象オリエンテーション並びにFD研修も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンラインにて実施した。春学期のFD研修は4月8日(金)に実施、11名の参加者があり、秋～冬学期のFD研修は9月28日(月)に実施、8名の参加者があった。(詳細は、V.国際教養・専門複合型プログラム 5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組みを参照)

③ 「新型コロナ流行と留学事業」に関する全国アンケート調査の実施について

4月および7月に留学生教育学会主催、大阪大学国際教育交流センター短プロチーム運営、および友好諸団体協力の上で「新型コロナ流行と留学事業」に関するアンケート全国調査を実施した。4月のアンケート調査では、受け入れ業務に関わる教職員102名、派遣業務に関わる教職員76名、日本で学ぶ外国人留学生552名、留学予定や中断の日本人学生等317名、7月のフォローアップ調査には、大学機関等より113の回答があり、多くの方々にアンケート調査にご参加いただいた。常に変わりつつある状況に、交換留学・短期留学プログラムを始め、国際教育プログラム等の運営がどう対応していくのか、また教職員や学生の意識はどう変化していくのか、今後も引き続き調査をしていく予定である。

〈本調査の学会発表及び執筆〉

- ・石倉佑季子・中野遼子・近藤佐知彦「COVID-19 状況下での留学に対する学生の意識」第25回留学生教育学会研究大会，オンラインによる開催，2020年9月19日
- ・中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦「COVID-19 による日本の派遣・受け入れ留学への影響～5月と7月調査の比較分析を中心に～」第25回留学生教育学会研究大会，オンラインによる開催，2020年9月19日
- ・Yukiko Ishikura, Ryoko Nakano, Sachihiko Kondo (2020) COVID-19 and its impact on study abroad in Japan, JAISE Rapid Communication on International Student Education vol.1, no.1
- ・中野遼子，石倉佑季子，近藤佐知彦（2020）「留学交流へのCOVID-19の影響～7月調査の回答を中心に～」ウェブマガジン『留学交流』，（114）（pp. 26-42）
- ・中野遼子，石倉佑季子，近藤佐知彦（2020）「COVID-19による日本人学生の派遣留学への影響～日本人学生の声をを中心に～」ウェブマガジン『留学交流』，（112）（pp. 44-57）

4. 留学生支援・交流関係

新型コロナウイルス感染拡大により、2019年度末の時点で、例年4月に開催される新入留学生向けキャンパスツアー及びウェルカムパーティーの中止を決定した。併せて新入生歓迎のための学生交流団体による各種イベントも中止され、日本語カフェは5月以降に延期された。また春～夏学期は、大阪大学ホストファミリープログラム及び国際理解教育プログラムを実施しないこととした。さらに採用予定だった新規来日留学生のための生活サポーターの活動は中止となり、研究室訪問も見送られることになった。

(1) 留学生の相談対応体制

4月7日の緊急事態宣言後（大阪では5月21日に解除）、大学の活動基準に従い、IRISスタッフは在宅勤務とIRIS勤務を組み合わせたローテーションによるシフト制となった。3キャンパスIRIS（吹田IRIS、豊中分室、箕面分室）は、4月14日から5月6日の期間中、閉室された。学生からの問い合わせにはIRISスタッフがメールで対応した。また留学生へは、緊急連絡先として「インバウンド緊急対策支援サービス（日本アイラックサポートセンター）」を案内した。さらに留学生向けに新型コロナウイルス関連の情報をまとめ、CIEEウェブサイトに掲載した。

5月13日には、IRISスタッフによる「留学生向けZOOM相談」が開始された。平日12:00-17:00の間の20分間の事前予約制で実施されたが、6月になると相談時間が11:00-16:00の間の30分間の事前予約制へと変更された。6月4日には、IRISスタッフとの「ZOOMおしゃべりタイム」も始まった。こち

らはZOOM相談とは異なり事前予約は不要で、学生は平日16:00-17:00の時間帯に自由にオンライン参加することができる。このZOOMおしゃべりタイムは年度末まで継続された。

さらにこの時期、IRIS開室に向けてさまざまな飛沫感染防止対策が講じられた。3キャンパスIRISにはサーキュレーター、非接触体温計、飛沫感染防止パネル、空気清浄機、加湿器などが導入された。また新型コロナウイルスのクラスター発生時に備え、入室者には氏名・連絡先・IRIS滞在時間の記入を義務付けることとした。さらに3キャンパスIRISの収容人数が通常の5割程度となるよう座席配置を変更した。

6月11日には3キャンパスIRISにおける留学生の対面相談が10:30-17:00の時間帯で再開された。来室時にマスク着用が義務付けられ、勉強や休憩のためのIRIS利用は不可とされた。6月22日になると、感染対策の上、各キャンパスIRISでの勉強や休憩、飲食も可となった。さらに7月1日にはIRIS開室時間が通常の時間帯となった(吹田8:30-18:00; 豊中10:30-17:00; 箕面10:30-17:00)。これ以降、IRISは年度末まで例年通り開室された。

(2) 交流イベント関連

① アドバイジング研究チームによるイベント

全学教育推進機構により、今年度から阪大ウェルカムチャンネルが開始された。これは新入生向けのオンラインコンテンツであり、さまざまな大学紹介のコンテンツを動画としてYouTubeより視聴することができる。なかでも国際教育交流センターは、学内の留学生サポートや国際交流団体紹介のコンテンツ収録に協力した。内容としては、国際教育交流センター長の有川友子教授が全学教育推進機構の大山牧子助教から、大阪大学における留学生コミュニティや国際交流についてのインタビューを受けながら、国際教育交流センターやIRISの役割、さらには大阪大学ホストファミリープログラムや国際理解教育を紹介するという形式で進められた。また動画の後半では、B.S.P.及びOUIAメンバーが、それぞれの活動内容や活動予定を紹介した。

また7月初旬、2020年春から初めて大阪大学で学ぶ留学生(研究生・非正規生を含む)を対象として、国際部との共催による新入留学生歓迎会を開催した。(7月6日:吹田キャンパス・英語;7月7日:豊中キャンパス・日本語)

一方、2020年度末には、コロナ禍のストレスに対処するために、キャンパスライフ健康支援センターとの共催によるイベント「留学生向けのストレス解消のヒント」をハイブリッド型で実施した。(3月19日:豊中キャンパス・英語;3月30日:吹田キャンパス・日本語)

なお両イベントについては、その詳細を本年報のトピックスにまとめた。

② 学生交流団体による交流イベント (B.S.P.とOUIA)

例年4月に実施される新入生歓迎イベントは、今年度は軒並み開催を見送ったが、その後、B.S.P.及びOUIAは、大阪大学の活動基準やIRISの開室状況に合わせて、さまざまなオンラインあるいはハイブリッド型イベントを企画した。

まず4月末から5月はじめにかけて、豊中B.S.P.がZOOMによるおしゃべりタイムを企画し、新入留学生と学部先輩学生との交流を図った。その後、4月22日より各キャンパスB.S.P.による日本語カフェ及びEnglish Caféが、平日昼休みの異なる曜日にオンラインで実施された。一方、対面による日本語カフェは、8月5日に吹田B.S.P.により実施された。その後、10月以降の秋～冬学期は、各B.S.P.が曜日ごとにそれぞれのキャンパスでオンライン形式や対面形式により日本語カフェを開催した。

秋～冬学期になると、日本語カフェ以外にも、B.S.P.による様々な交流イベントが各キャンパスで実施された。遠足やパーティー、日本の伝統行事に関連したイベントは、いずれも新型コロナウイルス感染防止のために3キャンパスIRISの入室者数や参加者数を制限しつつ、対面形式で実施された。なお11月中旬から12月中旬にかけては、府内の新型コロナウイルス感染拡大を受け、イベントによってはその開催が見送られることもあった。

OUISAについては、例年実施しているOUISA Hourを、今年度は7月以降に吹田IRISでの対面とZOOMによるオンライン参加というハイブリッド型で開催した。一方、秋～冬学期から新しく始めたアラビックタイムは、吹田IRISで対面により隔週で実施された。

(3) 地域との連携

大阪大学ホストファミリープログラム（OHP）と国際理解教育プログラムだが、春～夏学期には両プログラム共に実施されなかった。秋～冬学期には、OHPが継続して中止となった一方、国際理解教育プログラムは、オンライン形式を希望する学校に限って留学生との交流の機会を提供した。

(4) 留学生就職支援

例年、3キャンパスで開室している教員による「留学生のための就職相談コーナー」は4月から8月31日まで閉室となった。5月21日まではメール対応のみとなり、5月22日よりZOOMによる相談対応を導入した。対面による就職相談は、9月1日より3キャンパスで再開した。メール及びZOOMによる就職相談はその後も継続した。

例年、吹田キャンパスと豊中キャンパスで実施している「留学生のための就職対策講座」は、今年度は10月21日から1月25日までの全8回をすべてオンラインで実施した。また期間限定でYouTubeでも公開した。

5. サポートオフィス

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、日本への入国が認められない状況が長く続き、またすでに在留している外国人の本国への帰国が困難になるなど、在留手続きにおいては各部局や外国人留学生、研究者等から多くの問い合わせが寄せられた。通常時とは異なる在留手続きについて、出入国在留管理庁や外務省に適宜連絡を取り学内に通知するなど、情報提供に努めた。

また、住居支援においては、学外の宿舎を探している留学生が自分のニーズに合った物件を見つけられるよう、アパートの「オンライン内覧」を開始した。事前に予約をすれば、スマートフォンから希望の物件を内覧することができ、渡日後の14日間の待機中でも広範囲で部屋を探すことが可能となった。

Ⅱ. 本年度のトピックス

1. 日本語・グローバル理解演習（JGU600/JGU500）のラインナップが完成

2016年度から2019年度の年報で詳しく進捗状況を報告してきた「日本語・グローバル理解演習」(Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600/JGU500) 科目の計画が実現し、2020年度秋～冬学期には、それぞれ3科目ずつ計6科目を開講・実施し、ラインナップが完成した。

「日本語・グローバル理解演習」開講の背景や理念・概要・実施等については、年報（2016年度pp.1-2、2017年度pp.1-3、2018年度p.4、2019年度p.4）および紀要（2018年度pp.29-34）を参照願いたい、簡単にその考え方を振り返っておく。

大阪大学では、2019年度に共通教育・教養教育改革を行い、国際性涵養教育の理念の下に外国語教育改革を実施した。全学の留学生（インターナショナルカレッジ学生を中心とする正規学生と特別聴講学生）に対する日本語教育も、この外国語教育改革と理念や方向性を一にしながら進め、同年度から実施してきた。

外国語教育改革においては、狭義の教養教育と国際性涵養教育の2種類を、広い意味での教養教育と位置づけた。その教育方針に従えば、一定の実用的な日本語力を習得した後の日本語教育は、国際性を涵養するグローバル時代の日本語教育として、日本の文化の中のさまざまな事象やテーマを主題的にとりあげたり、人類全体の歴史的あるいは現代的諸問題を扱ったりしながら、それをグローバルな視点から体系的に理解することを通して、内容と言語の共促進を図る教育を行うことが適切だと考えた。そのような日本語教育を通して、日本のさまざまな側面や世界・人類全体の諸問題について、広い視野で語りあえる外国出身の教養ある日本語ユーザーを育成することを目的とした。

以上のような方針に基づいて2016年度から順次準備を進め（2018年度年報p.4参照）、2019年度秋～冬学期から以下のように実施してきた。

- ☐ 2019年度秋～冬学期：JGU600（3科目）
- ☐ 2020年度春～夏学期：JGU600（3科目）
- ☐ 2020年度秋～冬学期：JGU600（3科目）・JGU500（3科目）

2021年度以降も、JGU600（3科目）・JGU500（3科目）の計6科目態勢を継続していく予定である。

2020年度開講科目のテーマは以下の通り。

- ☐ 春～夏学期
JGU600：「外国人・移民・難民」、「社会と進化系交通サービス」、「言語と思考の関連性」
- ☐ 秋～冬学期
JGU600：「生命倫理」、「ヒューリスティックな知」、「社会におけるプロスポーツの存在意義」
JGU500：「人権・労働・環境」、「和歌と俳句」、「日本社会における言語と教育」

2020年度は、コロナ禍に伴い、短期留学生のほとんどが来日できなかつたり、授業を遠隔で行う必要があったりするなど多難な年であった。春～夏学期の1科目には受講者がおらず、閉講を余儀なくされた。

そんな中、その他の8科目には、各クラス数名程度の受講者があり、来日できない学生がアジアやヨーロッパ各国からも参加するなど、少人数ながら主体的な学習に取り組むことができた。

受講者は、それぞれのテーマについて教員の講義を受けて知見を深めた後、調査やディスカッションを行い、その結果をまとめて発表した。それをもとに、フィードバックや討論を実施することを通して、さらに知識を深めたり新たな視点を身につけたりした上で、その経験を次の調査・発表に生かしていった。そして、その過程で、ややアカデミックな日本語による書記・口頭言語能力を伸長させるとともに、プレゼンテーション能力を向上させることにも成功した。学期の最後には、調査や発表から得られた考察を各自レポートにまとめて提出できる程度の、テーマへの理解と書記日本語力を身につけた。

以下、一例として「人権・労働・環境」を取り上げた授業（JGU500）で発表されたタイトルを記すと、「LGBT／SOGIに関する世界各国の歴史・法律・考え」「世界のエネルギー問題の現状と将来への展望」であった。いずれも、各国の歴史や法制度、国民感情等に広く目配りして比較・検討しながら、問題点や今後の課題などについて種々の資料をもとに考察した上で、グループとしての意見を述べる、興味深いものであった。ディスカッションの過程では、出身国や他国の法制度や文化・習慣等、あるいは、各自の持つ倫理観や科学観等の相違から、種々の驚きや発見もあり、一連の活動は、自身の文化や価値観を相対化しつつ他者のそれを尊重する多文化共生能力の涵養にも役立ったと考えられる。

今後は、授業の進め方にさらに工夫を凝らすなどして、学生がより主体的に活動できるよう意を用いるとともに、適宜テーマを入れ替えることにより、学生の興味・関心に配慮しつつ、新たな気づきを促す授業を展開していきたい。

2. OUマルチリンガルプラザの開設

2020年4月、豊中キャンパスに「OUマルチリンガルプラザ」という名称のセルフアクセスラーニングセンター（SALC）が開設され、大阪大学で授業展開を行う25言語の学習に関する情報提供や学習支援を実施するはこびとなった。OUマルチリンガルプラザの設立趣旨は、英語・日本語をはじめ多言語の自律的な学習支援を行うこと、留学生や外国人研究員と日本人学生とが多様な国際交流を図ることのできる環境を醸成すること、ウェブサイト上で大阪大学の学内の言語学習サポート情報を一元化すること、言語に関する相談業務を行い、また、自然な環境で目標言語が使える機会を提供すること、目標言語や文化への知識・理解を深めるために、ワークショップなどのイベントを開催すること、である。OUマルチリンガルプラザは、概算要求プロジェクト「『キャンパスライフ一貫型』言語教育によるグローバルプレゼンスの確立」の取り組みのひとつで、実施主体である大阪大学マルチリンガル教育センターに加えて、言語学習に関係する複数部局（外国語学部、工学研究科、サイバーメディアセンター、国際教育交流センター）が協力する形で運営されている。国際教育交流センターはこの中で日本語学習に関する支援を担当し、学習アドバイジング、会話パートナーとの会話練習、日本語学習に関する情報提供等を行っている。

2020年4月に開設されたものの、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により大学への入構が制限されたため、施設への立ち入りや対面での対応など、実質的な業務の開始が可能になったのは2020年10月のことであった。豊中キャンパス・サイバーメディアセンター教育研究棟4階の約80㎡のスペースには、個人やグループで使える学習スペース、相談スペースがあり、参考図書（25言語）の閲覧、iPad、CDプレーヤーの利用が可能である。開館時間は10時から17時で、施設内にはコーディネーター2名（うち1名は国際教育交流センター教員）、および大学院生のTA（ティーチングアシスタント）15名が利用者の



写真1 OUマルチリンガルプラザ入口



写真2 施設の一角

対応を行う。

日本語学習支援に関して、2020年度は言語学習アドバイジングと会話練習パートナーとのセッション、そしてよろず相談窓口という3つの取り組みを実施した。言語学習アドバイジングでは、学習者はアドバイザーのサポートを得ながら日本語学習の目標を明確にし、目標に到達するための教材や学習方法の選定、具体的な学習計画の検討といった一連の過程を通じて自己主導型学習を進めていく。利用者は、日本語の授業を履修することができない外国人研究員、授業外で自分だけの目標に沿った計画を立てたい留学生など、様々である。会話練習パートナーとのセッションでは、大学院生のTAが会話練習パートナーをつとめ、申込者が準備した話題をもとに、1対1で20分間のセッションを行う。利用者は大学院生、研究生、理系文系と様々で、レベルも日本語の学習をはじめたばかりの学生から上級の学生までと幅広い。よろず相談窓口は、レポートや発表資料などの日本語を日本語教育の専門家に相談できる窓口で、利用者があらかじめ送ったレ

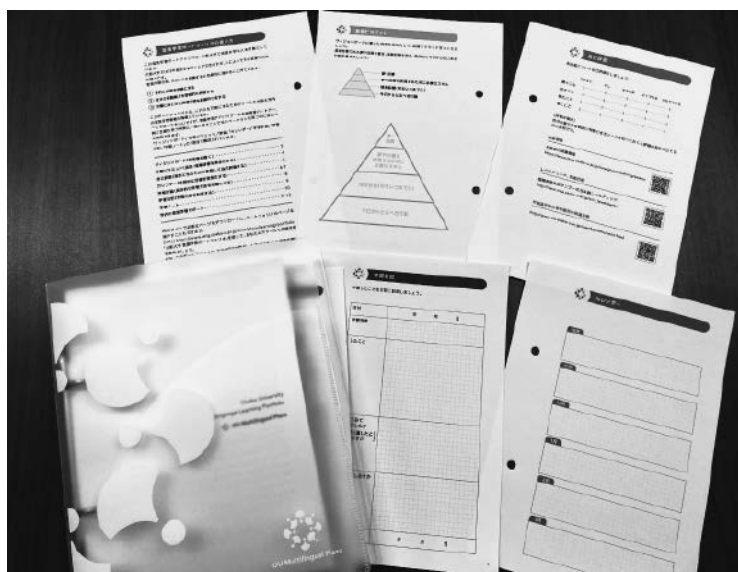


写真3 言語学習ポートフォリオ



写真4 対面の会話練習の様子



写真5 オンライン会話練習の様子

ポート等についてのフィードバックを30分のセッションで受けるというものである。授業のレポート、ゼミの発表レジュメ等について、学習者はセッションを通して書く過程を振り返り、文章を完成させていく。これらの取り組みは当初対面での実施を予定していたが、COVID-19の感染拡大状況を鑑み、オンライン（Zoom）でも対応することとした。これによって、キャンパスや居住地を問わず、どこからもサービスが受けられるというメリットも見られた。また、今年度、施設を訪れた学習者が効果的に自己主導型学習を行えるような「大阪大学 言語学習ポートフォリオ」を開発し発行した。

今後はウェブサイトやKOANを通じて広報を行い、日本語学習のサポートを必要とする阪大構成員に広く情報を届けることが喫緊の課題である。既に提供しているサービスの充実をはかるとともに、言語学習ポートフォリオを活用したワークショップ等のイベントの実施、研究活動に必要なアカデミックな日本語に関するサポートの導入など、さらなる展開が期待されている。

3. CIEE 研究協議会シリーズ—多文化交流の最前線

CIEE 協議会シリーズは、例年3つの協議会のシリーズとして行われてきたが、今年度については、コロナウィルス感染予防の観点から2つの協議会が中止となった。

(1) 2021年2月8日（月）：国立大学法人留学生指導研究協議会

主題：「COVID-19 禍の留学生の受け入れの状況と今後：パートII」

毎年、留学生指導担当教員等の方々にお集まりいただき標記協議会を開催している。今年度の本協議会はZOOMによるオンライン形式で開催された。まず、文部科学省の小笠原高等教育局学生・留学生課課長補佐（兼）留学生交流室室長補佐から「留学生受入れの推進に関する予算案と政策等について」のご説明があった。その後4つの分科会（「1. 学生交流／地域交流（正課外の交流活動）」「2. 留学生相談・指導・カウンセリング」「3. 教育・授業・留学交流等」「4. 生活支援（宿舎・経済面等）／就職支援」）に分かれてオンラインディスカッションを実施した。分科会での討議及び全体討論を通して、留学生への多様な支援について協議が行われた。開催要領は以下の通り。（出席者：112名、学内24名・学外88名）

挨拶（13：00－13：10）

I. 留学生受入れに関する施策（13：10－14：00）

1. 説明
2. 質疑応答

II. 分科会（14：00－15：00）

1. 「学生交流／地域交流（正課外の交流活動）」
2. 「留学生相談・指導・カウンセリング」
3. 「教育・授業・留学交流等」
4. 「生活支援（宿舎・経済面等）／就職支援」

III. 各分科会からの報告と全体討論（15：10－15：40）

オンライン懇親会（16：00－17：00）

(2) 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会

例年、大阪大学各国・地域留学生会の活動とそれぞれの文化について学ぶとともに、参加者と一緒にボランティアとの懇談会を通して意見交換を行い、ネットワークのさらなる充実に資することを目的として実施している。今年度は、コロナウィルス感染拡大のため中止となった。

(3) 専門日本語教育研究協議会

毎年、大学における日本語学習・教育についてさまざまなテーマを定め、学内外から講演者を招いてテーマについて議論する。参加者間で活発な質疑応答および全体討論が行われ、大学での日本語教育の方向性についてのアイデアを共有することを目的に開催されている。今年度は、コロナウィルス感染拡大のため中止となった。

4. 日本語よろず相談窓口

2020年4月に開設したOUマルチリンガルプラザにて、留学生や外国人研究員がレポートや発表資料等の日本語について相談できる「日本語よろず相談窓口」を開設した。

実施期間は2021年1月5日(火)～2月4日(木)の火曜日と木曜日で、1日2セッション行った。セッションは、COVID-19の感染拡大状況を鑑み、オンライン（Zoom）で行った。

【概要】

1. 利用者は希望日の2日前までにレポート等の日本語チェックを希望する文章を添付し予約を行う。
対象とする文章は、
 - 授業のレポート、作文
 - プレゼンテーション用スライド、発表原稿
 - 卒業論文、修士論文の一部などで、A4サイズ、5ページまでの文章が対象となる。
2. セッションは30分間Zoomで行う。
利用者は15名であった。

	実 施 日	利用者所属	内 容
1	1 月 5 日 (火)	言語文化研究科 M1	発表レジュメ
2	1 月 7 日 (木)	言語文化研究科 M1	発表レジュメ
3	1 月 7 日 (木)	言語文化研究科 M1	発表レジュメ
4	1 月 12 日 (火)	文学研究科 M1	論文の一部
5	1 月 12 日 (火)	文学研究科 M1	論文の一部
6	1 月 14 日 (木)	言語文化研究科 M2	発表レジュメ
7	1 月 14 日 (木)	経済学部 B3	レポート
8	1 月 19 日 (火)	言語文化研究科 M1	論文の一部
9	1 月 21 日 (木)	経済学部 B3	レポート
10	1 月 21 日 (木)	経済学部 B3	レポート
11	1 月 26 日 (火)	言語文化研究科 M1	発表レジュメ
12	1 月 26 日 (火)	言語文化研究科 M1	発表レジュメ
13	1 月 28 日 (木)	言語文化研究科 M1	レポート
14	2 月 4 日 (木)	言語文化研究科 M2	出願申請書の一部
15	2 月 4 日 (木)	言語文化研究科 M2	出願申請書の一部

日本語よろず相談窓口は、ただ日本語の添削を行うだけでなく、どのような意図で書いたか、これまでそのような文章を書いた経験があるか、などの質問を投げかけ、やり取りを通して、学習者自身の気づきを促し、書き手として成長できるような方法で実施した。利用者からは、「自信を持ってレポートを上げることができた。」「またこのようなサポートがあれば、利用したい」との声が聞かれた。

専門家 Zoom でレポート・プレゼン相談！

日本語よろず相談窓口

期間：1月5日（火）～2月4日（木）
毎週火曜・木曜 13:00～13:30、14:40～15:10

内容：日本語のレポートや、発表資料などの日本語チェックを日本語の専門家に相談できます。作文、レポート、プレゼンスライド・原稿、卒業論文、修士論文等の日本語でお悩みの方はぜひご利用ください。

- セッションは1回30分、Zoomで行います。
- A4サイズ、5ページまでの文章が対象です。

お申し込み方法：希望セッションの2日前までに、OUマルチリンガルプラザHP上の方法に従い、ファイル添付の上お申し込みください。

お問い合わせ：plaza@lang.osaka-u.ac.jp

HPはこちら↓



OU Multilingual Plaza CIEE

Let's improve your Japanese with experts via a Zoom session!

"Yorozu so-dan madoguchi"
will support your writing!

Tue. January 5th ~ Thu. February 4th
Tuesdays and Thursdays 13:00~13:30, 14:40~15:10

Service: Consult with a specialist about the Japanese grammar in your paper. We deal with the following types of papers (please note that we do not specialize in particular subjects): Japanese language class essay assignments, presentation scripts and slides, Graduation/Master's theses, etc.

- One 30-minute session will be held on Zoom.
- Writings up to 5 pages in size (A4) are eligible.

How to apply: Please apply at least two days prior to your desired session time by following the instructions on OU Multilingual Plaza's website with the text file attached.

Contact: plaza@lang.osaka-u.ac.jp

Check Website ↓



OU Multilingual Plaza CIEE

図1 日本語よろず相談窓口ポスター

5. ウェルカム阪大！新入留学生交流会

本学では、新型コロナウイルス感染拡大を受け、新学期よりオンラインでの活動が続いていたが、6月以降の大学活動基準の変更により対面での活動も徐々に開始された。このような状況下で、大阪大学で学ぶ留学生のために、国際教育交流センターは国際部と共催で「新入留学生交流会」を開催した。この交流会は、吹田キャンパス及び豊中キャンパスでそれぞれ7月6日、7月7日に開催された。また吹田キャンパスでの使用言語は英語、豊中キャンパスでは日本語だった。

交流会では、まず河原源太理事・副学長のご挨拶をいただき、次に新型コロナウイルスについて、朝野和典医学部附属病院教授よりご説明いただいた。さらにメンタルヘルスの基礎知識について、水田一郎キャンパスライフ健康支援センター副センター長・教授よりご講演いただいた。最後は、吹田キャンパスでは国際教育交流センターより魚崎典子特任准教授より、また豊中キャンパスでは岡本紗知准教授より、参加学生を交えてのやりとりがあった。

(参加者数：計 34 名)



写真：左上から時計回りに河原理事、朝野教授、水田教授、豊中キャンパスでの学生交流の様子、吹田キャンパスでの講演の様子

6. 留学生向けのストレス解消のヒント

新型コロナウイルスの影響等により、ストレスを抱えている留学生向けに、ストレス解消のためのヒントとなる情報を提供し、参加者同士の意見交換や交流の機会を作りたいという思いから、国際教育交流センターはキャンパスライフ健康支援センターと共催で「留学生のためのストレス解消のヒントについて」のイベントを開催した。このイベントは、豊中キャンパス及び吹田キャンパスでそれぞれ3月19日、3月



ストレス解消のヒントについて講演する水田教授



教員、参加者が同席して対面意見交換を実施

30日に開催され、実施形態はZOOMによるオンラインと対面を組み合わせたハイブリッド型で実施した。また豊中キャンパスでの使用言語は主に英語、吹田キャンパスでは日本語だった。

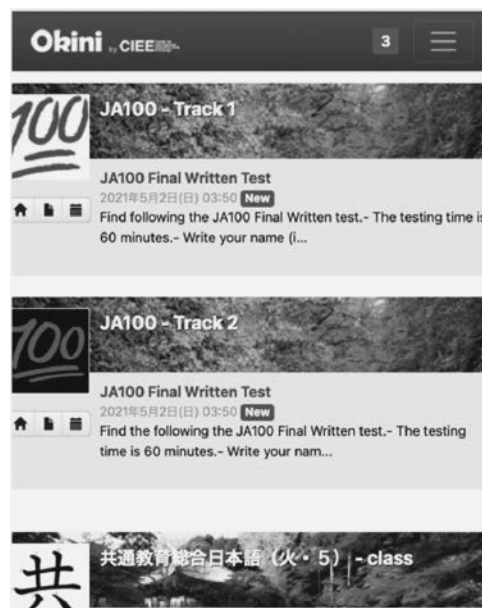
当日は、まず有川友子教授よりご挨拶をいただき、続いてコロナ禍のストレス解消法について、水田一郎キャンパスライフ健康支援センター副センター長・教授よりご講演いただいた。またその後は教員を交え、会場あるいはオンライン参加者同士で、ストレス対処に関するアイデアや経験を共有し、活発な意見交換を行った。
(参加者数：計 15 名)

7. 「大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保」による事業

今年度、令和2年度政府補正予算として文部科学省の要求として「大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保」が計上され、総額 27 億円が配分された (<https://www.youtube.com/watch?v=wV8Rypo23rk> 参照)。本センターでも、そのうち 462 万円の配分を受けたが、それらを学習管理システムとしての Okini の機能追加を中心に、遠隔教育における動画制作補助および翻訳補助にあてた。

本センターの教育においては、従来より複数教員のティームティーチングを行っていること、1 週間に数回のシリーズで行う授業が多いこと、さらに 3 つのキャンパスにおいて多様な学生を対象に数多くのプログラムを実施していることなど、学内の他の部局にはない教育体制をとっている。そのために、本センターにて開発し、2011 年度より、コミュニケーション支援のための独自の LMS/SNS システムである“Okini” (PC 用ウェブサイト、iOS および Andoroid アプリ) を開発し、本センターの教育科目のオンライン化に活用してきた。

今回のコロナ感染拡大の状況によって、多くの留学生の来日が不可能となったり、来日後もオンラインでの受講を余儀なくされたりする事態となったため、海外から履修する学生とも緊密につながる必要が生じた。そのため、Okini を遠隔授業においてさらに役立つよう最適化するべく、各種機能の改修・改善を行った。具体的には、基本システムを最新のプログラムに入れ替えて再構築するとともにユーザーインターフェースの刷新を行い、機能面では WYSWIG の改善、メッセージ機能の改善、課題提出・フィードバック機能の改善、記事・教材の再利用を容易にするための複製機能など、多岐にわたる改善をおこなっている。



上記のように、今回の状況下での同期型授業への対応と同時に、時差のある海外の受講生のニーズに対応するため、オンデマンドでの非同期型授業のリソースを制作する必要も生じたが、それを支えるための設備整備として、動画撮影、編集、配信を行うためのデジタルビデオカメラ、集音マイク、編集用PC、ソフトウェア、照明などの機材を購入し、秋冬学期以降のオンデマンド授業、およびブレンデッド授業のための教材制作にあてた。

さらに、令和元年度にマルチリンガル教育センターとの共同で立ち上げた「マルチリンガルプラザ」における「日本語よろず相談」事業にも配分した。「日本語よろず相談」は、コロナの影響等で来日が遅れ、日本語の授業が受講できなかった学生を対象に日本語の個別相談を受け、日本語能力の向上を図ったものであり、令和3年2月上旬に実施した。

以上のような事業の企画・実施により、2021年度以降も本センターにおいて遠隔授業が行われる場合にも、より手厚く実施できるようになった。

Ⅲ. 現 況

1. 運営形態

国際教育交流センターは、平成6年に設置された留学生センターが平成22年4月に発展的に改組してできた学内共同教育研究施設である。国際教育交流センターはその最高意思決定機関として国際教育交流センター教授会を置いている。国際教育交流センター教授会は、国際教育交流センター長（本センター教授）、国際教育交流センター専任教員9名、及び各研究科から選ばれた教授または准教授15名、計25名の本学教員で構成されている。本教授会において国際教育交流センターの業務と運営に関する重要事項が審議される。本年度も、例年同様、毎月1回（8月を除く）定例教授会が開かれた。

国際教育交流センター教授会の下には、総合計画委員会、評価委員会、財務委員会、教務委員会、広報出版委員会の5つの委員会が設置され、教授会構成員が委員となって、役割を果たしている。また、国際教育交流センターの具体的な運営に関する細目を検討したり連絡調整等を行ったりするために、国際教育交流センター教員連絡調整会議が毎月1回（8月を除く）開催されている。同会議は、センター長を含む国際教育交流センター教員15名全員（専任教員10名、特任准教授2名、特任講師2名、特任助教1名）及び国際部国際学生交流課の課長と課長補佐及び同課国際教育交流センター係が構成員となっている。この会議を通して、センターの運営や各種業務や行事の運営が円滑に行われ、また部門間の協力や連絡調整が有効に行われている。

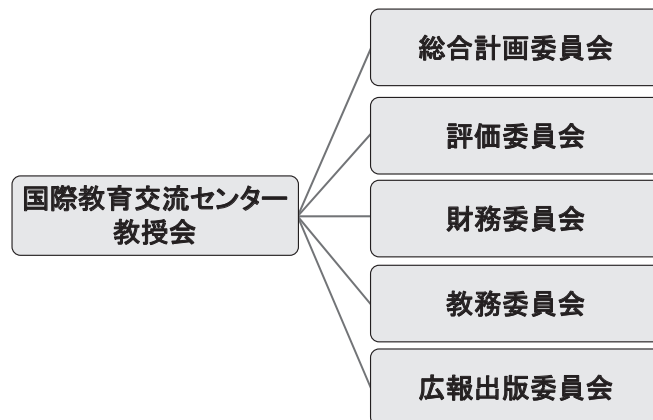


図1 国際教育交流センター教授会と各種委員会

2. 組織

国際教育交流センターは、交流アドバイジング研究チーム（教授1、准教授1、特任准教授1）、短期プログラム開発研究チーム（教授1、准教授1、特任助教1）、日本語教育研究チーム（教授3、准教授3、特任講師2、特任助教1）の3つのチームとサポートオフィスで構成されている。そして、教員を中心として、特任事務職員（交流アドバイジング研究チーム1、短期プログラム開発研究チーム2、サポートオフィス2）も参画して、実際の業務にあたっている。

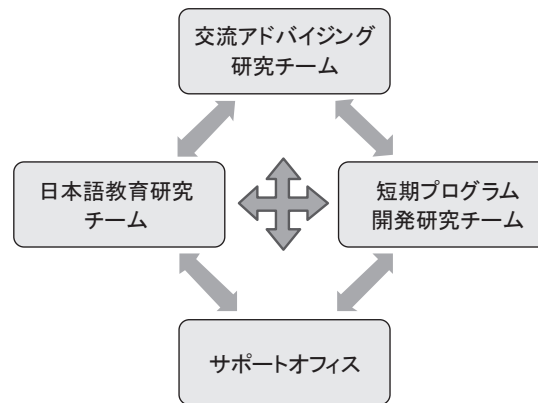


図2 国際教育交流センターのチームとサポートオフィス

また、各チームは必要に応じて相互支援・協力をしながら各種の業務に当たっている。センターが行っている主な業務は以下の通り。

教育	留学生受け入れ支援	海外留学派遣支援	地域・社会貢献	サポートオフィス
- 日本語研修コース - 留学生日本語プログラム - 国際交流科目 - 全学共通教育（日本語と多文化コミュニケーション） - 全学共通教育基礎セミナー - 大学院教育 - 大学院高度副プログラム、大学院高度プログラム - 超域イノベーション博士課程プログラム、未来共生イノベーター博士課程プログラム - 学部英語プログラムにおける日本語科目と教養科目 - 各種の超短期プログラム	- OUSSEP運営 - 超短期プログラムの開発と運営 - 留学生オリエンテーション - 留学生を対象としたカウンセリング - 受け入れ・派遣に関わるコーディネーション - 大阪大学留学生会（OUISA）との連携・支援 - Brothers and Sisters Program（BSP）の支援 - 留学生日本語スピーチコンテストの企画・運営 - 留学生のキャリア支援	- 短期派遣留学プログラムの開発と運営 - 海外留学相談・アドバイス - 海外留学・研修等危機管理オリエンテーション - 海外留学帰国学生と派遣内定者との交流会 - 海外留学帰国者スピーチコンテストの企画・運営	- 留学生交流情報室（IRIS） - 留学生支援ボランティア協議会 - いちょう日本語プログラム - ホストファミリープログラム - 公立学校教員初任者研修 - 国際理解教育への協力 - にほんごテーブル運営のボランティアグループの支援	- 新規来日留学生・外国人研究者等への情報提供 - ビザ取得手続き等各種手続きのサポート - 宿舍手配の支援 - 新規来日者オリエンテーション - 各種ハンドブックやホームページの作成・更新
研究活動				
- 日本語教育のカリキュラム・教材開発と日本語学習・教育支援システムの開発 - 多文化社会と留学生交流研究会の開催 - 留学生指導研究協議会等各種の研究会や研究協議会の開催 - 日本語教育に関する研究・開発、留学生教育、留学生交流に関する研究				

図3 国際教育交流センターの業務の概要

3. 教員、非常勤講師、特任事務職員等

※ 2020 年 4 月現在を基本とする。

センター長	有川 友子 (Ph.D、Education)
交流アドバイジング 教授	有川 友子
研究チーム 准教授	岡本 紗知 (Ph.D、Microbiology)
准教授	魚崎 典子 (特任、博士 (工学))
短期プログラム開発 教授	近藤 佐知彦 (Ph.D、Social Science)

研究チーム 日本語教育研究 チーム	准教授	石倉 佑季子（博士（人間科学））
	助教	中野 遼子（特任、博士（言語文化学））
	教授・副センター長	村岡 貴子（博士（言語文化学））
	教授	西口 光一（博士（言語文化学））
	教授	義永 美央子（博士（言語文化学））
	准教授	大谷 晋也（修士（言語文化学））
	准教授	難波 康治（教育学修士）
	准教授	西村 謙一（法学修士）
	講師	韓 喜善（特任、博士（言語文化学））
	講師	福良 直子（特任、博士（言語文化学））
兼任教員	助教	瀬井 陽子（特任、修士（文学）、2019年8月16日から）
	留学生受入れ	鄭 聖汝（講師、文学研究科）
	専門教育教員	安元 佐織（講師、人間科学研究科）
		EL BALTI BELIGH（准教授、法学研究科）
		勝又 壮太郎（准教授、経済学研究科）
		卓 妍秀（講師、理学研究科）
		藤田 清士（教授、工学研究科）
		寺井 智之（講師、工学研究科）
		中橋 真穂（助教、工学研究科）
		大住 めぐみ（助教、工学研究科）
非常勤講師		岡部 孝宏（講師、基礎工学研究科）
		伊藤 創、上田 安希子、上仲 淳、梅本 仁美、浦木 貴和、岡崎 洋三、
		岡田 亜矢子、小原 俊彦、蔭山 拓、菅 摂子、笹川 恵美子、住吉 秀紀、
		滝井 未来、田中 真衣、竹内 茜、畑中 香乃、花井 理香、半田 佳奈子、
		藤澤 好恵、松田 佳子、矢部 正人、山崎 深雪、山田 真知子
	招へい准教授	木戸 光子（筑波大学人文社会系 准教授、2020年4月1日-12月31日）
	特任事務職員	三好 絵美（留学生交流情報室）
		山下 雅世（短期チーム）、渡邊 由美子（短期チーム）
		北野 智恵（サポートオフィス）、ケリー 優子（サポートオフィス）
	事務補佐員	垣塚 保子（短期チーム）
留学生交流情報室 スタッフ		柏原 美佐緒（短期チーム）
		古株 亜季（短期チーム）
		山下 結加（サポートオフィス）
		勝矢 智子（日本語教育チーム）
		高森 洋志子（日本語教育チーム）
		杉本 莉恵（2020年7月31日まで）、山岸 美穂（2020年11月30日まで）
		大野 奈苗、網 ひとみ、村田 いづみ、岸邊 典子（2020年8月1日から）、
		桂田 敬子（2020年12月1日から）

Ⅳ. 留学生対象日本語プログラム

国際教育交流センターでは、下記表に見るとおり、全学の留学生を対象に各種日本語プログラムを実施／提供している。学生の多様な日本語学習ニーズに応じ、総合的な日本語科目および専門日本語科目を中心に提供するプログラム内容となっている。未習者を対象とした入門レベル（100 レベル）から、日本語能力試験N1 相当以上の超上級レベル（700 レベル）まで7段階のレベルを設定している。表の1～5の各プログラムの時間割、および、選択コースの履修登録状況は、巻末記載の資料1、資料2に示している。

*単位あり正規科目

対象留学生		プログラム名	レベル
大学院生・研究生 (研究留学生)	国費大使館推薦	1. 留学生日本語集中コース	100 ～ 300
	全学	2. 留学生日本語選択コース	100 ～ 700
	全学	3. 学際融合教育科目*	600 ～ 700
学部留学生	一般正規生	4. 全学共通教育：第2外国語/国際教養*	700
	学部英語コース	4. : 第1外国語*	100 ～ 600
短期留学生		5. 国際交流科目（日本語）*	100 ～ 600

2020 年度の春～夏学期・秋～冬学期の履修者数合計は 521 名（図 1）で、昨年度（755 名）と比べて約 30% 減となった。その理由は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により、留学生の新規来日が大きく制限されたことである。この傾向は特に短期留学生で顕著で、短期留学生の履修者数は昨年度の 271 名が今年度は 60 名（全体の 12%）となり、4 分の 1 以下に落ち込んでいる（図 1・図 2）。学部英語コース（昨年度 80 名、今年度 47 名）や研究生（昨年度 204 名、今年度 184 名）も減少している一方で、大

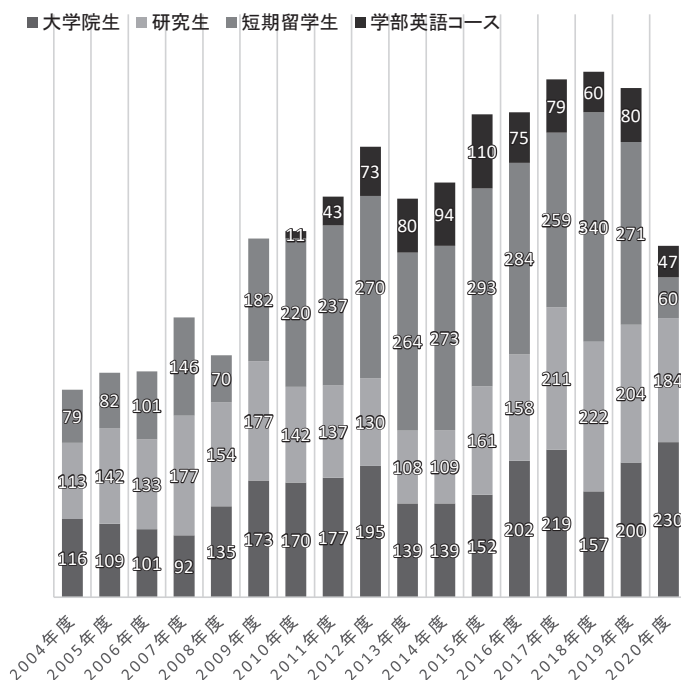


図 1 年度ごと身分別履修者数の推移
(学部一般正規生（上表の 4）は含まない)

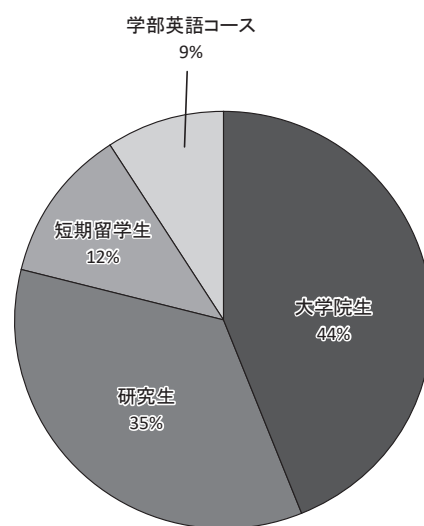


図 2 2020 年度履修者身分別分布

学院生は 230 名と昨年度（200 名）から 30 名増加し、過去最高の履修者数となっている。これはおそらく、全ての授業がオンラインツールを用いたメディア授業となったことで、通学やキャンパス移動の負担が少なくなり、研究活動と日本語学習との両立がしやすくなったためと考えられる。突然必要となった授業のオンライン化は、授業を担当する教員にとっては多大な負担となったものの、新しいニーズを掘り起こした面もあるといえる。アフターコロナにおいても、オンラインツールを活用した授業の開発や実施が引き続き必要となるだろう。

1. 日本語集中コース

日本語集中コースは、主として本学の大学院への進学を希望する留学生を対象とした 15 週間の集中的な日本語予備教育コースである。日本語予備教育生（以下、学生）の大部分は、文部科学省の国費留学生（大使館推薦研究留学生および教員研修生）が占めるが、定員に余裕がある場合には、所定の選考手続きを経た上で、学内のその他の留学生（研究生、大学院生および短期留学生）も受け入れている。

学生は、プレースメントテストおよび面接の結果により日本語レベルが判断され、以下の通り、IJ100/150, IJ200, IJ300 の 3 グループ・4 クラスに分かれて日本語を学ぶ。本コースの目標は、日本語能力の差異にかかわらず、日本語により専門分野のトピックについてパワーポイント等の視覚資料を活用しながら短いプレゼンテーションが行えるようになることである。学期末には修了発表会を実施し、各自専門分野のトピックについてプレゼンテーションを行う。この修了発表会には研修生の研究指導教員を招待する他、発表準備の過程を随時指導教員に報告し、日本語研修と研究活動との接続に配慮している。また、大学での研究活動を行うにふさわしい日本語教育を提供するために、学生のニーズや学習目的を考慮した上で大学での言語生活もトピックとした教材開発を行い、それらを授業で活用し、さらに改善を重ねている。

なお、52 期・53 期に関しては、原則としてメディア授業を実施し、学生の来日状況に応じて時差対応や個別対応を行った。以下に示す時間割は学期半ばからクラス全体で安定した段階からのものである。

(1) IJ100/150

① 概要

100/150 クラスは、コース開始時に日本語の学習経験が全く、もしくはほとんどない学生を対象として、初歩から日本語を学習する。例年は、授業時間数は 1 週間当たり 15 コマ（春・夏学期は 14 コマ）で、うち 4 コマを漢字と語彙のクラスにあてている。100/150 クラスの学生の多くは、まったく言葉の通じない異文化の中で初めての一人暮らしを経験することになる。そのため、精神的なケアに特段の注意を払いつつ日本語の教育を行う必要がある。学習は「自己表現のための日本語」を習得することを中心に進められ、最終的には、教師のサポートを受けつつ自分の専門分野について簡単なプレゼンテーションをすることを目標としている。

本年度については、本年報の I で論じたような状況のため、春夏学期は 2 クラスで各 11 コマ（チュートリアルなし）で、秋冬学期は 2 クラス（100A・100B）で各 7 コマにチュートリアル 1 コマを加えた 8 コマという授業体制で日本語教育を実施した。

② 時間割

第 52 期・第 53 期 日本語集中コース IJ100, IJ150 クラス時間割（令和 2 年度）

第 52 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2 時間目 10:30-12:00	講義 IJ100, IJ150				
12:00-13:00 昼休み					
3 時間目 13:00-14:30	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	プレゼンテーション IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150
4 時間目 14:40-16:10	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	プレゼンテーション IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150	コミュニケーション 行動 IJ100, IJ150
5 時間目 16:20-17:50					

第 53 期（100A クラス）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2 時間目 10:30-12:00	講義 IJ100A				チュートリアル IJ100A
12:00-13:30 昼休み					
3 時間目 13:30-15:00	コミュニケーション 行動 IJ100A		コミュニケーション 行動 IJ100A	コミュニケーション 行動 IJ100A	
4 時間目 15:10-16:50	コミュニケーション 行動 IJ100A		コミュニケーション 行動 IJ100A	コミュニケーション 行動 IJ100A	

第 53 期（100B クラス）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2 時間目 10:30-12:00	講義 IJ100B		チュートリアル IJ100B		
12:00-13:30 昼休み					
3 時間目 13:30-15:00		コミュニケーション 行動 IJ100B		コミュニケーション 行動 IJ100B	コミュニケーション 行動 IJ100B
4 時間目 15:10-16:50		コミュニケーション 行動 IJ100B		コミュニケーション 行動 IJ100B	コミュニケーション 行動 IJ100B

(2) IJ200

① 概要

200 クラスは、初級修了者を対象としているが、来日前に母国で独習に近い方法で日本語を学んだ者も含まれ、特に口頭表現能力のレベルはかなり幅が広いクラスである。授業時間数は 1 週間当たり 52 期は 12 コマ（うち 10 コマの 200 クラス専用授業とチュートリアル 1 コマおよび選択必修の漢字・語彙クラス）で構成されている。53 期は時差別に 2 グループ、7 コマずつで構成されている。なお、「漢字・語彙クラス」は漢字系か非漢字系かに分かれて受講する（下記の時間割参照）。「200 クラス日本語（コミュニケーション行動）（IJ200）」は、日本社会への適応と大学の研究室での研究活動を支えるための社会文化能力を

獲得することを目的とし、基本的にトピックシラバスによりカリキュラムを編成している。

なお、53期は来日遅れや時差に対応するため、学生を“アジア・欧州”と“南米”にグループ分けして授業を実施した。

② 時間割

第52期・第53期 日本語集中コースIJ200 クラス時間割（令和2年度）

第52期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 8:50-10:20		漢字と語彙 漢字系JK202			
2時間目 10:30-12:00	漢字と語彙 非漢字系JK201	会話と文法	チュートリアル		専門基礎 プレゼンテーション
12:00-13:00 昼休み					
3時間目 13:00-14:30	コミュニケーション 行動	会話と文法	読解	コミュニケーション 行動	専門基礎 プレゼンテーション
4時間目 14:40-16:10	コミュニケーション 行動	読解		コミュニケーション 行動	

※漢字と語彙：JK201は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK202は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

第53期（10月 南米グループ）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 8:50-10:20				読解 (南米・45分)	
2時間目 10:30-12:00	漢字と語彙 非漢字系JK201 (南米)	会話と文法 (南米)	読解 (南米)	コミュニケーション 行動 (南米)	専門基礎 プレゼンテーション (南米)

毎週の課題による非同期授業	コミュニケーション行動 (南米)
---------------	---------------------

第53期（10月 アジア・欧州グループ）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
5時間目 16:50-18:20	コミュニケーション 行動 (アジア・欧州)	会話と文法 (アジア・欧州)	チュートリアル (アジア・欧州)	コミュニケーション 行動 (アジア・欧州)	専門基礎 プレゼンテーション (アジア・欧州)
6時間目 18:30-20:00	読解 (アジア・欧州) (45分)				

毎週の課題による非同期授業	会話と文法 (アジア・欧州)
---------------	-------------------

第53期（11月以降 南米グループ）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2時間目 10:30-12:00	漢字と語彙 非漢字系JK201 (全学生)	会話と文法 (南米)	読解 (南米)	読解 (全学生)	専門基礎 プレゼンテーション (南米)
12:00-13:30 昼休み					
3時間目 13:30-15:00			チュートリアル (全学生)	コミュニケーション 行動 (南米)	

毎週の課題による非同期授業	コミュニケーション行動 (南米)
---------------	---------------------

第53期（11月以降 アジア・欧州グループ）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2時間目 10:30-12:00	漢字と語彙 非漢字系JK201 (全学生)			読解 (全学生)	
12:00-13:30 昼休み					
3時間目 13:30-15:00	コミュニケーション 行動 (アジア・欧州)	会話と文法 (アジア・欧州)	チュートリアル (全学生)		専門基礎 プレゼンテーション (アジア・欧州)
4時間目 15:10-16:40				コミュニケーション 行動 (アジア・欧州)	

(3) IJ300

① 概要

300クラスは、日本語を1～2年、約200～300時間程度学習した経験を持つ学生を対象としている。授業時間数は1週間当たり9コマで、「コミュニケーション行動」6コマ、文法・作文1コマ、「漢字と語彙」1コマ、そして個別学習指導（「チュートリアル」）1コマで構成されている。授業では、現代社会に関するいくつかのトピックおよび日本語学習者に関するストーリーを取り扱い、読解、聴解、ディスカッション、エッセイの作成を通じて中級レベルの日本語技能の習得を目指す。「漢字と語彙」では漢字と語彙を学習する。

② 時間割

第52期・第53期 日本語集中コースIJ300 クラス時間割（令和2年度）

第52期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時間目 8:50-10:20		漢字と語彙 漢字系JK302		漢字と語彙 非漢字系JK301	
2時間目 10:30-12:00		コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	
12:00-13:00 昼休み					
3時間目 13:00-14:30	文法・作文	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	チュートリアル

第 53 期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時間目 8:50-10:20		漢字と語彙 漢字系 JK302		漢字と語彙 非漢字系 JK301	
2 時間目 10:30-12:00		コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	
12:00-13:30 昼休み					
3 時間目 13:30-15:00	文法・作文	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	コミュニケーション 行動	チュートリアル

※漢字と語彙：JK301 は、母国で漢字を使用しない学生のための授業。JK302 は、母国で漢字を使用する学生のための授業。

○コーディネータ

村岡貴子（全体・IJ200 クラス）、西口光一（IJ100 クラス）、韓喜善（IJ150 クラス）、
西村謙一（IJ300 クラス）

○学生数と身分別内訳

※IJ150 は春～夏学期（第 52 期）のみ開講のため秋～冬学期（第 53 期）は“—”と記す。また、今回の IJ150 の 1 名は学期の後半でコースを辞退した。

クラス別人数

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 52 期	1	1	2	1	5
第 53 期	9	—	7	5	21
合計	10	1	9	6	26

身分別人数

	大使館推薦※1	教員研修※2	学内応募※3	計
第 52 期	0	0	5	5
第 53 期	20	1	0	21
合計	20	1	5	26

※1 大使館推薦クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 52 期	0	0	0	0	0
第 53 期	9	—	7	4	20
合計	9	0	7	4	20

※2 学内応募クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 52 期	1	1	2	1	5
第 53 期	0	—	0	0	0
合計	1	1	2	1	5

※3 教員研修クラス別内訳

	IJ100	IJ150	IJ200	IJ300	計
第 52 期	0	0	0	0	0
第 53 期	0	—	0	1	1
合計	0	0	0	1	1

教員研修生を除く、大使館推薦の配置（進学）先別内訳

	IJ100		IJ150		IJ200		IJ300		計
	学内	学外	学内	学外	学内	学外	学内	学外	
第52期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第53期	7	2	—	—	4	3	3	1	20
合計	7	2	0	0	4	3	3	1	20

○学生の出身国と配置（進学）先一覧

学生の出身国

国名	第52期	第53期
アルメニア		1
イラン※	1	
インド		1
インドネシア	1	
エジプト		1
ギニア		1
キューバ		1
コロンビア		1
サウジアラビア		1
タイ	1	2
タンザニア		1
フィジー		1
フィリピン		2
フランス		1
ベトナム		1
ペルー		1
ボスニア・ヘルツェゴビナ		1
ボリビア		1
マレーシア		3
モンゴル	1	
中国	1	
合計	5	21

※イランの1名は学期後半でコースを辞退した。

配置（進学）先一覧

配置（進学）先	第52期	第53期
医学系研究科※	2	
医学系研究科保健学		
基礎工学研究科		
経済学研究科		3
言語文化研究科（言語社会専攻）	1	
工学研究科	1	2
国際公共政策研究科		2
歯学研究科	1	1
情報科学研究科		
微生物病研究所		1
法学研究科		1
理学研究科		1
レーザー科学研究所		
産業化学研究所		
連合小児発達学研究科		
人間科学研究科		2
蛋白質研究所		1
奈良先端科学技術大学		6
大阪教育大学		1
総合研究大学院大学		
総計	5	21

※医学系研究科の1名は学期後半でコースを辞退した。

2. 留学生日本語選択コース

選択コースの主要な履修対象留学生は、全学の大学院生および大学院入学を希望する研究生である。これらの留学生の中には、研究活動の遂行に必要なアカデミックな日本語能力の養成を必要とする者もいれば、研究活動や大学院入試は英語で行われるが、研究室等での日常的なコミュニケーションに日本語を必要とする者もいる。そのため、日本語を用いて論文の執筆やプレゼンテーション、口頭コミュニケーションなどの研究活動をするための「専門日本語」科目に力点を置くとともに、その基礎となる「一般日本語」科目として総合日本語科目や漢字と語彙科目を開講し、学内の留学生の幅広い日本語学習ニーズに対応している。受講希望者は本センターが開発した日本語レベルチェックをウェブ上で受け、各自の日本語学習ニーズと日本語学習に充当可能な時間等を勘案し、該当日本語レベル（入門 100 レベルから超上級 700 レベルまでの 7 レベル）の科目群の中から、必要な科目を週当たり 1 ～数科目選択できるように設定されている。

○開講科目

100 から 300 までの入門～中級前半レベルでは、総合日本語（JB）および漢字と語彙（JK）で構成される一般日本語科目を提供している。一方、400 以上の中級～超上級レベルでは、アカデミックな日本語をスキル（リーディング・ライティング・コミュニケーション）ごとに学ぶ専門日本語科目や、キャリア形成を視野に入れたビジネス日本語科目を提供している。

2020年度選択コース授業一覧						
	総合日本語 (JB)	漢字と語彙 (JK)	アカデミック リーディング	アカデミック ライティング	アカデミック コミュニケーション	ビジネス日本語 コミュニケーション
100 (入門)	JB100					
200 (初級)	JB200	JK201 (非漢字系) もしくはJK202				
300 (初中級)	JB300	JK301 (非漢字系) もしくはJK302				
400 (中級)						
500 (中上級)				JW400/500	JC400/500	
600 (上級)						
700 (超上級)			JR600/700	JW600/700	JC600/700	BJ500/600/700

○履修登録者数

実数で春～夏学期 96 名、秋～冬学期は 179 名の計 275 名が選択コースを履修した。身分別内訳では、研究生（85 名）は昨年度（144 名）と比べて約 60 名減となったものの、大学院生の履修者が昨年度の 157 名から 188 名に増加している。部局別では、工学研究科（春～夏学期 38 名、秋～冬学期 55 名）を筆頭に、15 研究科／学部および 4 研究所 1 センター（巻末に一覧）と、学内の日本語学習ニーズに広く応えている。

○履修者のレベル分布

年間を通じ、初級（レベル 200）および超上級（レベル 700）の履修者が多かった。秋～冬学期には、初中級（レベル 300）の履修者が特に多くなっている。

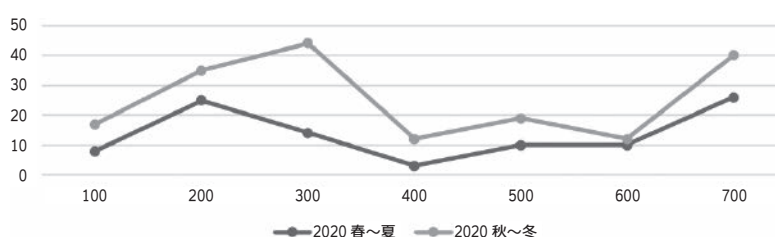


表 レベル別の履修者数（日本語選択コース）

3. 全学共通教育

全学共通教育における日本語関係科目は、他の外国語科目と同様、2018年度以降、「第2外国語」と「グローバル理解」の科目として開講されている。学部留学生の多様なバックグラウンドやニーズを勘案した結果、科目構成は「総合日本語」「専門日本語」「多文化コミュニケーション（日本語）」の三本立てとし、前二者を「第2外国語」として、後者を「グローバル理解」として履修する位置づけとしている。「総合日本語」では大学生活全般に役立つ日本語能力を総合的に身につけることを目指し、「専門日本語」ではより専門的な日本語能力を養成することを目指す。また、「多文化コミュニケーション（日本語）」は、留学生と一般学生が協働してプロジェクトワークに取り組むことによって、多文化間における実践的なコミュニケーション能力を養成することを目的としている。科目の設定にあたっては、各科目の性格を明確にし、学生が自分のレベルやニーズに応じて履修する科目を組み合わせることのできる柔軟性を持たせることに意を用いた。

2014年度後期（現：秋～冬学期）からは緩やかな定員制を導入し、語学教育／多文化教育として適切なクラスサイズが実現できるようにした。2016年度・2018年度・2020年度には、それまで増やしてきたコマを整理し直し、学生の受講機会の維持に配慮しつつ、受講者の少なかった授業をそれぞれ2コマ・1コマ・1コマ削減した。

以上の留学生向け科目以外に、一般学生が受講する「学問への扉（マチカネゼミ）」「アドヴァンストセミナー」（いずれも「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同開講）を加え、2020年度には計24コマ（実質16コマ）を提供した。

なお、日本語関係科目は、他の外国語関係科目と同様、2018年度に発足したマルチリンガル教育センターが所管することとなり、授業担当者全員が当該センターの兼任教員となっている。うち1名が運営に携わった。

○マルチリンガル教育センター兼任教員

有川 友子 教 授	村岡 貴子 教 授	義永 美央子 教 授
難波 康治 准 教 授	西村 謙一 准 教 授	石倉 佑季子 准 教 授
岡本 紗知 准 教 授	福良 直子 特任講師	
大谷 晋也 准 教 授（マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員）		

○提供科目とコマ数

(1) 第2外国語

- ・総合日本語（1単位：春～夏学期2コマ・秋～冬学期1コマ計3コマ提供）

大学生活全般に役立つ総合的な日本語能力の養成を目的とする。

- ・専門日本語（1単位：春～夏学期2コマ・秋～冬学期3コマ計5コマ提供）

各自の専門を学習・研究する際に役立つ日本語能力の養成を目的とする。

(2) 国際教養 2

- ・多文化コミュニケーション（日本語）

（2単位：春～夏学期5コマ・秋～冬学期3コマ計8コマ提供）

下記（3）のセミナー科目を受講する一般学生と、本科目を受講する留学生とが、協働してプロジェクトワークを実践する活動を通じ、多文化社会でのコミュニケーション能力の向上を目指す。

(3) 学問への扉（マチカネゼミ）（春～夏学期）・アドヴァンストセミナー（秋～冬学期）

- ・多文化コミュニケーションセミナー

（2単位：春～夏学期5コマ・秋～冬学期3コマ計8コマ提供）

上記（2）の「多文化コミュニケーション（日本語）」と合同で開講。

○ 共通教育提供科目・担当者一覧

春～夏学期

(1) 第2外国語

授業科目名	担当者
総合日本語	福良 直子
総合日本語	大谷 晋也
専門日本語	義永美央子
専門日本語	難波 康治

秋～冬学期

授業科目名	担当者
総合日本語	福良 直子
専門日本語	難波 康治
専門日本語	義永美央子
専門日本語	村岡 貴子

(2) 国際教養 2

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション（日本語）	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	石倉佑季子
多文化コミュニケーション（日本語）	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	有川 友子

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーション（日本語）	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	大谷 晋也

(3) 学問への扉（マチカネゼミ）

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	岡本 紗知
多文化コミュニケーションセミナー	石倉佑季子
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	有川 友子

アドヴァンストセミナー

授業科目名	担当者
多文化コミュニケーションセミナー	岡本 紗知
多文化コミュニケーションセミナー	西村 謙一
多文化コミュニケーションセミナー	大谷 晋也

4. 国際交流科目

本学では、英語（もしくはその他の外国語）で実施する正規科目として国際交流科目を提供している。国際教育交流センターでは、同科目の枠組みで、短期留学生を主な対象として日本語科目（JA）を提供している。また、本科目は、学部英語コースの学生も第一外国語科目として履修している。JAの各クラスでは、90分の授業が週に3コマ提供され、話す・聞く・読む・書くの各技能が総合的に習得できるようなカリキュラムを編成し、5レベル（秋～冬学期は4レベル）で各2トラック（秋～冬学期のJA100は3トラック）を開講した。トラック1は主として学部英語コース学生とiExPO、Frontier-Lab@OsakaU等の短期留学生、トラック2は主としてOUSSEP学生が受講している。どのレベルでも専任教員が担当する授業（lecture）は複数トラックの合同クラスとして開講し、トラック間の交流を図るとともに、限られた人員・予算の中で学生数の増加に対応するよう努めている。

また2019年度秋～冬学期に600レベルで実施されたクラス再編を継続し、2020年度秋～冬学期からは500レベルの授業も内容・言語統合型学習（CLIL）を取り入れた「日本語・グローバル理解演習（JGU500）」という名称で実施した。

○提供科目と担当者一覧

春～夏学期		秋～冬学期	
授業科目名	担当者	授業科目名	担当者
JA100 トラック1	難波康治・岡田亜矢子・蔭山 拓	JA100 トラック1	難波康治・岡田亜矢子・蔭山 拓
JA100 トラック2	難波康治・花井理香	JA100 トラック2	難波康治・花井理香
JA200 トラック1	福良直子・上仲 淳・矢部正人	JA100 トラック3*	難波康治・住吉秀紀
JA200 トラック2	福良直子・半田佳奈子	JA100 トラック4	西口光一・上仲 淳・山田真知子
JA300 トラック1	西口光一・住吉秀紀	JA100 トラック5*	韓喜善・浦木貴和
JA300 トラック2	西口光一・岡崎洋三	JA200 トラック1	福良直子・上仲 淳・矢部正人
JA400 トラック1	義永美央子・小原俊彦	JA200 トラック2	福良直子・半田佳奈子
JA400 トラック2	義永美央子・矢部正人・岡崎洋三	JA300 トラック1	西口光一・住吉秀紀・上田安希子
JA500 トラック1	難波康治・菅 摂子・藤澤好恵	JA300 トラック2	西口光一・上田安希子・岡崎洋三
JA500 トラック2	難波康治・上田安希子・竹内 茜	JA400 トラック1	義永美央子・菅 摂子・小原俊彦
JGU600-d	大谷晋也	JA400 トラック2	義永美央子・矢部正人
JGU600-e*	矢部正人	JGU500-a	大谷晋也
JGU600-f	伊藤 創	JGU500-b	藤澤好恵
		JGU500-c	伊藤 創
		JGU600-a	岡崎洋三
		JGU600-b	大谷晋也
		JGU600-c	小原俊彦

※*印の授業は、履修登録者数の関係で不開講となった。

5. 学際融合教育科目

本学の大学院教育では、研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育の充実を目指す学際融合教育科目が提供されている。大学院に在籍する留学生の増加に伴い、研究活動の遂行のために必要なアカデミックな日本語能力の必要性が高まっているが、本センターではこのようなニーズに対応するため、「上級専門日本語・アカデミックリーディングA・B」「上級専門日本語・アカデミックライティングA・B」「上級専門日本語・アカデミックコミュニケーションA・B」の3科目を学際融合教育科目として提供している。さらに、大学院修了後のキャリア形成を念頭に置いた「キャリアデザインとビジネスコミュニケーション」（春～夏学期）に加え、2020年度からは、自律的な言語学習およびその支援をテーマとする「第二言語学習方法論」（春～夏学期）、「言語学習アドバイジング入門」（秋～冬学期）の2科目を新たに開講した。各科目を履修し、所定の評価を得た受講生は1科目あたり2単位を取得することができる。これらの科目では、理系・文系を問わず、さまざまな国・地域からの留学生が集まる環境を生かし、言語・文化や専門分野を超えた対話や学びの場を提供するように努めている。学期ごとの開講科目名および担当者は下記の通りである。

○学際融合教育科目・担当者一覧

春～夏学期		秋～冬学期	
授業科目名	担当者	授業科目名	担当者
上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) A	西村 謙一	上級専門日本語 (アカデミック・リーディング) B	西村 謙一
上級専門日本語 (アカデミック・ライティング) A	村岡 貴子	上級専門日本語・ (アカデミック・ライティング) B	村岡 貴子
上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) A	瀬井 陽子	上級専門日本語 (アカデミック・コミュニケーション) B	瀬井 陽子
キャリアデザインと ビジネスコミュニケーション	魚崎 典子 韓 喜善	言語学習アドバイジング入門	義永美央子
第二言語学習方法論	義永美央子		

V. 国際教養・専門複合型プログラム

国際教養・専門複合型プログラム（英語名 OUSSEP）は、大阪大学短期留学特別プログラムとして運用を開始された 1996 年以来、国際交流委員会が管掌する本学の交換留学プログラムの中核として平成 30 年度は春学期に 73 名、秋学期には 98 名の交換留学生を受け入れた。G30 によって非正規生を含めた留学生受入に数値目標を設定する動きの中で、Junior Year Abroad タイプの留学生の受け皿として、学内におけるその役割はますます重くなっている。同時に、日本人学生と留学生が英語で専門科目（国際交流科目）を共に学ぶ状況を学内に作るための戦略プログラムとしての性格もある。なお国際交流科目の一部は「学部英語コース」の履修科目としても指定されており、様々な背景を持つ学生が一堂に集うカリキュラムを充実させている。

平成 30 年度も奨学金受給者を主対象として UR 都市機構と連携した宿舎を用意した。職制上変則的ではあるものの、プログラムコーディネータが管理会社の協力の下に運営しており、かつては 8 住戸 16 人を住まわせていた宿舎を、本年度は 5 住戸 15 人の 3 人シェア体制へ変更するなど、留学生受入スキームのインフラ整備など、全学プログラムの運営課制下合理化に向けての先導的な役割を引き続いて果たしている。

なお平成 20 年度以来、留学生センター所属のコーディネータおよびサブコーディネータの二人体制（教員 1、職員 1）で運用されているが、平成 21 年度の G30 選定に伴い、サブコーディネータが G30 特任職員となった。教員 3（教授、准教授、特任助教）、職員 2 並びに事務補佐員 3 名から構成される「短期留学開発研究チーム」によって運営されている一プログラムという位置づけになっている。また OUSSEP 向け英語授業担当者を対象とした FD 研修会を各学期授業前に開催し、英語授業の質の向上やノウハウの継承に努めている。また平成 30 年度末には 10 年単位で集めてきた授業アンケートデータを分析に取りかかっており、より良い英語授業を学内で提供できるよう、考察を進めている。

1. 行事

OUSSEPおよび国際交流科目関係の行事（2020年4月から2021年3月まで）

月	日	曜日	行 事 等
4	7	火	交換留学生オリエンテーション 中止
			OUSSEP オンラインオリエンテーション（昨年度からの継続生のみ）
	9	木	国際交流科目（2019年度春・夏学期）開始
			学生定期健康診断（豊中キャンパス）中止
	15	水	国際交流科目（2019年度春・夏学期）履修届提出締め切り
			学生定期健康診断（吹田キャンパス）中止
			自主研究 Registration & Study Plan Form 提出締め切り
5	2-3	土・日	いちょう祭 中止
6	20	土	見学旅行（高野山）中止
	21	日	
7	27	月	2019年度春・夏学期フェアウェルパーティー 中止
8	7	金	国際交流科目（2019年度春・夏学期）終了
	8	土	夏季休業開始 終了学生随時帰国
9	28	月	交換留学生オリエンテーション 中止
			OUSSEP オンラインオリエンテーション
10	1	木	9月受入れ学生随時大阪到着 市役所手続き等（10月～12月）
			国際交流科目（2019年度秋・冬学期）授業開始
	7	水	国際交流科目（2019年度秋・冬学期）履修届提出締め切り
	21	水	国際交流科目（2019年度秋・冬学期）履修登録変更届提出締め切り
11	19	木	My Country & My University発表会（EXPOCITY 光の広場）中止
	20-22	金－日	まちかね祭大学祭 中止
12	26	日	冬期休業（～1/5（日））
1	15	金	大学入試センター準備のため休講
			2019年度秋・冬学期フェアウェルパーティー 中止
2	5	金	国際交流科目（2019年度秋・冬学期）終了
	6	土	春季休業開始 終了学生随時帰国
	6	土	見学旅行（広島・宮島） 実地見学は中止 代替としてオンライン研修を実施
	7	日	

2. 2020 年度春夏学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

2020 年度春夏学期 OUSSEP 学生名簿

No.	国籍 / 地域	出身校名	所属名
1	アメリカ合衆国	ワシントン大学	文学部
2	イギリス	リーズ大学	理学部
3	オーストリア	ウィーン大学	外国語学部
4	カナダ	マックマスター大学	経済学部
5	スペイン	マドリッドアウトノマ大学	文学部
6	ドイツ	ミュンヘンルートヴィヒ・マクシミリアン大学	文学研究科
7	ドイツ	ルール・ボーフム大学	人間科学部
8	ハンガリー	エトヴェシュ・ロラーンド大学	言語文化研究科
9	フィンランド	ユヴァスキュラ大学（数・理学部）	理学研究科
10	フランス	リール政治学院	外国語学部
11	フランス	グルノーブル大学連合	外国語学部
12	フランス	ボルドー大学	法学部
13	フランス	グルノーブル大学連合	工学研究科
14	フランス	グルノーブル大学連合	経済学部
15	フランス	グルノーブル大学連合	基礎工学研究科
16	フランス	ボルドー大学	法学部
17	フランス	リール政治学院	外国語学部
18	フランス	グルノーブル大学連合	基礎工学研究科
19	マレーシア	リーズ大学	経済学部

2020 年度春夏学期 国際交流科目開講リスト

No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	哲学的思考と日本の伝統	Philosophical Thinking and Japanese Traditions	文学研究科	須藤 訓任
2	文化人類学入門	Introduction to Cultural Anthropology	人間科学部 (G30)	Mohacsi Gergely
3	ジェンダー論	Gender Studies	人間科学部 (G30)	Paola Cavaliere
4	家族と結婚の社会学入門	Introduction to Sociology of Marriage and Family	人間科学部 (G30)	Viktoriya Kim
5	知覚と認知の心理学	Psychology of Perception and Cognition	人間科学部 (G30)	Kazunori Morikawa
6	多文化共生論	Seminar in Studies of Multicultural Societies	人間科学部 (G30)	Viktoriya Kim
7	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学研究科	Elbalti Beligh
8	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学研究科	Elbalti Beligh
9	生物学演習 A	Seminar in Biology A	理学研究科	高木 慎吾
10	我が国の保健サービスと医療ケア	Health Service and Medical Care in Japan	医学研究科	加藤 和人
11	応用理工学入門	Introduction of Mechanical, Materials and Manufacturing Science	工学研究科	小林 英樹
12	合成化学へのいざない	Introduction to Chemistry World	基礎工学研究科	新谷 亮
13	近代日本文学における大阪	Osaka in Modern Japanese Literature	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュース
14	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国語学部	筒井 佐代
15	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
16	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100 - Track 2		
17	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200 - Track 1	国際教育交流センター	福良 直子
18	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200 - Track 2		
19	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300 - Track 1	国際教育交流センター	西口 光一
20	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300 - Track 2		
21	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400 - Track 1	国際教育交流センター	義永 美央子
22	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400 - Track 2		
23	総合日本語 JA500-トラック 1	Japanese JA500 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治
24	総合日本語 JA500-トラック 2	Japanese JA500 - Track 2		
25	日本語・グローバル理解演習 JGU600d	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600a	国際教育交流センター	大谷 晋也
26	日本語・グローバル理解演習 JGU600e	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600b	国際教育交流センター	矢部 正人
27	日本語・グローバル理解演習 JGU600f	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600c	国際教育交流センター	伊藤 創
28	科学英語入門	Introduction to Scientific English	国際教育交流センター	岡本 紗知
29	オンライン・リソースを活用した L2 学習	Second Language Learning with Online Resources	国際教育交流センター	魚崎 典子
30	異文化コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Performance	国際教育交流センター	中野 遼子
31	日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
32	イノベーションの管理と変遷	Managing Innovation and Change	国際教育交流センター	三森 八重子
33	日本における大学の国際化	Internationalization of Higher Education in Japan	国際教育交流センター	石倉 佑季子
34	自主研究 A 自主研究 B 自主研究 C	Independent Study A Independent Study B Independent Study C		各自主研究 担当教員

3. 2020 年度秋冬学期：OUSSEP 学生名簿と国際交流科目開講リスト

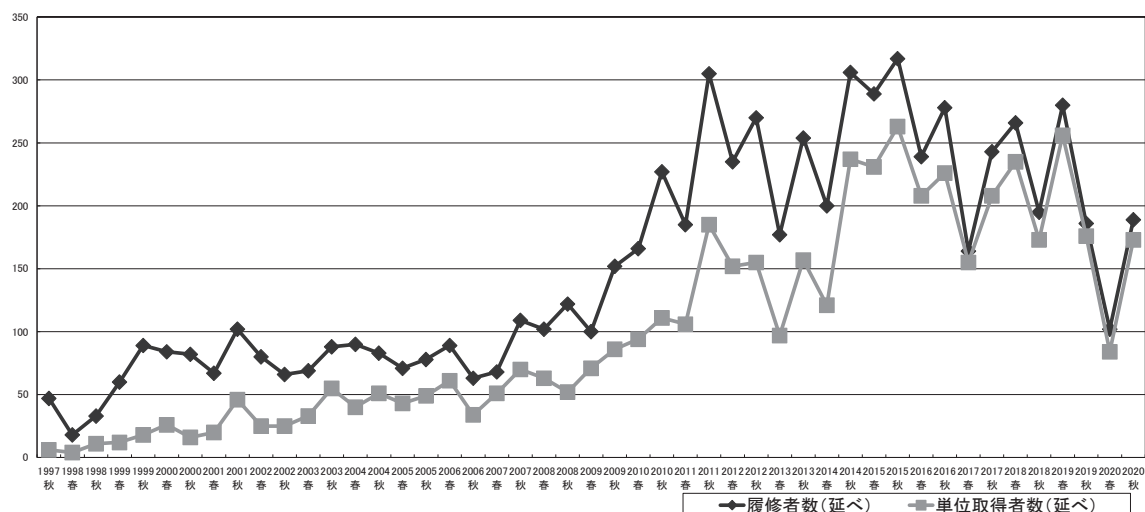
2020 年度秋冬学期 OUSSEP 学生名簿

No.	国籍/地域	出身校名	所属名
1	イギリス	ダーラム大学	外国語学部
2	インドネシア	バンドン工科大学	人間科学研究科
3	インドネシア	インドネシア大学	経済学部
4	スペイン	マドリード自治大学	外国語学部
5	スペイン	マドリード自治大学	外国語学部
6	スペイン	マドリード自治大学	外国語学部
7	中華人民共和国	武漢大学	国際公共政策研究科
8	中華人民共和国	同済大学	人間科学部
9	中華人民共和国	上海交通大学	国際公共政策研究科
10	中華人民共和国	グルノーブル大学連合	外国語学部
11	ドイツ	ルール・ボーフム大学	人間科学研究科
12	ドイツ	ベルリン工科大学	理学研究科
13	ドイツ	アーヘン工科大学	工学研究科
14	ハンガリー	リーズ大学	人間科学部
15	フィンランド	ユヴァスキュラ大学（数・理学部）	理学部
16	フランス	グルノーブル大学連合	外国語学部
17	フランス	ストラスブール大学	人間科学部
18	フランス	リール政治学院	外国語学部
19	フランス	ストラスブール大学	人間科学部
20	フランス	グルノーブル大学連合	人間科学部
21	フランス	リール政治学院	外国語学部
22	ベルギー	アーヘン工科大学	経済学研究科
23	香港	香港中文大学	文学部
24	台湾	ストラスブール大学	外国語学部
25	台湾	国立台湾大学（理学院と生命科学院）	理学部
26	台湾	国立台湾大学（理学院と生命科学院）	理学部
27	台湾	国立台湾大学	経済学部

2020 年度秋冬学期 国際交流科目開講リスト

No.	科目名 (和文)	科目名 (英文)	科目提供部局	主担当教員名
1	日本における文化と言語の多様性	Cultural and Linguistic Diversity in Japan	文学研究科	佐藤 廉也
2	社会学	Sociological Theory	人間科学研究科	Christian Etzrodt
3	日本のサル学	Primateology in Japan	人間科学研究科	中道 正之
4	多変量統計科学	Multivariate Data Science	人間科学研究科	足立 浩平
5	日本における多様性と人権	Diversity and Human Rights in Japan	人間科学研究科	北山 夕華
6	移動の社会学	Sociology of Migration	人間科学研究科	Viktoriya Kim
7	メディア社会学	Media Sociology	人間科学研究科	Viktoriya Kim
8	特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題)	Special lecture (Topics in Comparative Contract and Torts Law)	法学研究科	Leonardo Ciano (福井康太)
9	比較法の諸問題	Topics in Comparative Law	法学研究科	Elbalti Beligh
10	日本法の諸問題	Topics in Japanese Law	法学研究科	Elbalti Beligh
11	2次元の幾何学	2-Dimensional Geometry	理学研究科	馬場 伸平
12	材料化学入門	Introduction to Materials Chemistry	工学研究科	宇山 浩
13	地球総合工学入門 ― 持続可能な開発における地球総合工学の役割 ―	Role of Global Architecture in Sustainable Development	工学研究科	入江 政安
14	国際理解入門	Introduction to International Understanding	工学研究科	藤田 清士
15	先端物性物理学	Frontiers of Materials Physics	基礎工学部	山本 俊
16	近代・現代日本文学	Japanese Literature, Modern and Contemporary	言語文化研究科	村上スミス・アンドリュース
17	異文化理解演習	Seminar Course for Intercultural Understanding	外国語学部	筒井 佐代
18	UC Frontier Science I	UC Frontier Science I	大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室	John Hampton INO
19	総合日本語 JA100-トラック 1	Japanese JA100 - Track 1	国際教育交流センター	難波 康治 HAN HEESUN
20	総合日本語 JA100-トラック 2	Japanese JA100 - Track 2		
21	総合日本語 JA100-トラック 3	Japanese JA100 - Track 3		
22	総合日本語 JA100-トラック 4	Japanese JA100 - Track 4		
23	総合日本語 JA100-トラック 5	Japanese JA100 - Track 5		
24	総合日本語 JA200-トラック 1	Japanese JA200 - Track 1	国際教育交流センター	福良 直子
25	総合日本語 JA200-トラック 2	Japanese JA200 - Track 2	国際教育交流センター	西口 光一
26	総合日本語 JA300-トラック 1	Japanese JA300 - Track 1		
27	総合日本語 JA300-トラック 2	Japanese JA300 - Track 2		
28	総合日本語 JA400-トラック 1	Japanese JA400 - Track 1		
29	総合日本語 JA400-トラック 2	Japanese JA400 - Track 2	国際教育交流センター	義永 美央子
30	日本語・グローバル理解演習 JGU500a	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU500a	国際教育交流センター	大谷 晋也
31	日本語・グローバル理解演習 JGU500b	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU500b	国際教育交流センター	藤澤 好恵
32	日本語・グローバル理解演習 JGU500c	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU500c	国際教育交流センター	伊藤 創
33	日本語・グローバル理解演習 JGU600a	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600a	国際教育交流センター	岡崎 洋三
34	日本語・グローバル理解演習 JGU600b	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600b	国際教育交流センター	大谷 晋也
35	日本語・グローバル理解演習 JGU600c	Seminar in Japanese and Global Understanding JGU600c	国際教育交流センター	小原 俊彦
36	文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	国際教育交流センター	有川 友子
37	科学と社会	Science and Society	国際教育交流センター	岡本 紗知
38	コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	国際教育交流センター	魚崎 典子
39	言語コミュニケーションとパフォーマンス	Language Communication and Performance	国際教育交流センター	中野 遼子
40	日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	国際教育交流センター	近藤 佐知彦
41	異文化コミュニケーション入門 ― 異文化を理解するためのストラテジー	Introduction to Intercultural Communication- Strategies for Intercultural Learning-	国際教育交流センター	石倉 佑季子
42	ソーシャルイノベーションとソーシャルデザイン	Social Innovation and Social Design	国際教育交流センター	近藤 佐知彦／ 三森 八重子

4. OUSSEP 学生以外の国際交流科目履修者数と単位取得者数



国際交流科目受講状況および単位取得状況の推移

5. 国際交流科目における授業の質保証の取り組み

近年の教育の国際化にともない英語での授業科目が増えている。国際交流科目は、本学の日本人学生や正規留学生などの一般学生と協定校からの交換留学生がともに英語でさまざまな授業を受講する科目であり、その数は年々増え、2020年度も、国際教育交流センターを含む全学のさまざまな部局から多様な授業が提供された。国際教育交流センターではカリキュラムの時間割調整や授業コーディネートを行っている。

(1) FDオリエンテーション

英語による専門科目授業の質保証のため、当センターでは学期毎に授業担当教員およびTA（ティーチングアシスタント）を対象にFDオリエンテーションを豊中と吹田の両キャンパスで実施している。2018年度から2019年度にかけて、全学教育推進機構教育学習支援部（TLSC）の佐藤浩章准教授のご支援・ご監修のもと、FD研修内容の改善に努め、現在、「国際交流科目ティーチング・ティップス集」や「国際交流科目受講学生へのラーニング・ティップス集」の作成にも取り組んでいる。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、FDオリエンテーションは、オンラインでの開催となった。春夏学期の研修では、国際交流科目対象の9年間分の授業アンケートの分析結果を共有し、オンライン授業実施の情報交換を行った。秋冬学期は、春夏学期のオンライン授業の実施を受け、授業評価アンケートの回答結果から、特に学生がオンラインの授業にどのような課題を抱えているのか、またどのような授業を望んでいるのかを共有し、今後の授業展開の展望をFDの参加者の教員及びTAを共に考えるような内容で実施した。

2020 年度 春～夏学期 国際交流科目 担当教員・TA 対象
FDオリエンテーション

● 2020 年 4 月 8 日 (水) オンラインによる実施 (ZOOM) 14:30 ~

〈プログラム〉

I. オリエンテーション

「通常の授業と国際交流科目はここが違う！」

(国際教育交流センター 教授 近藤 佐知彦)

II. FD 研修

① 9 年間の国際交流科目授業評価アンケートの結果と考察

(国際教育交流センター 教授 近藤 佐知彦・特任助教 中野 遼子)

② 国際交流科目受講学生への Learning Tips 集作成ワークショップ

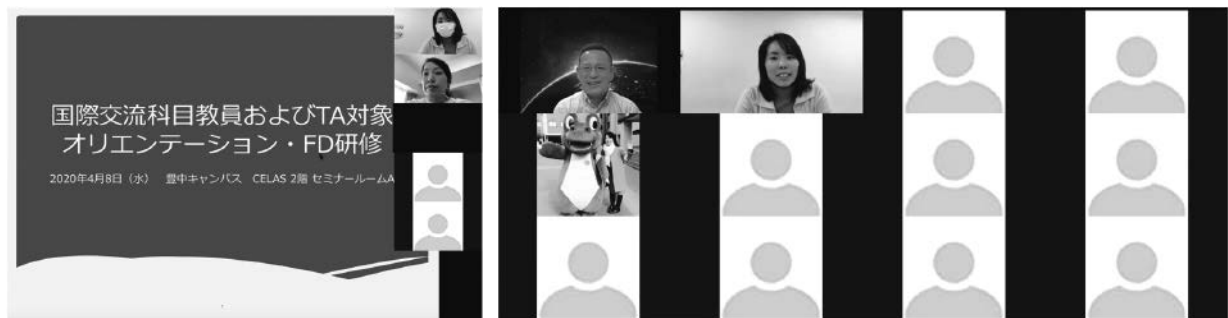
ファシリテーター：近藤佐知彦 (国際教育交流センター 教授)

中野 遼子 (国際教育交流センター 特任助教)

監修：佐藤 浩章 (全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授)

* ご講演・ワークショップは日本語で行われます。

III. 授業実施に関わる情報交換会



オンラインFDオリエンテーションの様子

2020 年度 秋～冬学期 国際交流科目 担当教員・TA 対象
FDオリエンテーション

- 2020 年 9 月 28 日（月） オンラインによる実施（Zoom）11：00～

〈プログラム〉

I. オリエンテーション

「通常の授業と国際交流科目はここが違う！」

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

II. FD 研修

FD 研修（国際教育交流センター 准教授 石倉 佑季子）

「アンケートから見る学生の望む国際交流科目とは？」

～オンラインで国際交流科目を実施する秘訣～

＊ご講演・ワークショップは日本語で行われます。

III. 授業実施に関わる情報交換会

(2) 授業評価アンケートの実施とフィードバック

授業の質保証の取り組みとして、2019年度までは毎学期2回、2020年度からは教員の負担軽減のため毎学期1回、授業中に時間をとって受講生による授業評価アンケートを実施している。アンケートは集計して個別の授業の結果及び全体の集計結果を返送し、授業改善に役立てていただいている。詳しくは巻末資料編の資料5のアンケートのサンプルを参照いただきたい。また、2019年度秋冬学期からは、集計の簡略化や紙資源の削減を目的として、KOANによるオンラインアンケートを開始した。そして、2020年度は、大半の授業がオンライン形式となったため、オンライン授業に関する質問項目を追加し、さらに、同期型・非同期型授業用の「実施要項」も新たに作成し、対応した。

2020年7月6日

2020年度春夏学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長

有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る 国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について(依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。先生方にご開講頂いております国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協定校等へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のために不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入れに大きく貢献している講義群であることから、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められております。

このような趣旨に基づき、毎学期、受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しております。今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですがなにとぞご高配賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。2019年度秋冬学期より、KOANによるオンラインアンケートを実施しており、具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照ください。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。

また同結果は国際交流科目担当教員FDの企画等の参考にもさせて頂きたく、併せてよろしくお願い申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情報の取扱いにつきましては十分注意させて頂きます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

なおこの件に関し、ご質問のある方は以下までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センタースタッフ 柏原 美佐緒

kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp

Tel : 06-6879-7128 (内線 7128)

2021 年 1 月 14 日

2020 年度秋冬学期国際交流科目担当教員 殿

国際教育交流センター長
有川 友子

「国際教養・専門複合型プログラム (OUSSEP)」に係る
国際交流科目の受講学生を対象とした「授業アンケート」の実施について (依頼)

標記「国際交流科目」につきまして、平素から御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。
先生方にご開講頂いております国際交流科目は「大学の国際化」という大きな目標の中で、海外協定校等へ留学する学生にとって重要な準備過程の一環であり、また同時に（その交換留学派遣のために不可欠である）海外協定校からの交換留学生の受入れに大きく貢献している講義群であることから、その質の確保と共に本学の学生に対する効果検証が強く求められております。

このような趣旨に基づき、毎学期、受講学生を対象とした「授業アンケート」を実施しております。
今回も貴重な授業時間を割いて頂くこととなり誠に恐縮ですがなにとぞご高配賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。2019 年度秋冬学期より、KOANによるオンラインアンケートを実施しており、具体的なアンケート実施方法の詳細につきましては、添付の「実施要項」をご参照ください。

なお本アンケートの結果は各科目（主）担当の先生へお送り申し上げます。授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。

また同結果は国際交流科目担当教員FDの企画等の参考にもさせて頂きたく、併せてよろしくお願い申し上げます。もちろん集計データ等から個々の科目や受講学生が特定されることの無いよう情報の取扱いにつきましては十分注意させて頂きます。

ご多忙のところ恐れ入ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

国際教育交流センタースタッフ 柏原 美佐緒

kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp

Tel : 06-6879-7128 (内線 7128)

End of semester Evaluation Questionnaire manual (for instructors)

1. When

During class from July 13th (Mon) to August 7th (Fri), 2020.
(The time required: about 15 min)

2. Questionnaire

Please provide the following instruction to students to answer the questionnaire:

1. Log in to KOAN with a PC or a smart phone
2. Choose the Surveys tab and answer End of semester Evaluations Questionnaire (International Exchange Subjects) for this course.
3. Read the instruction before you answer the questionnaire
4. When finished answering, click Check Responses and Submit

***To instructors:**

If you give synchronous online classes, please conduct the questionnaire during class.

If you give asynchronous online classes, please tell students to answer the questionnaire by the due date.

3. Remarks

- The survey results will be sent to the (representative) professor/instructor after tallying them up. We would really appreciate it if the results could be some help for reconfirming the contents and design of your class.
- Please note that the survey results may be used by the faculty to improve the academic program and teaching, and other research purposes in an anonymous form.

【Contact】

KASHIWABARA, Misao (Ms.)

E-mail: kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp

Phone: 06-6879-7128 (ext.7128)

期末アンケート実施要項

1. 日時

2020年 7月13日(月) ～ 8月 7日 (金) の授業時間中 (所要時間：約15分)

2. 実施

1. 学生にパソコンかスマートフォンからKOANにログインさせてください。
 2. KOANにログイン後、「Surveys」に進み、ご担当の授業科目の「End of semester Evaluation Questionnaire (International Exchange Subjects)」を回答するよう指示してください。
 3. アンケート概要を良く読んでから回答を開始するようご指示ください。
 4. 回答が終わったら、「Check Responses」→「Submit」で提出完了です。
- ※ 同期型の授業を実施されている先生は、授業中の実施をお願いいたします。
※ 非同期型の授業を実施されている先生は、期日までにアンケートを回答するよう指示をお願いいたします。

3. その他

- 回収したアンケート結果は集計後、先生方へ送付いたします。
授業の成果検証および授業設計の資料等としてご活用頂ければ幸いです。
- 同結果は、個別の科目名等が特定されないよう配慮した上で、FD等研修や教育研究目的に活用させていただく場合があります。予めご了承下さい。

【お問い合わせ先】

国際教育交流センター

短期プログラム開発研究チーム 柏原 美佐緒

メール： kashiwabara-m@office.osaka-u.ac.jp

電話： 06-6879-7128 (内線：吹田 7128)

VI. 授業料徴収型『超短期』プログラム

1. 『超短期』プログラム

平成 20 年度以来、当センターでは、いわゆる「超短期」と呼ばれるプログラムを運用してきている。平成 21 年度には「ナノテクノロジーコース」と「日本語日本文化コース」の二つのプログラムを「Spring Intensive Program 2010」のタイトルの下で「超短期」プログラムとして並行開催した。これは平成 20 年度大学改革推進等補助金で「21 世紀型『超短期』受入プログラム開発」で試行したパイロットプロジェクトであり、全国の Short-Stay プログラム普及への先鞭をつけた。

日本学生支援機構（JASSO）によって Short-Stay 奨学金が創設された平成 23 年度には、東日本大震災の悲劇を受け「日本語日本文化プログラム」に止まらない「ショートステイ日本語・防災プログラム」として再設計、阪神淡路大震災の経験など「防災・減災」の取り組みについても紹介するプログラムとして運用することとして、様々な経緯を経ながら現在に至っている。

平成 30 年度は、マレーシアの大学の要望に合わせたプログラムを実施し、同校から 20 名の学生を受け入れた。韓国協定校対象の冬プログラムは例年通り開催された。2019 年度は、韓国協定校対象の春プログラムが定員に満たなかったため不開講だったが、夏プログラムに関しては、中国の西南大学と大連理工大学から 43 名の学生を受け入れた。

2020 年度は、2019 年度に引き続き、中国の西南大学と大連理工大学の夏プログラムおよび韓国の釜山大学向け春プログラムを準備していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により全てのプログラムが中止となった。2021 年度は同プログラム実施を目指し、質の向上を目指して振り返りをしながら準備を進めている。

2. 『ショートステイ学期内日本語専修プログラム』 J-ShIP

J-ShIPは平成23年度夏に新たに創設された。設立に至る経緯や、プログラムのねらいについては近藤(2012)等に譲るが、日本語をキラーコンテンツとし、平成23年度に新設されたShort-Stayプログラム奨学金を最大限獲得する設計のプログラムである。平成24年度には、新たに「夏プログラム」も増設し、カリフォルニア大学(UC)を中心とした米国の協定校の「夏休み」期間にあわせた開講プランを作り、数多くのアメリカ人学生に対して、日本語に親しみ、また日本語単位を在籍校において互換しうる機会を提供してきている。

平成26年度以降は米国向け90コマ8週間のサマーインスティテュート(6-8月)、および豪州向け45コマ5週間のウィンターインスティテュート(12-1月)の2サイクルを運営することになった。ハード面では箕面に教室および職員室を増設して3教室体制を整備している。また非常勤講師のボランティアに頼っていた「オフィスアワー」を制度化し、参加学生の旺盛な学習ニーズに对应している。平成29年度の夏からは海外などで活躍する日本語教師の先生方を期間中に特任教員として雇用し、J-ShIPの一部の運営をお任せするなど、実験的なプログラムとしても先進的に運用を続けている。平成30年度の夏は、大阪北部地震や西日本豪雨の自然災害に加え、2019年度は2人の学生が体調不良により途中帰国を余儀なくされ、対応に追われたが、多くの方々からの協力により、最後までプログラムを実施することができた。今後プログラムを継続するにあたって、危機管理体制を整える契機となった。

2020年度については、昨年度同様、夏J-ShIPおよび冬J-ShIPを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、全て中止となった。しかし、冬季のみであったが、3週間のWinter Online Japanese Courseを新たに開発し、実施することができた。

- ・近藤佐知彦(2012) SSプログラムJ-ShIPの1年目：新コンセプトの超短期日本語プログラムへの挑戦 大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流 16 97-106

3. 『学外連携実習』 ExPERT

平成 30 年度には、新たに ExPERT (Extension Program for Education in Real-world Trainings) を開始した。同プログラムは、平成 30 年度 3 月に締結された「国立大学法人大阪大学と三井不動産株式会社との連携協定」に基づく取り組みのキックオフプログラムとなった。

かねてより、多くの協定校から職業体験型プログラムへの要望が強く、より多くの優秀な学生を受け入れるため、吹田キャンパス近郊のエキスポシティ内にある大阪英語村 (Osaka English Village, 以下 OEV) と共同で、8 週間の無給職業トレーニングプログラムを開発した。参加学生へ単位を付与するために、教職課程の『教育実習』の科目を参考にしながら、『学外連携実習』を新たに正規科目として登録した。

OEV は体験型英語教育施設で、アメリカの日常や歴史、文化をテーマにした様々なシチュエーションルームが 23 種類あり、各ルームでは、英語ネイティブのインストラクターとともに英語を楽しみながら学ぶことができる (OEV ホームページ参照)。ExPERT 生は、インストラクターの訓練を受けながら、授業見学、アシスタント業務、そして実習体験を通して、主に子どもや高校生以下の児童・生徒に対する英語教授法を修得する。

宿舎については、ホームステイの斡旋会社ネクステージと協力し、「英語インストラクター実習生のホームステイ」として、ExPERT 生にホストファミリーへの週 3 回の 1 時間英語レッスンを義務付け、その代わりに宿泊費を安価に提供する新たなホームステイの枠組みも開発した。

平成 30 年度はパイロット・プログラムとして、アメリカ合衆国から 4 名の学生を、2019 年度はオレゴン大学から 1 名の学生を受け入れた。ウィークリーレポート、最終プレゼンテーション、OEV による評価を経て、4 名とも無事に修了し、単位 (4 単位) が付与され、本センターと OEV 連名の修了証書が授与された。また、参加者のうち 1 名は、2019 年 4 月に OEV にて正式に就業した。

2020 年度は、神奈川県にある、EDURE LCA が運営する LCA 国際小学校が受け入れ先となる ExPERT プログラムを準備していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中止となった。今後も、EDURE LCA と協力してプログラムを継続予定である。

4. Faculty-led プログラム UMOS

2019 年度より、メルボルン大学からの要請に応じて新たに UMOS (University of Melbourne Overseas Subject) という Faculty-led プログラムを開始した。UMOS は、メルボルン大学で開講されている科目と同等の授業を海外の大学で実施し、メルボルン大学の単位として認定するプログラムである。大阪大学では、「Variation in Japanese Language」という科目が開講され、大阪大学の単位（4 単位）が付与される。授業の目的は、日本語上級レベルを持つメルボルン大学の学生が、授業、一日職業体験、ホームステイおよび文化体験を通して日本語のバリエーションについて学ぶことである。メルボルン大学の渡邊講師が招へい教員・プログラムコーディネーターとして引率および半分以上の授業を担当し、約 3 週間で、吹田市旭通商店街と大阪大学吹田キャンパスにおいて計 30 コマが実施される。また、大阪大学の UMOS はオーストラリア政府によるニューコロノ計画の支援も受けている。

2020 年度も UMOS の実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、プログラムは中止となった。しかし、パンデミック収束後には、ニューコロノ計画の支援を受けながら、プログラムの継続を計画している。

5. Winter Online Japanese Course

詳細は I の 2 の (1) の (b) (p.12) で記述。

2020 年度 Winter Online Japanese Course
(2021.2.1-2021.2.19 実施)

	在籍校	国籍	専攻
1	モナシュ大学	オーストラリア	Arts
2	モナシュ大学	マレーシア	Science
3	モナシュ大学	ベトナム	Business and Economics
4	モナシュ大学	中国	Arts
5	モナシュ大学	中国	Biomedical Science
6	モナシュ大学	中国	Business and Economics
7	ソウル神学大学校	大韓民国	Japanese
8	ソウル神学大学校	大韓民国	Japanese
9	ソウル神学大学校	大韓民国	Japanese
10	ソウル神学大学校	大韓民国	Japanese

Ⅶ. 留学生支援

国際教育交流センター交流アドバイジング研究チームは、吹田キャンパスは留学生交流情報室（IRIS: Information Room for International Students）、豊中キャンパスは国際教育交流センター豊中分室に、箕面キャンパスは国際教育交流センター箕面分室に生活相談に対応するスタッフを配置し、アドバイジング担当教員との密接な連携のもと、留学生支援を継続的に行っている。留学生が気軽に出入りできるスペースを提供するとともに、相談しやすい雰囲気を作り、関係部局とも連携しながら、迅速に対応している。本年度は新型コロナウイルス感染拡大による閉室期間を経た後、5月7日より再開。閉室中に開始したZOOMによるチャットルームは予約不要で留学生が気軽に相談できる場となり開室後も継続して実施している。定期的に発行するIRISレター等のメールによる情報提供も行っている。このほか、学生間の交流の促進の観点から、大阪大学留学生会（OUIA: Osaka University International Student Association）やB.S.P.（Brothers and Sisters Program）の支援も継続して行っている。例年行っている地域の国際交流団体やボランティアグループとの連携行事は中止となった。地域の学校の国際理解教育プログラムへの協力はオンラインで継続して行っている。このほか、短期プログラム開発研究チームの一般学生の海外留学支援にも協力している。

1. 生活・就学支援

(1) 国際教育交流センターにおける相談対応

国際教育交流センターでは、留学生とその家族が日本で生活する上で、生活習慣や文化に円滑に適応できるようにアドバイスにあたりとともに、さまざまな留学生関連プログラムなどの情報提供をしている。また、国際交流活動等についての相談にも応じるなど、留学生に対する総合的な支援をしている。

こうした相談や情報提供は、例年吹田地区ではセンター内の留学生交流情報室（IRIS）にて平日8時半～18時の間、豊中地区では学生交流棟2階の豊中分室で平日10時半～17時の間、箕面分室は平日10時半～17時の間、休業日を除く学期期間中に行っているが、本年度は4月14日から6月10日まで閉室し、メールおよびZOOMで対応した。表1にIRIS、表2に豊中分室、表3に箕面分室での対応件数を記す。各種情報提供のほか、相談内容により担当教員との連携および、関係部局との連携をしながら留学生の相談対応を実施した。

(2) 新規来日留学生への支援

例年国際教育交流センターが関わる新規来日留学生に対して、来日前の情報提供やホストファミリープログラムのご案内などを含め、来日前からコンタクトを取っているが、本年度春は対象学生が来日できず行わなかった。また例年来日当初のオリエンテーションプログラムを、国際学生交流課や国際教育交流センター日本語教育研究チーム、短期プログラム開発研究チーム等と連携して実施し、学生の円滑な留学がスタートできるように支援しているが、春～夏学期は中止となった。秋～冬学期はオンラインと対面でのオリエンテーションを実施した。

国際教育交流センターは、例年留学生および地域社会がお互いの文化・習慣を正しく認識し、相互理解を深めることを目的として、大阪大学留学生ホストファミリープログラム（略称OHP）を実施しているが、本年度は中止となった。また、来日当初に留学生が指導教員と面談できるように、留学生来日前に指導教員と連絡をとり日程調整して行っている研究室訪問サポートも中止となった。学生間の交流促進や留学生支援の観点から、B.S.P.の学生が行っているキャンパスツアー、大阪大学留学生会（OUIA）の活動の紹介も中止となった。

表1 大阪大学国際教育交流センター留学生交流情報室「IRIS」の相談状況及び来室・利用状況
令和2年度相談対応延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	238	158	215	269	107	233	274	282	241	189	90	182	2478
日本語	5	2	2	5	9	11	8	2	0	5	8	12	69
奨学金	5	0	2	0	0	0	0	8	5	1	0	3	24
保証人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住居保証人	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
医療	0	0	3	3	4	1	1	6	6	8	0	3	35
入管関係	0	3	2	4	0	0	3	2	0	4	1	0	19
家族について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就職	0	15	38	29	16	76	276	137	186	112	113	126	1124
住居	15	1	5	5	1	0	1	4	1	2	6	9	50
各種情報提供	98	130	100	95	95	164	79	120	103	137	94	125	1340
生活用品	11	0	0	0	0	0	1	6	0	4	2	1	25
学習・研究	3	3	5	2	2	1	6	3	8	9	28	21	91
事故・トラブル	6	3	4	19	10	9	5	17	19	12	8	5	117
引越	0	0	0	0	0	3	1	0	0	3	5	7	19
アルバイト	0	3	11	2	2	1	1	2	1	1	0	1	25
ホストファミリー	4	5	5	11	6	3	14	4	5	16	0	0	73
ホームステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海外留学相談	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	4
問合わせ等（学外）	12	3	4	16	10	12	7	16	14	10	13	15	132
その他	17	8	36	17	11	30	65	59	89	68	37	70	507
計	414	334	432	477	276	545	742	669	678	581	405	580	6133

*令和2年4月15日～6月10日：閉室

相談対応件数推移

年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
件数	2877	3496	3461	4125	4246	5163	5280	5366	5405	5124	5087	4675	4880	4489	4413	5112	4517

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2
件数	5553	6114	8106	7106	7398	8104	9860	6133

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1
件数	16450	17848	17996	18025	18077	19255	19356	19934	19532	19574	20909	20107	20176	19170	19252	19858	15076

年度	R2
件数	2745（932）

留学生交流情報室「IRIS」の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	49(16)	22(17)	45(11)	127(15)	46(18)	73(26)	204(117)	207(65)	196(78)	148(65)	80(6)	84(15)	1281(449)
日本人学生	20(16)	40(40)	38(38)	41(22)	18(8)	17(5)	35(13)	27(8)	45(4)	13(4)	16(8)	15(1)	325(167)
その他・一般	42(5)	15(0)	64(0)	84(3)	65(7)	99(7)	128(37)	86(24)	69(14)	88(14)	257(184)	142(21)	1139(316)
合計	111(37)	77(57)	147(49)	252(40)	129(33)	189(38)	367(167)	320(97)	310(96)	249(83)	353(198)	241(37)	2745(932)

*ここでの「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

*（ ）書きはZOOMイベント参加者数（内数）である。

表2 大阪大学国際教育交流センター豊中分室の相談状況及び来室・利用状況
令和2年度相談対応延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	48	141	71	61	24	56	104	70	58	42	19	29	723
日本語	3	0	0	0	1	0	2	2	0	3	1	3	15
奨学金	7	0	0	1	0	0	4	0	0	0	3	2	17
保証人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
住居保証人	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
医療	1	0	3	1	3	3	0	2	1	0	0	3	17
入管関係	0	0	0	6	1	0	2	0	0	1	0	0	10
家族について	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
就職	3	2	3	3	2	3	3	1	0	1	1	0	22
住居	0	1	2	3	4	3	2	0	0	1	3	4	23
各種情報提供	18	4	11	15	14	18	21	9	10	9	12	28	169
生活用品	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	5
学習・研究	1	2	0	8	8	1	23	12	8	4	0	3	70
事故・トラブル	0	0	1	2	4	4	3	1	0	0	2	0	17
引越	0	0	0	0	5	1	3	0	0	0	1	5	15
アルバイト	1	0	17	5	2	2	7	4	4	1	1	2	46
ホストファミリー	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
ホームステイ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
海外留学相談	2	2	3	8	4	6	5	3	1	1	1	1	37
問合わせ（学外）	1	0	1	2	4	2	0	0	0	0	0	1	11
その他	5	1	8	14	18	9	5	1	1	5	19	15	101
合計	92	154	120	131	96	111	185	105	83	68	63	98	1306

相談対応件数推移

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
件数	2843	2294	1352	1164	1139	805	916	1253	1271	993	906	1302	2192	2721

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

年度	H30	H31/R1	R2
件数	2713	3080	1306

来室者数推移

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
年間利用者数	8320	7524	5183	5324	7508	5212	6029	9065	11230	10563	9580	9612	12806	13406

年度	H30	H31/R1	R2
年間利用者数	12618	12769	2189(407)

豊中分室の利用延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	60(7)	32(28)	44(13)	115(12)	73(2)	67(16)	135(15)	119(10)	115(5)	131(2)	80(2)	113(5)	1084(117)
日本人学生	33(19)	81(81)	58(44)	66(38)	26(9)	51(22)	141(40)	104(7)	96(14)	76(5)	35(8)	69(3)	836(290)
教官・学外など	15(0)	0(0)	25(0)	32(0)	22(0)	22(0)	22(0)	32(0)	27(0)	16(0)	20(0)	36(0)	269(0)
合計	108(26)	113(109)	127(57)	213(50)	121(11)	140(38)	298(55)	255(17)	238(19)	223(7)	135(10)	218(8)	2189(407)

*ここでの「利用」は国際教育交流センター豊中分室に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

*（ ）書きはZOOMイベント参加者数（内数）である。

表3 大阪大学国際教育交流センター箕面分室の相談状況及び来室・利用状況
令和2年度相談対応延べ状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流	9	24	44	58	14	29	70	73	64	57	12	2	456
日本語	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	2	0	5
奨学金	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4
保証人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住居保証人	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
医療	2	0	4	2	1	1	2	1	0	2	0	0	15
入管関係	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
家族について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就職	0	0	0	2	2	1	0	1	1	0	1	0	8
住居	1	0	0	2	1	0	0	0	0	3	1	0	8
各種情報提供	2	0	3	4	9	5	11	12	9	12	14	16	97
生活用品	0	0	0	2	4	1	9	9	9	3	2	1	40
学習・研究	0	1	2	0	0	0	0	0	7	0	0	0	10
事故・トラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
引越	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アルバイト	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	1	5
ホストファミリー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホームステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海外留学相談	0	0	2	1	0	1	7	0	0	0	0	0	11
問合わせ(学外)	0	0	1	0	0	11	0	0	1	4	1	10	28
その他	2	6	1	1	0	1	3	0	0	0	2	11	27
計	18	31	57	78	32	52	103	97	91	81	37	41	718

相談対応件数推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2
件数	1488	966	840	661	831	797	731	854	788	699	591	885	718

*ここでの「相談対応」は項目に関する相談受付及びその対応回数の延べ（電話・メールも含む）を示す。

来室者推移

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2
件数	2893	3517	4477	5249	5703	5024	4570	4525	3907	4867	4403	4421	1479(151)

箕面分室の利用延べ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
留学生	15(2)	17(11)	23(14)	41(12)	22(0)	73(0)	73(2)	70(3)	77(0)	52(1)	33(0)	22(0)	518(45)
日本人学生	8(5)	16(13)	30(26)	60(22)	12(0)	52(0)	174(13)	126(9)	132(9)	102(9)	58(0)	19(0)	789(106)
その他・一般	5(0)	0(0)	6(0)	6(0)	16(0)	8(0)	28(0)	7(0)	13(0)	9(0)	13(0)	61(0)	172(0)
合計	28(7)	33(24)	59(40)	107(34)	50(0)	133(0)	275(15)	203(12)	222(9)	163(10)	104(0)	102(0)	1479(151)

*ここでの「利用」は留学生交流情報室「IRIS」に来室した延べ人数（イベント等含む）を示す。

*その他・一般はホストファミリー、国際理解教育関連（小・中・高校の教師）、ボランティアなどである。

*（ ）書きはZOOMイベント参加者数（内数）である。

(3) 学生交流支援

学生支援については、B.S.P.と大阪大学留学生会（OUIA）の活動の支援を行った。今年度当初はオンラインのみの活動となったが、B.S.P.は8月から、OUIAは5月後半よりオフラインでの活動も再開した。表4にB.S.P.の活動、表5に大阪大学留学生会（OUIA）の活動を記す。

表4 令和2年度 B.S.P.の活動内容

〈主な活動内容〉

月	日	内容	Online	Offline	キャンパス	備考
4	22	日本語カフェ	○		吹田	
	27	日本語カフェ（毎週木曜日）	○		箕面	
	28	English Café	○		吹田	
	29、30	新入生向け学部別相談会	○		豊中	
5	1	全教ウエルカムチャンネル収録	○		豊中	
	1、9、10	新入生向け学部別相談会	○		豊中	
	11	日本語カフェ（毎週月・金曜日）	○		豊中	
7	8	留学Online トーク	○		豊中	
	14	OUIA Hour Video Meeting	○		吹田	OUIA 共催
8	5	日本語カフェ		○	吹田	
		B.S.P.交流会		○	吹田	
9	4	日本語カフェ（毎週木・金曜日）	○		豊中	
	24	1day trip in 池田		○	豊中	
	28	OUSSEP 留学生オリエンテーションでBSPの紹介	○		豊中	
	30	箕面キャンパスツアー		○	箕面	
		新留学生オリエンテーションでBSPの紹介		○		
10	5～9	B.S.P.相談週間		○	箕面	
	12	秋のイベント「作る秋」折り紙・どんぐりコマ		○	箕面	
	13	日本語カフェ（毎週火曜日）	○		箕面	
	14	日本語カフェ（毎週水曜日）	○		吹田	
	15	English Café（隔週木曜日）	○		吹田	
	19	日本語カフェ（毎週月曜日）		○	箕面	
	21	日本語カフェ（第三水曜日）		○	吹田	
	26	1年生向けB.S.P.説明会		○	豊中	
	29	俳句・川柳パーティー		○	箕面	
	30	スコーン作り		○	豊中	
11	4	草刈りイベント		○	豊中	
	10	伝統遊び		○	吹田	
	13	韓国イベント	○		豊中	
	15	One day trip 服部緑地「日本民家集落博物館」		○	箕面	
12	3	年賀状作り		○	吹田	
1	6	書初め会		○	豊中	
	7	書初め		○	箕面	
		日本のお正月を体験してみよう！		○	吹田	
2	18	3キャンパス幹部ミーティング		○	豊中	
	24	3キャンパス幹部ミーティング		○	吹田	
3	1	3キャンパス幹部ミーティング		○	箕面	
	10	3キャンパス幹部ミーティング	○	○	豊中	*
	19	Relieving Stress	○	○	豊中	HaCC主催 OUIA協力*
	30	Relieving Stress	○	○	吹田	HaCC主催 OUIA協力*

*Online・Offline 同時開催

表5 令和2年度 大阪大学留学生会（OUIA）の活動内容

月	日	内容	Online	Offline	場所	備考
5	1	全教ウエルカムチャンネル収録	○		豊中	
	21	Meeting	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
7	9	OUIA Hour (IRAN)	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
	14	OUIA Hour Videos Meeting	○		吹田：ICホール IRIS	B.S.P.共催
8	4	Meeting	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
9	15	Meeting	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
10	13	Meeting	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
	28	OUIA Hour (GAMBIA)	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
11	6	新規留学生オリエンテーションでOUIAの紹介		○	吹田：ICホール IRIS	日本語集中コース留学生対象
	17	Arabic Time (隔週火曜日)		○	吹田：ICホール IRIS	
	25	Meeting	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
	26	OUIA Hour (TUNISIA)	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
12	14	Meeting	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
	23	OUIA Hour (JORDAN)	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
1	29	Meeting	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
		OUIA Hour (SUDAN)	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
2	2	Meeting	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
	24	Meeting	○	○	吹田：ICホール IRIS	*
3	19	Relieving Stress	○	○	豊中：大学会館アセンブリーホール	CIEE・HaCC主催 B.S.P.協力*
	30	Relieving Stress	○	○	吹田：ICホールルーム 5 & 6	CIEE・HaCC主催 B.S.P.協力*

*Online・Offline同時開催

(4) 学内連携

国際教育交流センターは、学内の各部署の留学生関係者との連携の強化も継続して実施している。各部署の留学生相談室フロントスタッフと連携した組織「大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク」の定例ミーティングを6月はオンラインで、9月、12月、3月はオフラインで計4回実施し、それ以外にも必要に応じて電話やメール等で連絡や意見交換を行った。毎年開催されている国際教育交流センター主催の連絡・交換会は中止となった。

2. 地域との連携

(1) 留学生支援ボランティアとの連携

国際教育交流センターは、地域との連携を積極的に行っており、日頃より地域のボランティアや関係者との連絡を緊密に取っているが、本年度はホストファミリープログラムが中止となったことにより、例年2回開催されている大阪大学留学生ホストファミリープログラム連絡協議会も中止となった。表6は本年度までの団体別のホストファミリーと留学生の組み合わせ数である。

表6 大阪大学留学生ホストファミリープログラム組合せ団体別数推移

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	計
ホストファミリーグループアミーゴ	4	7	8	8	7	15	8	16	8	12	11	11	9	15	10	13	14	12	16	13	11	10	7	9	8	11		273
茨木市国際親善都市協会	4	13	12	8	11	18	8	7	8	11	7	12	11	15	13	10	9	6	8	7	10	7	10	16	10	14		265
(公財)とよなか国際交流協会	0	18	15	7	17	20	19	14	19	27	16	14	29	42	85	80	73	68	80	73	63	62	65	79	73	67		1125
(公財)箕面市国際交流協会	0	10	6	11	12	10	6	11	15	16	13	10	9	22	36	23	28	36	35	32	42	50	39	24	32	33		561
池田市公益活動促進協議会*6	0	12	11	7	9	10	7	9	11	9	15	10	15	14	13	12	8	8	4	8	8	7	9	6	6	6		234
(公財)吹田市国際交流協会	0	1	18	7	23	19	12	14	20	14	9	16	15	16	30	28	24	29	32	39	41	47	62	61	61	64	新型コロナウイルスのため中止	702
国際交流の会とよなか (TIFA)	0	1	6	9	9	9	10	9	13	11	25	20	18	14	12	14	15	15	13	19	18	11	14	13	13	15		326
川西市国際交流協会*1									11	13	14	9	9	19	16	12	11	9	6	15	14	15	10	7	10	14		214
留学生さとおやの会*2												5	8	7	6	7	6	6	7	10	8	11	9	10	13	13		126
海外協力グループクスクス*3															7	12	11	13	6	4	6	10	9	11	11	9		109
国際交流グループチャーターボックス*4																11	12	9	8	12	10	11	13	8	10	9		113
三井ボランティアネットワーク事業団*7																							3	3	3	4		13
シルバーアドバイザーネット大阪*8																									8	11		19
OHP/IRISに直接登録*5	3	3	6	5	8	17	20	17	20	2	5	6	4	6	19	17	20	15	25	27	24	32	29	35	38	14		417
計	11	65	82	62	96	118	90	97	125	115	115	113	127	170	247	239	231	226	240	259	255	273	279	282	296	284		4497

*1 川西市国際交流協会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成14年10月開始

*2 留学生さとおやの会のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成17年4月開始

*3 海外協力グループクスクスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成20年9月開始

*4 チャーターボックスのメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成21年4月開始

*5 ホストファミリーの学内公募平成19年8月開始

*6 池田ホームステイ友の会は平成24年3月で終了、平成24年9月より池田市国際交流協議会、平成29年4月より池田市公益活動促進協議会として参加

*7 三井ボランティアネットワーク事業団のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成28年10月開始

*8 シルバーアドバイザーネット大阪のメンバーと留学生とのホストファミリー組合せは平成30年4月開始

(2) 国際理解教育への協力

地域の学校における国際理解教育プログラムへの協力は例年積極的に行っているが、本年度は4月から8月までは中止となり9月から再開した。再開後はすべてのプログラムがオンライン実施となった。表7は、令和2年度に国際理解教育プログラムにおいて協力した学校名、オンライン参加した留学生数および参加学生出身国である。例年小中高で実施しているが、本年度は高校のみとなった。例年1回開催されている大阪大学・地域「国際理解教育」推進連絡協議会も中止となった。

留学生の参加は、地域の学校からの依頼に対して、学校交流ボランティアに登録している留学生にメール等で案内を出して希望者を募り、学校側と留学生との事前打ち合わせを行い、実施後、留学生には報告書の提出、というプロセスで実施している。

表7 令和2年度「国際理解教育」実施状況

	月	日	学校/プログラム名	派遣人数	派遣学生国籍
1	9	8	兵庫県立川西北陵高等学校	8	インド・エジプト・ガンビア・ギニア・パキスタン・バングラデシュ・ブルガリア・マレーシア
2	10	29	大阪府立住吉高等学校	5	インド・ギニア・スーダン・パキスタン・フィリピン・マレーシア
3	11	14	大阪府立茨木高等学校	21	アルジェリア・イタリア・イラン・インドネシア・エジプト・ギニア・タイ・パキスタン・バングラデシュ・フィリピン・ベトナム・マレーシア・メキシコ・韓国
4	11	26	関西大倉高等学校	14	アルジェリア・イタリア・インド・インドネシア・エジプト・ガンビア・ギニア・タイ・バングラデシュ・ブルガリア・ベトナム
5	1	17	大阪府立豊中高等学校	27	アルジェリア・イラン・インド・インドネシア・ウルグアイ・エジプト・ガンビア・ギニア・タイ・ナイジェリア・バングラデシュ・フィリピン・ブラジル・ブルガリア・メキシコ・ヨルダン

計：5件／75名

3. 留学生に対するキャリア支援

日本での就職を希望している外国人留学生を支援する目的で、令和2年度、国際教育交流センターでは、「留学生のための就職対策講座」を全8回開催した。また個々の相談に対応するため就職相談コーナーを開室した。

(1) 留学生のための就職対策講座

2020年10月より2021年1月にかけて「留学生のための就職対策講座」を開催した（図1参照）。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためZOOMによるオンライン開催となった。講座は外部講師、学内のキャリアカウンセラー、内定者の留学生の協力のもと全8回のシリーズとして開催され、参加者数は述べ168名（昨年度182名）であった。コンテンツはYouTubeで一週間限定公開した。

令和2年度 留学生のためのオンライン就職対策講座

月日	講義項目	
10月15日(木) 17:00-18:20	留学生のための就職活動セミナー(キャリアセンター主催) 【豊中】金沢教育推進機構 大講義室	豊中開催
1 Oct. 21 (Wed)	Introduction to job search for international students (英語)	オンライン開催
2 10月26日(月)	情報収集及び企業・業界研究(日本語)	
3 11月5日(木)	自己分析/キャリアデザイン(日本語)	
4 11月27日(金)	内定者による体験談(1)(日本語)	
5 12月3日(木)	内定者による体験談(2)(英語)	
6 12月14日(月)	エントリーシートの書き方/合同企業説明会等対策(日本語) 【17:30-19:00】	
7 1月18日(月)	面接試験の基礎とグループディスカッション選考対策(日本語)	
8 1月25日(月)	面接試験練習会(日本語)	

申込み career@ciece.osaka-u.ac.jp
 1. 氏名 2. 学部 3. 学年 4. 国籍 を書いて申し込んでください。
 2. 件名に「就職対策講座申し込み」と書いてください。

◆大阪大学留学生の卒業後の就職先: 日立、富士通、ダイキン、日産自動車、ANA、ハウス食品、日本IBM、JAL、アクセンチュア、三菱電機、ゴールドマン・サックス、NTTコミュニケーションズ、ソニー、竹中工務店、ダイワハウス、P&G、その他多数

主催: 大阪大学国際教育交流センター 共催: キャリアセンター 協力: 工学研究科国際交流推進センター

On-Line Job Search Strategy Course for International Students 2020

Date	Subject	
Oct. 15 (Thu) 17:00-18:20	Job-hunting seminar for international students (by Career Center) 【Toyonaka】Large lecture room CELAS	TOYONAKA
1 Oct. 21 (Wed)	Introduction to job search for int'l students (English)	On-Line
2 Oct. 26 (Mon)	Collecting information and business research (Japanese)	
3 Nov. 5 (Thu)	Self-assessment / Career design (Japanese)	
4 Nov. 27 (Fri)	Hearing about experiences of students with job offer (1) (Japanese)	
5 Dec. 3 (Thu)	Hearing about experiences of students with job offer (2) (English)	
6 Dec. 14 (Mon)	Preparing entry sheets and company recruiting fairs (Japanese)	
7 Jan. 18 (Mon)	Basic rules of interview and group discussion (Japanese) 【17:30-19:00】	
8 Jan. 25 (Mon)	Preparing interview (Japanese)	

Registration career@ciece.osaka-u.ac.jp
 1. Email us with 1. your full name, 2. faculty, 3. year, and 4. nationality.
 Put "Job search strategy course registration" in the subject line.

◆Employment after graduation: Hitachi, Fujitsu, Daikin, Nissan, ANA, House Foods, IBM Japan, JAL, Accenture PLC, Mitsubishi Electric, Goldman Sachs, NTT Communications, Sony, Takenaka Corp, Daiwa House, P&G, etc.

Organized by CIEE Co-organized by Career Center In cooperation with CIA, Graduate School of Engineering

図1 就職対策講座ポスター

(i) アンケート調査結果

就職対策講座では毎回webアンケートを実施した。各回の参加者数は図2に示されている通りである。全8回のうち、第1回「Introduction to job search for international students」の参加者が最も多く30名、次に第5回「内定者による体験談(2)」の28名が続いた。いずれも英語によるセミナーであった。参加者の所属別では工学系が最も多く64名であった(図3参照)。出身国では中国が最も多く84名で、全体の50%を占めた(表8参照)。学年別では博士課程前期1年次が最も多く77名で全体の45%を占めた(図4参照)。

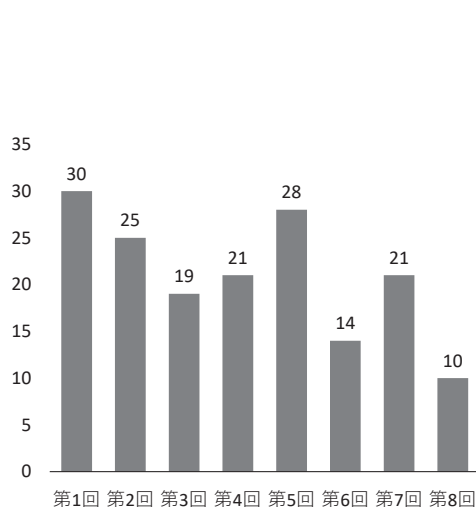


図2 各回の参加人数

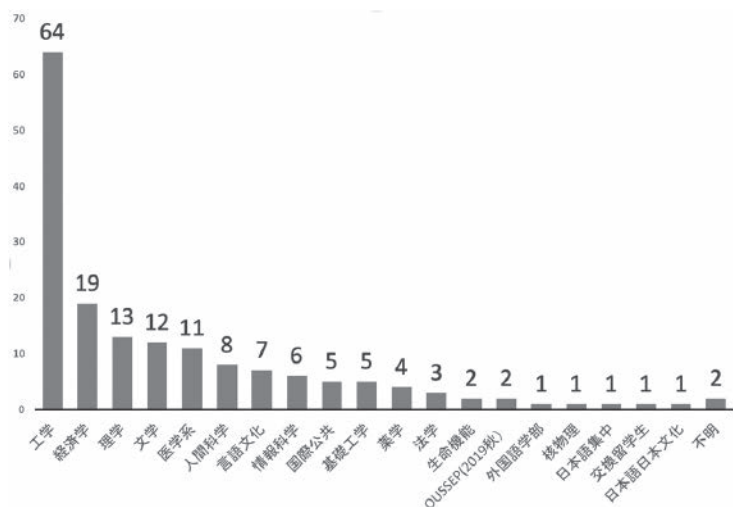


図3 参加者の所属

表 8 参加者の出身国

出身国	人数	出身国	人数
中国	84	アルジェリア	2
インドネシア	12	オランダ	2
台湾	8	シンガポール	2
フィリピン	6	エジプト	1
インド	6	オーストラリア	1
韓国	6	スイス	1
ベトナム	5	サウジアラビア	1
ミャンマー	5	ナイジェリア	1
アゼルバイジャン	3	スーダン	1
イラン	3	シリア	1
ギニア	3	エジプト	1
バングラデシュ	3	イタリア	1
ブラジル	3	ウガンダ	1
ヨルダン	3	不明	2

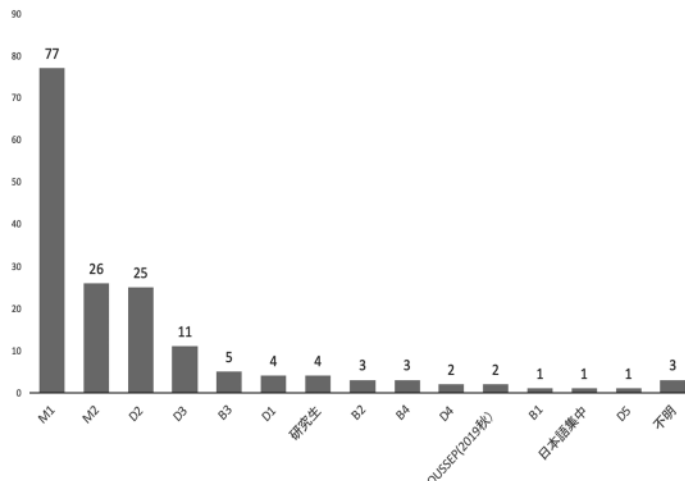
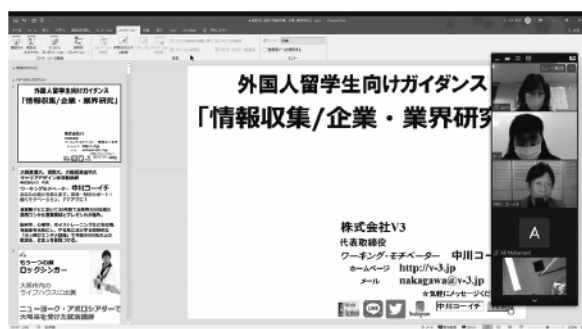
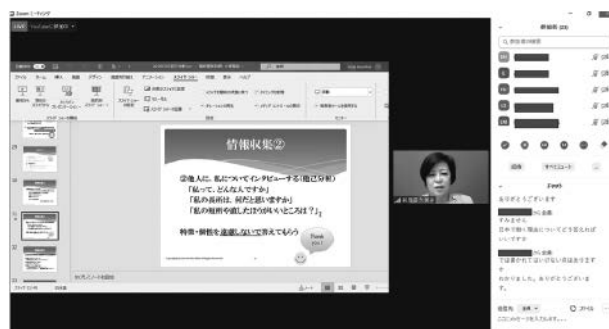


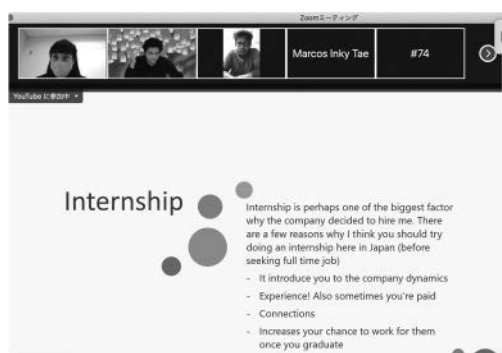
図 4 参加者の学年



i) 第2回 情報収集および企業・業界研究



ii) 第3回 自己分析/キャリアデザイン



iii) 第4回 OB・OGによる体験談



iv) 第7回 面接試験の基礎とグループディスカッション選考対策
就職対策講座の様子

(2) 留学生のための就職相談コーナー

留学生の就職活動に対する「迷い」や「悩み」に対処するため留学生のための就職相談を行っている。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2020年4月より8月まで対面相談は閉室し、ZOOMによるリモート相談を導入した。対面相談は9月より再開し、吹田、豊中および箕面キャンパスで週1回開室した。令和2年度利用者数は対面相談が延べ23名（昨年度53名）、ZOOM相談が延べ22件（昨年度実施なし）、メールによる相談は延べ135件（昨年度40件）となっており、メール相談が昨年度よりも3倍になった（表9、10参照）。

2020年度 留学生のための就職相談コーナー

【お知らせ】対面の就職相談コーナーを9/1より再開します！

対面	時間	場所
豊中	毎週火曜日12:00～13:00	学生交流棟 2階 国際教育交流センター ミーティングルーム
箕面	毎週水曜日12:00～13:00	B棟 1階 国際教育交流センター 箕面分室
吹田	毎週木曜日12:00～13:00	ICホール2階 講義室3

ZOOM 担当者と日程調整します。 メール いつでもメール可能

申込み career@ciece.osaka-u.ac.jp

1. 希望するメディア 対面 ZOOM メール ※対面の場合は希望日
2. 氏名 3. 学部/学科 4. 学年 5. 国籍 を書いて申し込んでください。
件名に「相談コーナー申し込み」と書いてください。

CIEE 大阪大学国際教育交流センター コーディネーター 魚崎典子特任准教授

Consultation on Job Search for International Students 2020

(Notice) Face-to-face consultation will be available from Sep. 1, 2020.

Face-to-face	時間	場所
Toyonaka	12:00 ~ 13:00 (Tuesdays)	CIEE Meeting Room, 2nd floor, Student Service and Union
Minoh	12:00 ~ 13:00 (Wednesdays)	CIEE Minoh Branch, 1st floor, B-building
Suita	12:00 ~ 13:00 (Thursdays)	Room 3, 2nd floor, IC Hall

ZOOM date & time to be arranged e-mail e-mail us anytime

Application career@ciece.osaka-u.ac.jp

Email us with 1. Your preferred media Face-to-face ZOOM e-mail
※ If face-to-face, your preferred date 2. your full name, 3. faculty, 4. year, and 5. nationality. Put "Career Consultation" in the subject line.

CIEE Center for International Education and Exchange Coordinator Noriko UOSAKI, specially appointed associate professor

図5 就職相談コーナーポスター

主な相談内容は以下の通りである。

- ・履歴書の日本語チェック（複数）
- ・エントリーシートの日本語チェック（多数）
- ・オンライン面接について（複数）
- ・英語で就活がしたい。（複数）
- ・SPIがうまくできない
- ・企業の探し方について
- ・自己分析ができない
- ・インターンシップがしたい
- ・卒業後の就活について（特定活動ビザ）（複数）
- ・プレゼンテーションにおける注意すべきところについて
- ・「自分らしい写真」について
- ・英語のできるインターンシップ
- ・OBOGの連絡の方法
- ・模擬面接できるか？
- ・後期課程を中途退学して就職したい

表9 相談コーナー利用状況（月別・出身国別）

	中 国	ケ ニ ア	イ ン ド	イ ラ ン	台 湾	メ キ シ コ	タ イ	ベ ラ ル ー シ	エ ジ プ ト	カ ザ フ ス タ ン	シ リ ア	計
9月		1			1							2
10月	1			1								2
11月					2	1						3
12月	2						1	1				4
1月	3		1						2	1		7
2月	3											3
3月	1										1	2
	10	1	1	1	3	1	1	1	2	1	1	23

対面相談

	中 国	マ レ ー シ ア	韓 国	イ ラ ン	台 湾	メ キ シ コ	カン ボ ジ ア	香 港	パ キ ス タ ン	プ ラ ジ ル	モン ゴ ル	計
4月												0
5月	1											1
6月	2			1	3	1						7
7月	1				1							2
8月							1					1
9月		1										1
10月				1								1
11月												0
12月	1							1	1			3
1月	1									1		2
2月	1											1
3月	2										1	3
	9	1	0	2	4	1	1	1	1	1	1	22

ZOOM相談

表10 メール相談件数（月別・出身国別）

	イ ン ド	ベ ト ナ ム	中 国	レ バ ノ ン	イ ラ ン	イン ド ネ シ ア	台 湾	プ ラ ジ ル	エ ジ プ ト	ア メ リ カ	カ ザ フ ス タ ン	シ リ ア	ミ ヤ ン マ ー	韓 国	計
4月															0
5月	5	2	2												9
6月	6		3	2	1	3									15
7月							2	4							6
8月															0
9月			5			2		5							12
10月			6					2	2	1					11
11月			3												3
12月			22												22
1月			11						1						12
2月			18												18
3月			20								2	1	1	3	27
	11	2	90	2	1	5	2	11	3	1	2	1	1	3	135

VIII. 海外派遣留学支援

国際教育交流センターでは、本学学生の海外派遣留学を促進・支援するために、毎年様々な取り組みを行っている。留学を希望する学生数の増加や休暇期間を利用した語学留学へのニーズに応え、短期語学研修プログラムを企画・実施するとともに、海外留学オリエンテーションでの情報の提供や、学期中の相談体制を通じて、留学に対する学生の疑問や不安にこたえ、サポートを充実させている。

1. 海外研修・異文化体験プログラム

2020年度の短期海外研修として、(1) 英国のヨーク大学および(2) オーストラリアのクイーンズランド大学（この二大学への派遣についてはCIEE（国際教育交換協議会）日本代表部に外部委託）、そして(3) フィリピンのエンデラン・カレッジ（アークスリーに外部委託）での夏季語学研修、さらに(4) オーストラリア・モナシュ大学での春季語学研修を対面で実施する予定であった。これらのプログラムは、海外体験を希望する学生への夏季・春季休暇を活用した語学留学機会の提供に加え、協定校への交換留学に向けたステップとなる海外体験としても位置付けている。クイーンズランド研修は、海外滞在経験の浅い学生を対象にしていることから研修後の語学試験の受験を義務付けていないが、ヨーク研修とモナシュ研修では英語力の強化の目安および学習への動機づけとして、研修前と、研修中あるいは研修後に、IELTSまたはTOEFLの受験を義務付けている。また、事前研修として留学生との交流学習の場も提供予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度は対面での研修が全て中止となった。

対面による語学研修は中止となったが、その代替プログラムとして、オーストラリア・モナシュ大学による春季語学研修プログラムのみ、3週間のオンライン語学研修として実施され、12名の学生が参加した。また、2020年度は、研修の教育的効果を高めるために、事前研修（2021年1月8日）と事後研修（2021年3月8日）をオンラインにより実施した。事前研修では、研修中の目標設定を行い、事後研修では設定した目標の達成度を確認した後、今後の語学学習の目標を考える機会とした。また、今回の特筆すべき点は、これまでは、カリキュラムの都合上対面の語学研修に参加できなかった医学部や理学研究科の学生が、オンライン研修には参加することができたことである。今後も、より多くの学生が海外語学研修に参加できる機会を提供するために、オンライン語学研修の提供は来年度以降も継続予定である。

(1) 事前研修と事後研修の様子



【事前研修の様子】



【事後研修の様子】

(2) モナシュ大学春季語学研修（オンライン） 研修日程（参加者 12 名）

2021 年 2 月 8 日(月) 2021 年 2 月 26 日(金)	モナシュ大学によるオンライン語学研修（前半） （参加者 5 名）
2021 年 2 月 15 日(月) 2021 年 3 月 5 日(金)	モナシュ大学によるオンライン語学研修（後半） （参加者 7 名）

表 1 2020 年度モナシュ大学春季語学研修プログラム派遣参加者

2020 年度モナシュ大学春季語学研修プログラム (2021.2.8-2.26/2021.2.15-3.5 実施)			
	プログラム期間	所属部局	学年
1	2 月 8 日～2 月 26 日	人間科学部	U2
2	2 月 8 日～2 月 26 日	外国語学部	U2
3	2 月 8 日～2 月 26 日	法学部	U2
4	2 月 8 日～2 月 26 日	言語文化研究科	D2
5	2 月 8 日～2 月 26 日	理学研究科	M1
6	2 月 15 日～3 月 5 日	人間科学部	U2
7	2 月 15 日～3 月 5 日	人間科学部	U2
8	2 月 15 日～3 月 5 日	外国語学部	U2
9	2 月 15 日～3 月 5 日	経済学部	U1
10	2 月 15 日～3 月 5 日	医学部	U3
11	2 月 15 日～3 月 5 日	工学部	U2
12	2 月 15 日～3 月 5 日	理学研究科	M2

2. 海外留学オリエンテーション

2020 年度は、昨年度に引き続き新入生を対象とした海外留学オリエンテーション入門編、大学間交換留学オリエンテーションに加え、幅広い専攻・年次の学生が留学への関心を高め、留学の多様なあり方の具体的なイメージをつかめるよう、海外留学フェアの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、全て中止となった。ただし、大学間交換留学オリエンテーションの代わりに、準備していた配布資料を大阪大学のホームページに掲載した。

(1) 海外留学オリエンテーション入門編

主に新入生を対象とし、入学当初の段階で海外への興味関心を喚起する目的で、1・2 年生が共通教育を受ける豊中キャンパスで実施を予定していた。オリエンテーションの主な内容は、在学中の交換留学制度や夏季・春季休暇を使った短期語学研修プログラムの説明のほか、プログラム参加学生の体験談や、質疑応答である。また、交換留学に向けた準備として、交換留学生と本学の一般学生が共に受講する英語科目である国際交流科目や、教員や留学経験学生による留学相談などの情報提供も行う予定であった。

(2) 海外留学フェア

海外留学フェアは、2019 年度から開始され、留学に関心のある学生に対し、留学の様々な選択肢を紹介し留学への動機付けを図るとともに、学内の各留学プログラムや大学間交換留学等海外留学に関する情報を幅広く得てもらうことを目的としている。ここでは学内関係部局のみならず、協定校や、大使館などの関係団体も数多く参加してもらい、学生に対して留学の魅力を広くアピールし、留学の実現につなげることを目指している。

(3) 大学間交換留学オリエンテーション

交換留学の制度と手続きを解説する大学間交換留学オリエンテーションを国際部国際学生交流課の協力のもと開催している。



【大学間交換留学オリエンテーションの資料掲載画面と内容】

3. 大学間交換留学人数

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020 年度の大学間交換留学派遣は全て中止となった。交換留学派遣が渡航することなく中止となった学生数は 93 名であった。2020 年度の交換留学内定学生の状況を表 2 に示す。

このような状況であっても、2021 年度大学間交換留学へは 139 名の応募があった。応募者については、提携大学が受け入れに際し要求する語学能力水準などの条件をクリアし、書類選考を通過した学生に対し、学内面接選考を実施した。これに合格して、2021 年度の交換留学派遣の推薦を得た学生数は、131 名である（大学間交換留学のみ）。過去 5 年間の大学間交換留学への応募者数は表 4 の通りである。ここから、多くの学生が海外留学に興味を持っていることがうかがえる。

表 2 2020 年度の交換留学内定学生の状況

■ 2020 年春学期実施について

状態	人数
中止（渡航なし）	1
中断（途中帰国）	21
オンライン授業（帰国済）	34
オンライン授業（現地滞在）5/29 時点	12
合計	68

■ 2020 年秋学期実施について

状態	人数
中止（渡航なし）	88
オンライン授業（渡航なし）（予定）	5
オンライン授業（現地滞在）9/11 時点 （2 月から滞在中の学生）	1
合計	94

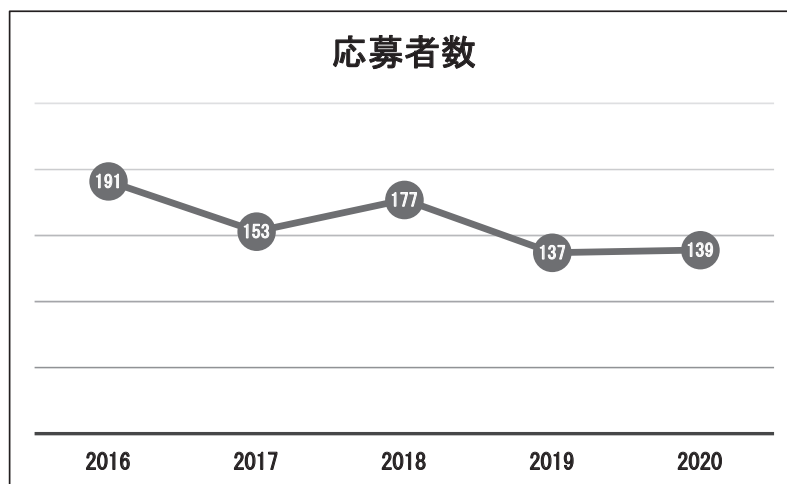
表3 交換留学派遣推薦者数（大学間協定）

地域名	国・地域名	相手大学名	参加者数
アジア	タイ王国	チュラロンコン大学	2
	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	1
	韓国	慶尚大学校	1
ヨーロッパ	英国	リーズ大学	1
	オランダ	グローニンゲン大学	4
	ドイツ	ルール・ボーフム大学	1
	ハンガリー	エトヴェシュ・ロラーンド大学	1
北米	アメリカ	カリフォルニア大学	2
オセアニア	オーストラリア	アデレード大学	2
合 計			15

※全員オンラインによる参加。

表4 大学間交換留学応募者数の推移

※ 2016～2019 年応募者数は追加募集・本募集の合計、2020 年度は現時点では本募集者数のみ。



4. 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション

国際教育交流センターでは、国際部国際学生交流課と協力して、海外での研修あるいは留学を予定している学生を対象に、試験が終了する時期に合わせて派遣前危機管理オリエンテーションを実施している。

2020年度は、2021年2月12日にオンライン（参加者160名）で開催し、海外渡航中の健康管理など日常生活における危機管理に加え、テロを含む海外での治安に関する注意点などについての情報提供を行った。さらに、留学を予定している学生を対象とした危機管理オリエンテーションをオンラインにより実施した。以下に、当日のスケジュールを示している。

【プログラム】

2020年度第1回留学・海外研修等危機管理オリエンテーション

日 時：2021年2月12日（金） 15：00～16：35

実施方式：ZOOM

司 会：秋山 徹雄（国際部 国際学生交流課）

〈プログラム〉

15：00～15：05 開会の挨拶

近藤 佐知彦（国際教育交流センター 教授）

15：05～15：20 「海外渡航時の諸手続きと留意事項について」

秋山 徹雄（国際部 国際学生交流課）

15：20～15：35 「海外渡航時の健康管理について」

馬場 幸子（医学系研究科 助教）

15：35～15：45 質疑応答

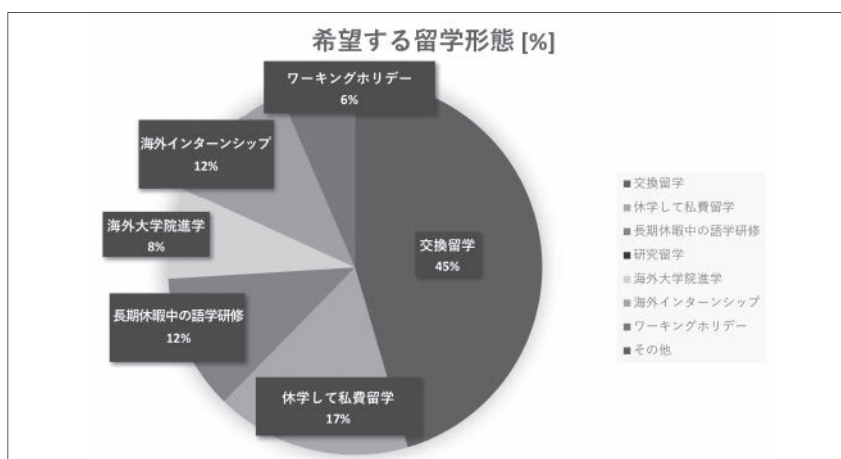
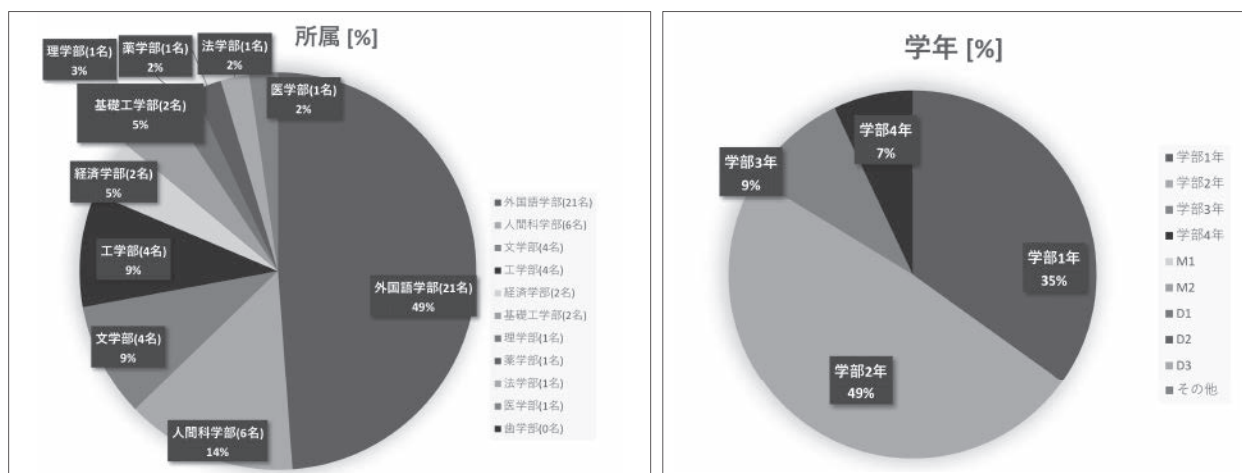
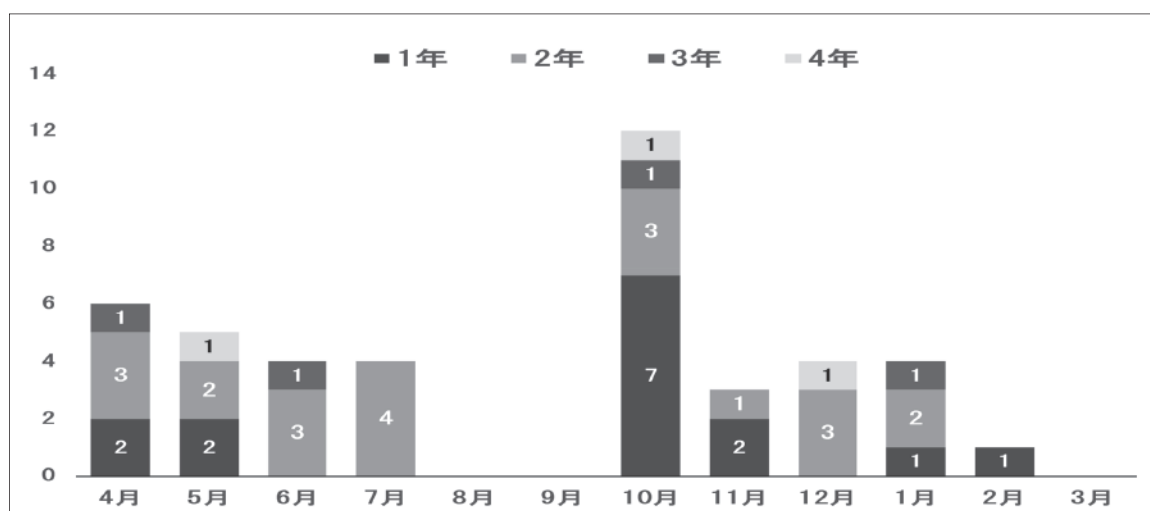
15：35～15：45 休 憩

15：45～16：30 OSSMA映像放映

5. 海外留学相談

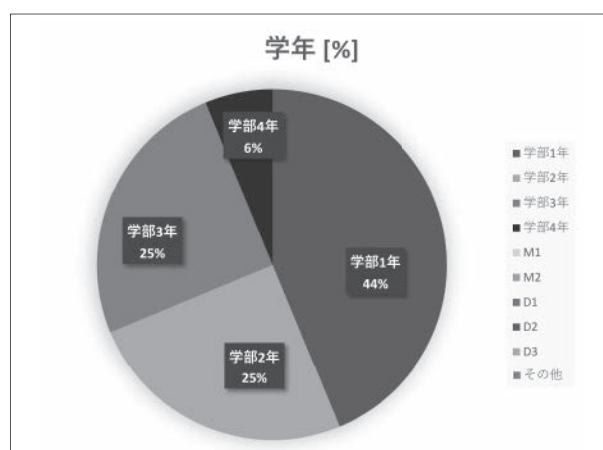
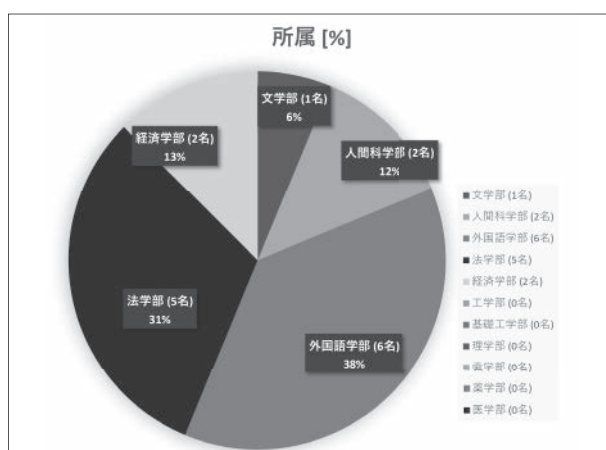
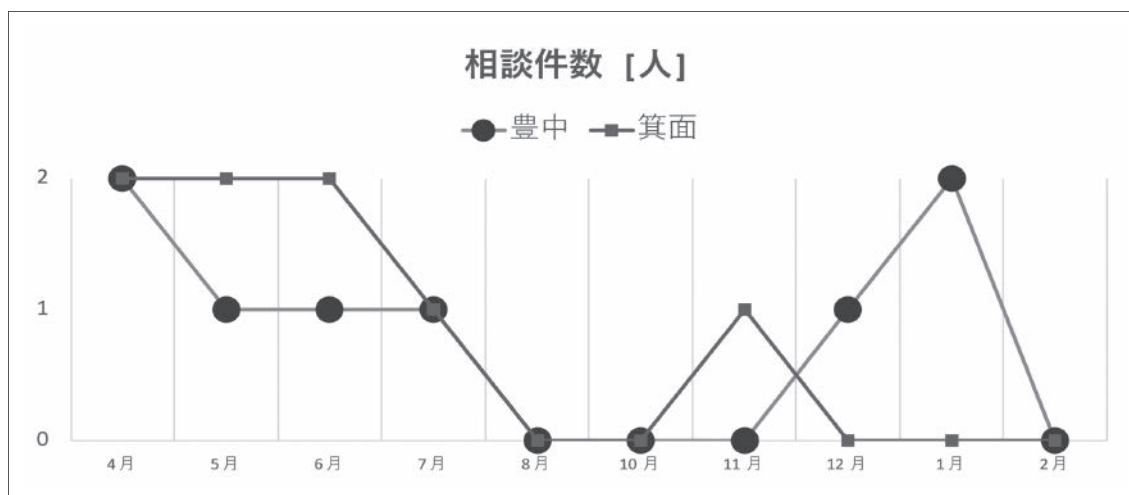
(1) 教員による留学相談

2020年度は、SkypeとZOOMを用いて、授業期間中（2020年4月9日～2021年2月4日）に週2～3回、教員による留学相談をオンラインで実施した。留学相談は留学ポートフォリオシステムを用いて随時受け付けた。相談利用者の総数は79名（2019年度は計124名）で、内訳は以下の通りである（留学ポートフォリオシステムによる集計、有効回答者数43名）。



(2) 学生による留学相談

交換留学を経験した本学学生2名により、Skypeにて定期的なオンライン留学相談会を開催した。相談利用者の総数は16名（2019年度は計31名）で、内訳は以下の通りである。



(3) COVID-19の影響により交換留学延期となった学生への留学相談

COVID-19の影響により交換留学延期となった学生への留学相談を実施した。該当学生93名に連絡し、相談申請をした学生は15名（そのうち3名欠席）であった。

1. 留学相談の概要

(1) 目的と概要

現在、2020年度秋冬学期については多くの大学が受け入れ中止を発表し、また受け入れ中止を発表していない大学は、危険度レベルが2以上のため渡航ができない状況となっている。そこで、93名の交換留学内定学生が延期・辞退・再応募の判断を迫られ、担当者への連絡が集中したため、個別に相談会を実施した。

(2) 日程

2020年8月24日（月）～9月4日（金）

(3) 実施方法

オンライン（Zoom）

2. 参加者

学部学生 15 名（3 名欠席）

（外国語学部 10 名、法学部 2 名、文学部 1 名、人間科学部 1 名、経済学部 1 名）

3. 相談対応教職員

近藤教授、石倉准教授、中野特任助教、塩尻事務職員、山下特任職員、古株事務補佐員

4. 主な相談内容

- ・ 交換留学の時期や期間の変更手続き
- ・ 2021 年度大学間交換留学への再応募の手続き方法
- ・ 交換留学を中止して就職活動をすべきか、交換留学を延期するかの判断
- ・ 今後の交換留学の見通し
- ・ 就職活動や卒業の時期
- ・ 留学先のオンライン授業の受講方法
- ・ ビザに関する相談



【オンラインによる留学相談の様子】

6. 英語学習支援プログラム Project HELP!

国際教育交流センターでは、2015年度から本学の英語学習者（メンティー）と英語が堪能な留学生（メンター）をマッチングし、メンティーのInternational English Language Testing System（英語力証明試験。以下、IELTS）のスコア向上を目指す3ヶ月間の英語メンタリング学習プログラム‘Project HELP!（Harmonized English Language Program, 以下、HELP!）’を実施している。

HELP!は、毎年度2回実施されており、マッチングされたメンティーとメンターが、特にスピーキングとライティングに焦点を当て、メンティーのスコア向上（本学の交換留学派遣に必要なIELTS 6.0以上）を目指して行う、3ヶ月間で90分×8回、計12時間の英語メンタリング学習である。

HELP!における「メンタリング」とは、メンターがメンティーに「英語を教える」のではなく、「目標とするIELTSスコアが獲得できるよう支援し、英語力向上につながる行為・行動を導くこと」である。毎回のメンタリングについては、(株)アンザスインターナショナルにより構築・管理されたウェブサイト「MEnTOR System」を使ってメンティーが記録し、担当教職員がメンタリングの進捗状況を常に観察している。さらに、HELP!は、ブリティッシュ・カウンシル（以下、BC）および日本英語検定協会（以下、英検協会）の協力のもと、オリエンテーション時にメンターへのIELTS指導研修やメンティーへのIELTS試験（スピーキングを除く）も実施している。8回のメンタリング終了後、メンティーにはIELTS受験およびスコア報告を義務付けており、メンターには修了証が授与される。このように、外部機関の協力により制度化された本プログラムは、メンター・メンティーともに参加者満足度が高く、每期平均95%以上である。

メンターの国籍は様々であり、これまでに46カ国からの留学生が参加している。また、メンティーの所属学部・研究科については、外国語学部、法学部、経済学部、工学部・工学研究科、基礎工学部、医学部・医学研究科の学生による応募が多く、HELP!は全学的に需要のあるプログラムであるといえる。

2015年度のHELP!第1期は11ペアから開始した。できる限り多くのメンティーが参加できるように、可能なメンターには2人のメンティーを担当してもらい、第4期以降は、每期30組以上のペアをマッチングしている。2019年度は、第9期は35組（メンター26名、メンティー35名）、第10期は34組（メンター25名、メンティー34名）のペアをマッチングした。

2020年度は、パンデミックの影響により、説明会、オリエンテーションをオンラインで実施した。メンタリングは、学内の活動基準に合わせて、対面とオンライン併用可とした。交換留学生の減少によりメンターの数が増減したため、マッチング数も少なくなり、第11期は23組（メンター17名、メンティー23名）、第12期は14組（メンター11名、メンティー14名）であった。ただし、オンラインによるメンタリングは互いの都合が合わせやすかったためか、メンタリング修了率は第11期、第12期とも100%であった。そのため、今後も、Project HELP!の質向上を目指し、オンラインの活用を追求する予定である。

また、每期メンターとメンティーの交流会も実施している。2019年度秋冬学期は、石橋商店街にあるタローパンの協力のもと、同店にてHELP! Caféが実施され、哲学カフェやボードゲームを通して交流を深めたが、2020年度はオンラインにより実施した。来学期もオンラインによるHELP! Caféを予定しているが、海外にいる元メンターをゲストに迎えるなど、オンラインならではのイベントを計画し、より充実した交流会を目指している。

さらに、2018年度から、学内プロジェクトとしてのHELP!の他に、外部機関と連携して、HELP!+が開始された。このHELP!+は、2018年8月に、株式会社甲南学園サービスセンター（以下、KSC）を実施主体とし、CIEEが協力して運営したものである。メンターはHELP!修了証保持者に限定し、メンティーは兵

庫県にある高校生を対象とした。期間は、3日間で計8時間の集中型プログラムであり、プログラム終了後はKSC・CIEE連名の修了証も授与される。2018年度のメンティーは7名、2019年度は2名で、高校生メンティーの満足度も高かったため、今後もHELP!+の実施を予定している。

ただし、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、8月のHELP!+は中止となった。その代わりに、KSCと甲南高校による、グローバル・スタディ・プログラム「国内留学特別プログラム・対面セミナー」や、アークスリー主催による小中学生対象の「留学生との英語体験学習」にHELP! 経験学生を派遣し、これまでとは形を変えた新たなHELP!+を実施し、学外連携・地域貢献の取り組みを進めた。



【オンラインHELP!オリエンテーション後の集合写真】



【オンラインHELP! Caféの様子】

教員による留学相談

学期期間中を中心に、大阪大学国際教育交流センター教員による海外留学に関する個別面談を実施しています(予約制)。交換留学への応募を考えている方も、留学に少し興味がある方も、ぜひ、個別面談を活用してみてください。

2020 年度秋冬学期は、当分の間 ZOOM によるオンライン留学相談となります。



面談予約方法

留学相談予約は WEB サイト「留学ポートフォリオ」の「面談予約」から行ってください。

留学ポートフォリオ URL
<https://exportfolio.ciee.osaka-u.ac.jp>



「留学ポートフォリオ」はマイハンダイのショートカット「留学支援サイト」からもアクセスできます。



2020 年度 秋冬学期の面談日

※面談日に変更がある場合は、留学ポートフォリオ上でお知らせします。

豊中キャンパス

- ◇日時: 学期期間中の毎週**木**曜日 12:00~13:00
- ◇場所: ZOOM によるオンライン相談

箕面キャンパス

- ◇日時: 学期期間中の毎週**火**曜日 12:00~13:00
- ◇場所: ZOOM によるオンライン相談

吹田キャンパス

- ◇日時: 留学ポートフォリオ上でご確認ください。
- ◇場所: ZOOM によるオンライン相談

※この件に関するお問い合わせは、国際教育交流センター (go-abroad@ciee.osaka-u.ac.jp) までお願いします。

交換留学経験学生による留学相談

Interested in studying abroad? Come on in!

「交換留学経験者に生の情報を聞いてみたい」という方、昼休みに交換留学経験者が相談を受け付けています。留学前の準備のこと、留学中のこと、留学後のこと…etc. ぜひ相談してください。お待ちしております！

2020 年度 秋～冬学期の予定

* 予約不要。

2020 年度秋～冬学期は、新型コロナウイルスの影響により、当分の間、オンラインによる留学相談を行います。通常授業再開と同時に、対面での相談となります。

オンライン相談を希望する人は、**Skype** にて、

- ① ユーザー名「学生による留学相談@阪大」で検索
- ② 「連絡する」をクリック
- ③ メッセージに「名前、所属、学年、学籍番号」を記入して送る
- ④ 承認を待つ
- ⑤ 承認後、相談開始

*相談が重なる場合は、待ってもらうことがあります。

*登録されたアカウントは、相談が終わり次第削除します。

企画：大阪大学交換留学経験者有志

協力：大阪大学国際教育交流センター／国際部国際学生交流課

この件に関するお問い合わせは、国際教育交流センター（go-abroad@ciee.osaka-u.ac.jp）までお願いします。



交換留学経験学生による留学相談

2020 年度 秋～冬学期の予定

* 予約不要。

豊中キャンパス：国際教育交流センター豊中分室前（学生交流棟 2 階）

◇ 担当：木本雄大（法学部国際公共政策学科 4 年）

オーストラリア国立大学（オーストラリア）交換留学

留学先での専攻：開発学・国際関係論

JASSO 海外留学奨学金受給

◇ 予定日時：	10 月 5 日（月）	12 : 00 ~ 13 : 00
	10 月 19 日（月）	12 : 00 ~ 13 : 00
	11 月 2 日（月）	12 : 00 ~ 13 : 00
	11 月 16 日（月）	12 : 00 ~ 13 : 00
	12 月 7 日（月）	12 : 00 ~ 13 : 00
	12 月 21 日（月）	12 : 00 ~ 13 : 00
	1 月 4 日（月）	12 : 00 ~ 13 : 00
	1 月 18 日（月）	12 : 00 ~ 13 : 00

箕面キャンパス：国際教育交流センター箕面分室（B 棟 1 階）

◇ 担当：田上桃実（外国語学部外国語学科英語専攻 4 年）

ウェズリアンカレッジ（アメリカ）交換留学

留学先での専攻：広告・マーケティングコミュニケーション

JASSO 海外留学奨学金受給

◇ 予定日時：	10 月 14 日（水）	12 : 00 ~ 13 : 00
	10 月 28 日（水）	12 : 00 ~ 13 : 00
	11 月 4 日（水）	12 : 00 ~ 13 : 00
	11 月 11 日（水）	12 : 00 ~ 13 : 00
	11 月 25 日（水）	12 : 00 ~ 13 : 00
	12 月 9 日（水）	12 : 00 ~ 13 : 00
	12 月 23 日（水）	12 : 00 ~ 13 : 00
	1 月 6 日（水）	12 : 00 ~ 13 : 00
	1 月 20 日（水）	12 : 00 ~ 13 : 00



企画：大阪大学交換留学経験者有志

協力：大阪大学国際教育交流センター／国際部国際学生交流課

この件に関するお問い合わせは、国際教育交流センター（go-abroad@cjee.osaka-u.ac.jp）までお願いします。

Ⅸ. サポートオフィス

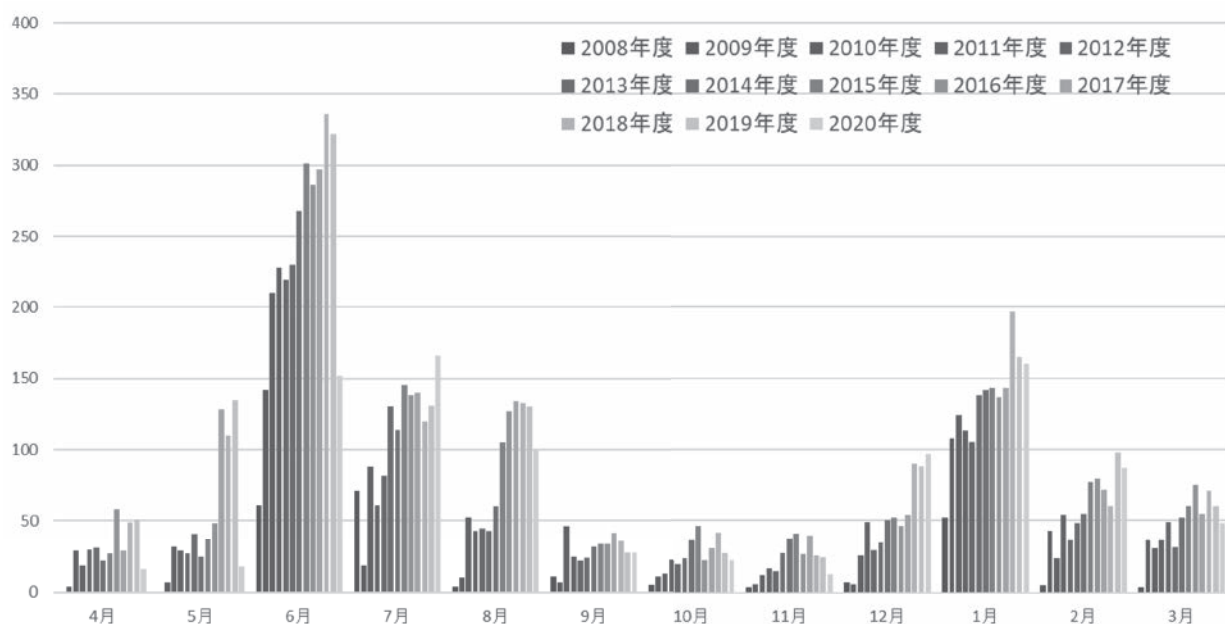
2007年10月に国際部学生交流推進課内に設置されたサポートオフィスは、大阪大学が文部科学省から国際化拠点整備事業（Global 30）に採択されたことに伴い、2009年10月、国際教育交流センター（旧留学生センター）内に新オフィスを設立し、事業を拡大・拡充した。

サポートオフィスでは、留学生・外国人研究者、およびその家族の方が必要とする、来日前の査証（ビザ）に関わる手続き、宿舍手配の支援、来日直後に必要な諸手続き、また日本滞在中に必要な在留手続き等を中心に、サポートや情報提供を行なっている。このような活動をととして、世界中から大阪大学に来る留学生・外国人研究者と大阪大学のスタッフ全員の絆を大切に、留学生・外国人研究者が安心して日本で生活し、本来の目的である勉学・研究活動に集中できるように支援することを目指している。2020年度のサポートオフィスの主な取り組みは次のとおりである。



1. 査証（ビザ）関連手続きの支援

2020年度の在留資格認定証明書（CESR）交付申請手続きの件数は908件であった（「留学」788件、「教授」65件、「文化活動」28件、「家族滞在」27件、その他0件）。新型コロナウイルスの影響により、昨年度より3割程度減少している。CESR Web申請システムは、申請者が利用しやすくなるよう年々改良を重ねている。ビザ関連支援に関連する電話対応件数は約1,173件、窓口対応件数は約52件であった。グラフは2008年度からの月別のCESR Web申請件数を示す。



2. 住宅・宿舍手配の情報提供・支援

2010年4月にUR都市機構との留学生・外国人研究者に対する賃貸住宅貸与に関わる全学での包括協定が締結され、連帯保証人不要・敷金減免や研究者向けには家具家電付住宅とNPOによる生活サポートサービスが実現した。これに伴い、URとの契約件数（入居者人数）は、2009年度は1件（1名）だったが、サポートオフィスが業務を引き継いだ2010年は10件（14名）、2011年度は33件（42名）、2012年度は48件（62名）、2013年度19件（26名）、2014年度43件（51名）、2015年度47件（60名）、2016年度77名と確実に支援実績を伸ばしている。2017年3月末日現在、約55名がキャンパス周辺のUR賃貸住宅に居住している。

2017年3月31日をもってサポートオフィスでのUR新規受付は終了し、4月1日以降は大阪大学生協マイルームにて受付並びに対応を開始した。ハウジングリクエスト機能は2019年7月31日をもって終了しているが、引き続きホームページにおいて、留学生や外国人研究者自身がおおよそどのような宿舎に該当するのかを導く宿舎ナビシステムの提供をしている。2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る水際対策の強化により、留学生の新規渡日は困難な状況が続き、在学中の学生にとっても、授業の多くがオンラインで実施される状況で、宿舎支援に関する電話対応件数は約8件、窓口対応件数は約5件と減少した。情報提供のツールとしてホームページの役割が増す中、大阪大学生協の協力を得て、「オンライン内覧」の案内を2020年10月から開始し、各種移動制限がある中での部屋探しをサポートすることができた。

3. 新規来日外国人留学生・研究者向けオリエンテーションの開催

サポートオフィスとIRISが主催となり、サイバーメディアセンターの協力のもと、新規来日者向けに、吹田・豊中キャンパスにて年2回オリエンテーションを開催した。2020年度の参加者の合計は新型コロナウイルスの影響を受け例年より大幅に減少し、40名であった。主な内容は以下のとおりであった。

- ① 異文化での生活についてのアドバイス
- ② 学内外のコミュニティとネットワークの紹介
- ③ 在留資格に関する案内
- ④ 市役所等での手続きの案内
- ⑤ 学内の情報ネットワークの説明
- ⑥ 日本語履修についての説明（留学生対象）



2020年度 秋期
新規来日留学生・外国人研究者向けオリエンテーション
主催：サポートオフィス&IRIS (国際教育交流センター)

◆ 開催日時・場所

2020年 9月28日(月) 豊中キャンパス、全学教育推進機構 講義215 講義室105
13時00分 受付開始 13時30分～(75分程度) 開講
14時45分 受付開始 15時15分～(75分程度) 日本語

2020年 10月6日(火) 吹田キャンパス コンベンションセンター2階 会議室2
13時00分 受付開始 13時30分～(75分程度) 開講
14時45分 受付開始 15時15分～(75分程度) 日本語

◆ 実施内容

- ・大阪大学で新しい生活を送るにあたってのアドバイス
- ・IRISとその他の学内外コミュニティについて
- ・在留資格について
- ・市役所などでの手続き
- ・大阪大学のインターネットサービスについて
- ・日本語プログラム概要等について
- ・履修相談・相談等

吹田キャンパスマップ 豊中キャンパスマップ

サポートオフィス
TEL: 06-6879-4750
E-mail: supportoffice@otc.osaka-u.ac.jp

<お問い合わせ>

留学生交流情報室「IRIS」
TEL: 06-6879-7076
E-mail: iris@otc.osaka-u.ac.jp

4. 留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者向け研修会の開催

留学生・外国人研究者の受入に関わる体制支援の強化を目指して、留学生・外国人研究者受入事務に初めて関わる担当者を対象に、受入に伴う在留資格認定証明書交付申請に必要な手続きや宿舍支援（情報提供）に関する研修会を以下の日程で開催した。グラフは研修会への参加者数の推移を示す。

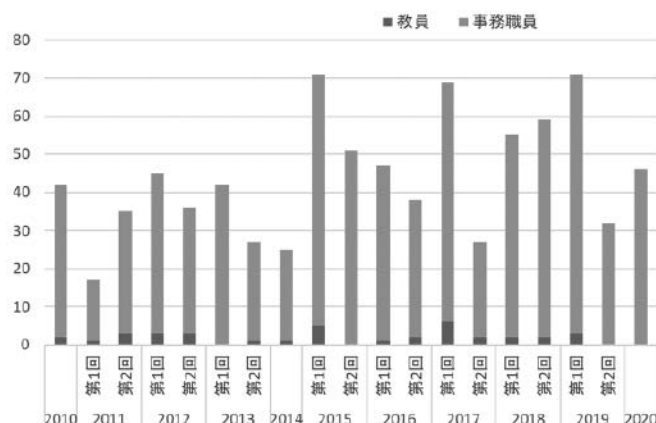
なお、例年は夏期および冬期の2回開催としているが、2020年度は新型コロナウイルスの影響を受け、冬期1回のみで開催とした。

【2020（R.2）年度研修会】

参加者 46 名（教員 0 名、事務職員 46 名）

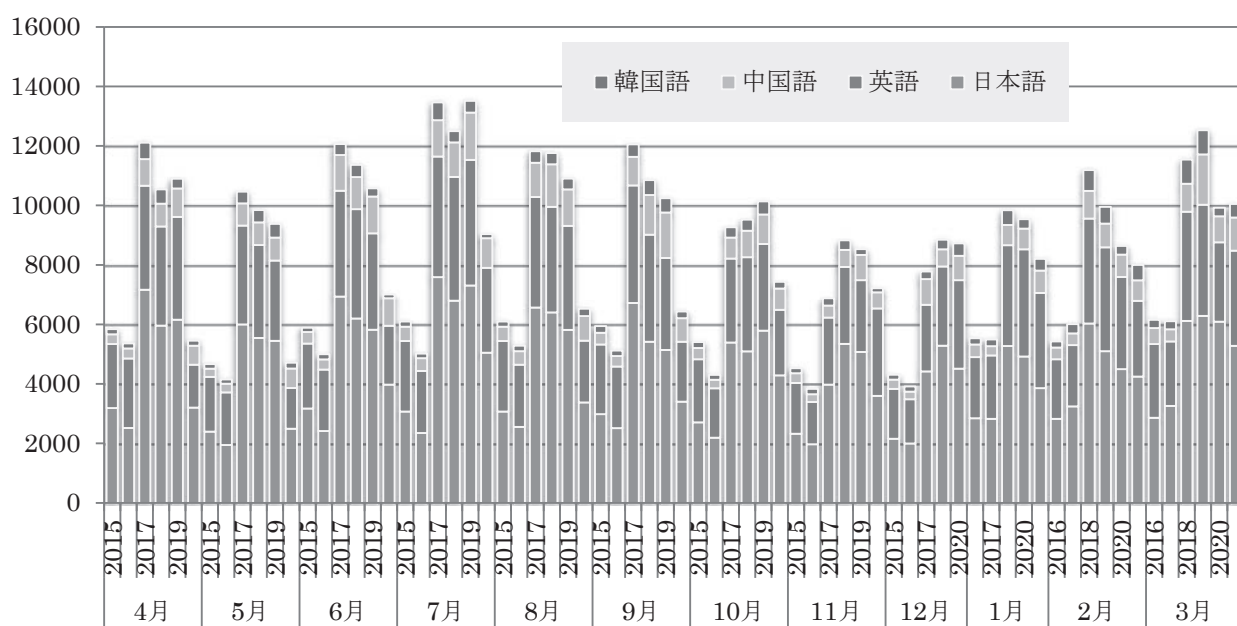
2020 年 12 月 4 日（金） 13：30－15：40（豊中）

2020 年 12 月 8 日（火） 13：30－15：40（吹田）



5. ホームページの管理運営

サポートオフィスの業務や留学生・外国人研究者が必要な情報を集約したホームページを4ヶ国語で公開している（日・英サイトは2010年4月より、中・韓サイトは2011年4月より公開）。2020年度のサイトの閲覧件数は、日本語サイトが約47,262件、英語サイトが約28,801件、中国語サイトが約9,472件、韓国語サイトが約3,250件であった。グラフは各言語の閲覧件数を示す。



6. 各種印刷物の改訂版作成・配布

『Coming to Osaka』は、主にCESR送付時にE-mailで、『Living in Osaka』は新規来日者向けオリエンテーションおよび留学生・外国人研究者受入事務担当者研修会でホームページからのダウンロードを呼び掛けた。



X. 大学院・学部教育

国際教育交流センター教員はそれぞれの専門分野に応じて、兼任教員として大学院・学部教育を担当している。以下、1. 授業担当、2. 研究指導、3. 研究指導学生学位論文、4. リサーチ・アシスタントの受入れ、の順で、教学活動を記述する。

1. 授業担当

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程

【科目名】応用言語学研究A

【講義題目】第二言語教育学のための言語心理学（西口光一）

【講義概要】現代の外国語教育学は、現代の言語研究が拠り所としているのと同じ言語観や言語コミュニケーション観に、基づいて成立している。その一方で、人文科学の分野においては、記号論の観点から言語や思考や意識などを基礎づけなおす作業がすすんでいる。本講義では、そうした動きの中心に位置するバフチンの言語哲学・記号論を、外国語教育学の興味・関心に引きつけて読み解いた。授業は、『対話原理と第二言語の習得と教育』（西口光一著、くろしお出版）の各章を輪読する形で進めた。また、バフチンの言語観に基づいて開発された基礎日本語教科書『NEJ: A New Approach to Elementary Japanese — テーマで学ぶ基礎日本語』（くろしお出版）に関して、バフチン言語論との関連や教育内容と教育方法等について解説した。

【科目名】応用言語学研究B

【講義題目】ダイアロジズムと第二言語教育学（西口光一）

【講義概要】バフチンの言語哲学・文化記号論をさらに深く理解し、外国語教育学への応用を検討することを目的として、『新次元の日本語教育の理論と企画と実践』（西口光一、くろしお出版）輪読の形式で講じた。随時に、自己表現活動中心の基礎日本語教育の方法についても言及した。

【科目名】言語技術研究A

【講義題目】日本語による書記言語によるコミュニケーション（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的は、日本語による書記言語の特徴と関連の概念について理解し、それをもとに、種々のメディアを通じたコミュニケーション、および言語教育の実践上の問題について考察することである。考察に際しては、ジャンル分析の手法を援用しつつ、各種文書の具体的な言語資料を材料として表現やテキスト構造の分析を行った。また、関連の学術論文等の文献を読むことにより、書記言語でのコミュニケーションにおいて生じる誤解や、正確な伝達の不成功に関する課題についても認識を促した。

本授業では、基本的に、講義に加え、議論や意見交換を促し、全体での議論を深化させる形態をとった。また、学期後半の受講者による発表期間には、自身が発表を担当しない文献の場合にも事前に必ず読んでコメントができるように、問題意識を持って議論に臨むよう注意を促した。

【科目名】言語技術研究B

【講義題目】アカデミック・ライティングの実践と研究（村岡貴子）

【講義概要】本授業の目的は、関連の学術論文等の文献を読み、コミュニケーションの目的や場面に応じた、書記言語コミュニケーションとしてのライティング活動について理解を深めることである。特に、大学院生として研究活動を行う上で必要となるアカデミック・ライティングに関して、デイスコース・コミュニティの概念から、受講者各自の専門分野における事情や方法論を客観的に把握できることを目指した。原著論文をはじめ、レポートやレジュメ、要旨の作成といった、アカデミックな場面でのライティング活動の特徴、および多様な背景を有する読み手への配慮について、具体例に基づき、十分な意見交換を行った。

本授業では、基本的に、講義に加え、議論や意見交換を促し、全体での議論を深化させる形態をとった。また、学期後半の受講者による発表期間には、自身が発表を担当しない文献の場合にも事前に必ず読んでコメントができるように、問題意識を持って議論に臨むよう注意を促した。個別の発表を行う期間に、院生自身の研究テーマやその方法の課題についても質疑を行う時間を持った。

【科目名】言語コミュニケーション論A

【講義題目】言語学習における自律学習とその支援（1）（義永美央子）

【講義概要】近年、言語学習において、学習者の自律（オートノミー）、すなわち自分自身の学習を管理する能力に注目が集まっている。教室外にも学習リソースが豊富にある現代社会において、言語学習者は「何をどのように学ぶか」をどのように決定しているのか。また、そうした主体的な学習を教師はどのように支援できるのか。本講義では、自律学習に関する基本概念を検討した上で、自律学習・学習者オートノミーやその支援に関する研究書を読み、自律学習がどのように生起するのか、また自律学習をどのように支援できるのかを考察した。

【科目名】言語コミュニケーション論B

【講義題目】言語学習における自律学習とその支援（2）（義永美央子）

【講義概要】春～夏学期の理論的検討に引き続き、この授業では、より実践的な観点からオートノミーや自律学習について検討した。具体的には、自律学習支援の具体的事例を複数検討した後、自律学習を促進もしくは支援するためのコラム原稿の執筆を行った。これらの過程を通じて、オートノミーの理論を実践的視点からより深く理解し、オートノミーの実践者・研究者としての知識・技能・態度を育成することを目指した。

【科目名】応用マルチメディア論A

【講義題目】ITによる言語教育の拡張（難波康治）

【講義概要】第二言語教育あるいは外国語教育にとって、IT技術の活用がどのような意味を持つかにについて検討した。今年度は、コロナウィルス感染の影響で、特にオンライン教育の重要性が高まったが、その基礎となる考え方のひとつであるインストラクショナルデザインの理論について学び、既存のデザインを参考に検討を行った。

【科 目 名】応用マルチメディア論B

【講義題目】外国語教育におけるインターフェイスの変革（難波康治）

【講義概要】メディア教育を前提として、映像がどのように語学教育を変えうるかについて、実践的に検討した。受講者がそれぞれテーマを設定し、映像リソースを企画・制作することで、映像制作の実践的な技術を学ぶとともに、動画による教育の可能性を検討した。

【科 目 名】言語文化教育論A

【講義題目】言語文化教育論入門（大谷晋也）

【講義概要】言語とは、文化とは、言語文化とは、そして言語文化教育とは何かということ、それらを取り巻く周辺領域を視野に入れながら再考した。世界の多言語・多文化状況を確認した後、フランスや日本などを例にとりながら、言語文化教育が担い、担わされてきた負の歴史について振り返るとともに、それを正へと転換する方策について考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】言語文化教育論B

【講義題目】言語文化教育の現状と課題（大谷晋也）

【講義概要】ヨーロッパやカナダ・ウズベキスタン・シンガポール・パプアニューギニア・南アフリカ・フィリピンなど、いくつかの国や地域に焦点を当て、現在行われている言語文化教育を知るとともに、よりよい教育の可能性について、院生の発表を元に検討した。

特に、異言語教育や少数言語に関する各国の言語（教育）政策を取り上げ、その目的と効果、理想と現実について知り、より平等で開かれた社会を目指した言語文化教育がどのようなものであるべきなのかを考察した。

同時に、言語文化・言語文化教育、およびその周辺領域に関する時事問題について随時取り扱い、この方面に関する幅広い視野の形成を期した。

【科 目 名】言語文化政策論A

【講義題目】「市民社会」とは何か（西村謙一）

【講義概要】「市民社会」とは何か、「市民社会」を構成する価値観や要素にはどのようなものがあるのかについて、主に理論的な側面から検討を行った。まず、「市民社会」概念と密接に関わる「公共圏」概念と「親密圏」概念について概観し、その後、クリスチャン・ヨブケ『軽いシティズンシップ』等に依りつつ「市民」概念についての理解を深めるための議論を行った。

【科 目 名】言語文化政策論B

【講義題目】多文化状況の中の「市民社会」（西村謙一）

【講義概要】「言語文化政策論A」でみた「市民社会」の思想を踏まえて、多文化・多民族状況の下における「市民社会」成立のための条件は何かについて、ウィル・キムリッカ等の議論を参照しつつ、検討を行った。

② 博士後期課程

- 【科目名】応用言語学特別研究A（西口光一）
- 【科目名】応用言語学特別研究B（西口光一）
- 【科目名】言語コミュニケーション論特別研究A（村岡貴子）
- 【科目名】言語コミュニケーション論特別研究B（村岡貴子）
- 【科目名】言語コミュニケーション論特別研究A（義永美央子）
- 【科目名】言語コミュニケーション論特別研究B（義永美央子）

(2) 人間科学研究科

① 博士前期課程

- 【科目名】共生行動論特別研究Ⅰ及び共生行動論特別研究Ⅱ（渥美公秀、権藤恭之、近藤佐知彦）、共生行動論特定研究Ⅰ及び共生行動論特定研究Ⅱ（渥美公秀、権藤恭之、近藤佐知彦）
- 【講義題目】国際化と共生社会（近藤佐知彦担当分）
- 【講義概要】夏期集中講義を三人の教員で分担、近藤は共生社会実現における国際化に関する分野について講義とワークショップを行った。

(3) 大学院高度副プログラム

- 【プログラム名】インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践
- 【プログラム実施部局／連携部局】国際教育交流センター／言語文化研究科
- 【履修対象者】大学院博士前期（修士）課程学生および博士後期課程学生
- 【修了要件】8単位以上を修得すること（原則として1年で修得すること）
- 【プログラムの趣旨・概要】グローバル化、ボーダレス化の進展に伴い、言語や文化を必ずしも共有しない人々の間でのコミュニケーションの必要性が大いに高まっている。こうした「インターカルチュラル・コミュニケーション」は、多様な価値観や思考様式への気づきを促す契機となる一方で、様々な誤解や対立を引き起こす場合もある。このような問題は、自文化で当然とされる言語行動様式等が共有されていないことが原因であることが多いものである。本プログラムでは、現代社会の多言語・多文化化の現状やインターカルチュラル・コミュニケーションに関する基礎理論を学ぶと同時に、実際のインターカルチュラル・コミュニケーション場面で生じる問題への対処方法について、実践的な課題を通じて考える。
- 【到達目標】本プログラムでの学習を通じて多様性への自覚を促し、地球市民としての知恵と態度を涵養すること。また、各授業での協働的な学習活動を通じて、背景の異なる他者とのコミュニケーションの際に、他者の話を傾聴し、かつ、他者への配慮ある発信方法を獲得すること。
- 【カリキュラムの構成】言語コミュニケーション論A・B（義永美央子）、言語技術研究A・B（村岡貴子）、言語文化教育論A・B（大谷晋也）、言語文化政策論A・B（西村謙一）から原則として1年以内に8単位を修得する。

(4) インターナショナル・カレッジ

【春～夏学期】

国際交流科目（※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
オンライン・リソースを活用したL2学習	Second Language Learning with Online Resources	魚崎 典子
日本の社会とイデオロギー	Japan: Society and Ideology	近藤佐知彦
日本における大学の国際化	Internationalization of Higher Education in Japan	石倉佑季子
科学英語入門	Introduction to Scientific English	岡本 紗知
異文化コミュニケーションとパフォーマンス	Intercultural Communication and Performance	中野 遼子

日本語 100 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	福良 直子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	義永美央子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 503	International Communication Seminar (Japanese) 503	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 600d	International Communication Seminar (Japanese) 600d	大谷 晋也
国際コミュニケーションセミナー 日本語 600e	International Communication Seminar (Japanese) 600e	矢部 正人
国際コミュニケーションセミナー 日本語 600f	International Communication Seminar (Japanese) 600f	伊藤 創

日本語 700 レベル（共通教育科目）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	大谷 晋也
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	福良 直子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	難波 康治
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	石倉佑季子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	有川 友子

【秋～冬学期】

国際交流科目（※共通教育科目の基礎教養科目として設定）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
文化：その理解へのアプローチ	Approaches to Understanding Cultures	有川 友子
異文化コミュニケーション入門	Introduction to Intercultural Communication	石倉佑季子
コンピュータを活用した語学学習	Computers in Language Learning	魚崎 典子
日本のメディアとコミュニケーション	Media and Communications in Japan	近藤佐知彦
科学と社会	Science and Society	岡本 紗知
言語コミュニケーションとパフォーマンス	Language Communication and Performance	中野 遼子

日本語 100 ～ 600 レベル

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
国際コミュニケーションセミナー 日本語 103	International Communication Seminar (Japanese) 103	難波 康治
国際コミュニケーションセミナー 日本語 203	International Communication Seminar (Japanese) 203	義永美央子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 303	International Communication Seminar (Japanese) 303	西口 光一
国際コミュニケーションセミナー 日本語 403	International Communication Seminar (Japanese) 403	福良 直子
国際コミュニケーションセミナー 日本語 500a	International Communication Seminar (Japanese) 500a	大谷 晋也
国際コミュニケーションセミナー 日本語 500b	International Communication Seminar (Japanese) 500b	藤澤 好恵
国際コミュニケーションセミナー 日本語 500c	International Communication Seminar (Japanese) 500c	伊藤 創
国際コミュニケーションセミナー 日本語 600a	International Communication Seminar (Japanese) 600a	岡崎 洋三
国際コミュニケーションセミナー 日本語 600b	International Communication Seminar (Japanese) 600b	大谷 晋也
国際コミュニケーションセミナー 日本語 600c	International Communication Seminar (Japanese) 600c	小原 俊彦

共通教育科目（700 レベル）

科 目 名（日本語名称）	科 目 名（英語名称）	担当教員名
総合日本語	Japanese for Advanced Communication	福良 直子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	義永美央子
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	大谷 晋也
専門日本語	Japanese for Academic Purposes	村岡 貴子
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	岡本 紗知
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	西村 謙一
多文化コミュニケーション（日本語）	Communication in Multicultural Contexts (Japanese)	大谷 晋也

2. 研究指導

(1) 言語文化研究科

① 博士前期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
M1	日中同形類義語学習に関する考察 — JFL 環境における日本語教材の開発に向けて —	西口 光一 (ホドシチェック・ボル)
M1	教室外における中国語を母語とする留学生のピア・レスポンスの試み — 「研究計画書」の作成支援のために —	村岡 貴子 (瀧田 恵巳)
M1	言語教育におけるアクティブラーニングによる学習者の自己開示に関する研究 — 留学生向けの日本語教育の観点から —	義永美央子 (小口 一郎)
M1	感情を表す表現を対象とした日越対照研究 — 「心」「腹」「肝」「腸」を用いた慣用句を中心に —	(田村 幸誠) 西村 謙一
M1	在日中国人家庭における言語使用および言語意識に関する一考察 — 家族構成員へのインタビューデータの TEA 法分析を通して —	(植田 晃次) 大谷 晋也
M1	m-learning における言語学習の学習意欲に関する研究 — 中国のリーディング語学アプリから —	(岩居 弘樹) 難波 康治
M2	日本における中国語母語話者の医療通訳育成についての研究 — 医療通訳学習者の語りの視点から —	(瀧田 恵巳) 大谷 晋也
M2	中華街留学における留学生の生活・進学に関する事例研究 — 日本の大学院に在籍する文系の中国人留学生のインタビューから	西口 光一 西村 謙一
M2	中国における日本語専攻の大学生が持つ卒業論文への執筆不安に対する調査・分析	村岡 貴子 (三宅 真紀)
M2	中国語を母語とする日本語学習者の動機づけの変化のプロセス	義永美央子 (高橋 克欣)
M2	日本語を母語とする社会人のビジネス・コミュニケーションの意識に関する研究 — とある中小企業の企業内コミュニケーションに焦点を当てて —	義永美央子 難波 康治
M2	中国の民間語学学校における日本語学習者の動機づけに関する質的研究	難波 康治 (榎本 剛士)
M2	日本語を母語とする社会人のビジネス・コミュニケーションの意識に関する研究	義永美央子 難波 康治

注) 「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。() 内は言語文化研究科等教員。

② 博士後期課程学生

学年	研 究 題 目	指 導 教 員
D1	資質・能力を養成するオンライン日本文化コースの開発 —中国の日本語専攻を例に—	西口 光一 (岩居 弘樹)
D1	外国にルーツを持つ子どものことばと学習	西口 光一 (村上スミスアンドリュース)
D1	日本国内勤務のビジネスパーソンの背景事情が配慮言語行動に与える影響 —Eメールによる日本語での書記言語コミュニケーションに焦点を当てて—	村岡 貴子 (植田 晃司)
D1	法学系日本語学術論文の構成要素と展開パターン	村岡 貴子 (今尾 康裕)
D1	オンラインの言語学習におけるピアインタラクションと自律的な学び —バーチャル実践共同体に関する調査をもとに—	義永美央子 難波 康治
D1	日本学校経営者の意味世界の探求 —解釈的客観主義アプローチを用いて—	義永美央子 (小口 一郎)
D2	日本語名詞修飾節の習得状況と習得過程 —エジプト人中級日本語学習者を中心に—	西口 光一 (平山 晃司)
D2	看護師への調査から見た医療現場における業界用語の使用実態 —業界用語の学習支援に向けて—	村岡 貴子 大谷 晋也
D2	外国にルーツを持つ子どもに対する日本語教育の方向性 —言語観・言語教育観の分析を通して—	義永美央子 難波 康治
D3	インドネシア北スマトラ州メダン市における日本語教育コミュニティの系譜	西口 光一 (榎本 剛士)
D3	ベトナム系移住者のモバイル・ライブズとことば —難民としての経験と日本での生活	義永美央子 西口 光一
D3	対話における協働とは —批判的読みを目指した協働学習における事例研究—	義永美央子 (岡田 悠佑)
D3	日本語学校の現職日本語教師を対象とした教師研修における授業観察モデルの提唱	(岩居 弘樹) 大谷 晋也

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科等教員。

③ 研究生

該当なし。

3. 研究指導学生学位論文

(1) 言語文化研究科

① 修士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
中華街留学における留学生の生活・進学に関する事例研究 — 日本の大学院に在籍する文系の中国人留学生のインタビューから —	西口 光一 西村 謙一
中国における日本語専攻の大学生が持つ卒業論文への執筆不安に対する調査・分析	村岡 貴子 (三宅 真紀)
日本語を母語とする社会人のビジネス・コミュニケーションの意識に関する研究 — とある中小企業の企業内コミュニケーションに焦点を当てて —	義永美央子 難波 康治
日本における中国語母語話者の医療通訳育成についての研究 — 医療通訳学習者の語りの視点から —	(瀧田 恵巳) 大谷 晋也
中国の民間語学学校における日本語学習者の動機づけに関する質的研究 — 社会環境との関連から —	難波 康治 (榎本 剛士)
日本語を母語とする社会人のビジネス・コミュニケーションの意識に関する研究 — とある中小企業の企業内コミュニケーションに焦点を当てて —	義永美央子 難波 康治

注)「指導教員」欄については、前者が主指導教員で、後者が副指導教員。()内は言語文化研究科等教員。

② 博士学位論文

論 文 題 目	指 導 教 員
大阪府の公立高校における多言語使用の実践 — 言語的少数派生徒を抱える教室でのエスノグラフィから —	(山下 仁) (植田 晃次) 難波 康治

*印は博士論文資格審査後の研究指導教員。()内は言語文化研究科等教員。

4. リサーチ・アシスタント (RA) の受入れ

研 究 プ ロ ジ ェ ク ト 名	採用時間数	担 当 教 員
アカデミックプレゼンテーション教育方法開発のための基礎調査	83 時間	福良 直子

XI. その他の活動

1. 各種行事

○学内行事

- 2020年4月6日 Project HELP! メンティーミニ説明会
於：リモートで実施 参加者 13 名
- 2020年4月25日 Project HELP! 第 11 期 メンター研修・オリエンテーション
於：リモートで実施 メンター 17 名、メンティー 23 名
- 2020年5月25日 OUマルチリンガルプラザ 2020 年度春夏学期 TA オリエンテーション
於：リモートで実施 参加者 4 名
- 2020年5月29日 OUマルチリンガルプラザ 2020 年度春夏学期 TA オリエンテーション
於：リモートで実施 参加者 3 名
- 2020年6月5日 Project HELP! メンター・メンティー交流会 1 (協力：タローパン 菱田 伊駒さん)
於：リモートで実施 メンター 3 名、メンティー 3 名
- 2020年6月9日 第 90 回大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：リモートで実施 参加者 18 名
- 2020年7月1日 Project HELP! メンター・メンティー交流会 2 (協力：タローパン 菱田 伊駒さん)
於：リモートで実施 メンター 2 名、メンティー 1 名
- 2020年7月6-7日 新入留学生交流会
於：7月6日 吹田キャンパス コンベンションセンター 1 階会議室 1
参加者：13 名
7月7日 豊中キャンパス 基礎工国際棟シグマホール 参加者：21 名
- 2020年9月1日 第 91 回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5 & 6 参加者 15 名
- 2020年10月2日 Project HELP! メンティーミニ説明会 参加者 16 名
於：リモートで実施
- 2020年10月2日 OUマルチリンガルプラザ 2020 年度秋冬学期 TA オリエンテーション
於：豊中キャンパス サイバーメディアセンター 4 階 OUマルチリンガルプラザ
参加者 4 名
- 2020年10月7日 OUマルチリンガルプラザ 2020 年度秋冬学期 TA オリエンテーション
於：豊中キャンパス サイバーメディアセンター 4 階 OUマルチリンガルプラザ
参加者 6 名
- 2020年10月8日 OUマルチリンガルプラザ 2020 年度秋冬学期 TA オリエンテーション
於：豊中キャンパス サイバーメディアセンター 4 階 OUマルチリンガルプラザ
参加者 5 名
- 2020年10月21日 令和 2 年度外国人留学生のための就職対策講座 第 1 回目「Introduction」
於：リモートで実施 参加者：30 名

- 2020年10月24日 Project HELP! 第12期 メンター研修・オリエンテーション
 於：リモートで実施 メンター 11 名、メンティー 14 名
- 2020年10月26日 令和2年度外国人留学生のための就職対策講座
 第2回目「情報収集及び企業・業界研究」
 於：リモートで実施 参加者：25 名
- 2020年11月5日 令和2年度外国人留学生のための就職対策講座
 第3回目「自己分析 キャリアデザイン」
 於：リモートで実施 参加者：19 名
- 2020年11月18日 Project HELP! メンター・メンティー交流会1（協力：タローパン 菱田 伊駒さん）
 於：リモートで実施 メンター 1 名、メンティー 1 名
- 2020年11月27日 令和2年度外国人留学生のための就職対策講座
 第4回目「内定者による体験談（1）」
 於：リモートで実施 参加者：21 名
- 2020年12月3日 令和2年度外国人留学生のための就職対策講座
 第5回目「内定者による体験談（2）」
 於：リモートで実施 参加者：28 名
- 2020年12月9日 第92回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：豊中キャンパス 待兼山会館2階会議室 参加者 15 名
- 2020年12月14日 令和2年度外国人留学生のための就職対策講座
 第6回目「エントリーシートの書き方/合同企業説明会等対策」
 於：リモートで実施 参加者：14 名
- 2020年12月21日 Project HELP! メンター・メンティー交流会2（協力：タローパン 菱田 伊駒さん）
 於：リモートで実施 メンター 3 名、メンティー 3 名
- 2020年12月23日 甲南学園サービスセンター 高校生向け国内留学・IELTS対策講座（HELP!+）
 説明会
 於：リモートで実施 参加者 14 名
- 2021年1月18日 令和2年度外国人留学生のための就職対策講座
 第7回目「面接の基礎とグループディスカッション対策」
 於：リモートで実施 参加者：21 名
- 2021年1月25日 令和2年度外国人留学生のための就職対策講座
 第8回目「面接試験練習会」
 於：リモートで実施 参加者：10 名
- 2021年2月8日 令和2年度後期新任教員研修プログラム（教育能力開発プログラム）
 「外国人留学生に向けたキャリア・就職支援の方法」
 於：リモートで実施 参加者：34 名
- 2021年2月8日 2020年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会
 兼 第54回大阪大学留学生教育・支援協議会
 於：リモートで実施 学内参加者：25 名、学外参加者：87 名、合計：112 名
- 2021年2月8-9、11-13日 甲南学園サービスセンター 甲南高校グローバル・スタディ・プログラム

- 「国内留学特別プログラム・対面セミナー」(HELP!+)
 於：甲南高校 参加者 24 名（メンター 8 名、メンティー 16 名）
- 2021年 2 月11日 第 9 回留学生交流・指導研究会
 於：リモートで実施 参加者：学内 7 名、学外 45 名、合計 52 名
 - 2021年 2 月13日 海外留学・研修等派遣前危機管理オリエンテーション 参加者 160 名
 於：リモートで実施
 - 2021年 2 月18日 学生対応研修会
 於：IC ホール講義室 5&6 およびZOOM
 - 2021年 2 月18日 日本語授業教務オリエンテーション
 於：IC ホール講義室 5&6 およびZOOM
 - 2021年 2 月19日 学生対応研修会
 於：IC ホール講義室 5&6 およびZOOM
 - 2021年 2 月19日 日本語授業教務オリエンテーション
 於：IC ホール講義室 5&6 およびZOOM
 - 2021年 3 月 9 日 第 93 回 大阪大学留学生支援フロントスタッフネットワーク・ミーティング
 於：吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5 & 6 参加者 14 名
 - 2021年 3 月14日 Career Talk
 於：リモートで実施 参加者：19 名
 - 2021年 3 月19日、30日 Relieving Stress～留学生のためのストレス解消のヒント～
 於：3 月 19 日 豊中キャンパス 大学会館 アセンブリーホール
 参加者：対面 4 名、リモート 6 名、合計：10 名
 3 月 30 日 吹田キャンパス IC ホール 2 階 講義室 5 & 6
 参加者：対面 5 名、リモート 2 名、合計：7 名
 ※両日とも対面、リモート同時実施
 - 2021年 3 月30-31日 アークスリー 小中学生向け留学生との英語体験学習 (HELP!+)
 於：アークスリー本社、石橋商店街、大阪大学会館
 参加者 18 名（メンター 3 名、メンティー 15 名）

2. 海外出張・海外研修

新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延の影響により、世界各国が入国規制措置を実地したため、2020 年度の海外出張および海外研修の実施は不可能となった。

3. 出版物・印刷物等（2020年5月から2021年4月まで）

No.	出 版 物 の タ イ ト ル	発行年月
1	大阪大学国際教育交流センター 2019 年度年報	2020年 7 月
2	OUSSEP Calendar（web 版）	2020年12月
3	OUSSEP Syllabus 2020-2021（web 版）	2021年 2 月
4	大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流 第 25 号 Journal of Multicultural Education and Student Exchange No. 25	2021年 3 月
5	留学生日本語プログラムガイドブック 2021 年度版（春夏編）（web 版） GUIDEBOOK 2021: Japanese Language Programs for International Students	2021年 3 月
6	大阪大学 言語学習ポートフォリオ	2021年 3 月

4. 来訪者対応

新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延の影響により、わが国を含めた世界各国が入国規制措置を実地したため、2020 年度は来訪者の受け入れはなかった。

5. 研究者のためのオーラル・コミュニケーション日本語

2018 年度より、核物理研究センターと国際教育交流センターは共同して外国人研究員等に対する基礎日本語コース Oral Communications in Japanese for International Researchers（研究者のためのオーラル・コミュニケーション日本語、略して OCJ プログラム）クラスを開始した。今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、いずれのクラスもオンライン開催となった。実施実績は以下の通り。

□春の OCJ プログラム

- ・期 間：2020 年 5 月 11 日（月）から同 6 月 19 日（金）の期間の月曜日と金曜日の各計 12 回
- ・履修状況：（1）A クラス（初習者クラス） 8 名
（2）B クラス（既習者クラス） 4 名

□冬の OCJ プログラム

- ・期 間：2021 年 2 月 18 日（木）から同 3 月 29 日（月）の期間の月曜日と木曜日の各計 12 回
- ・履修状況：（1）A クラス（初習者クラス） 12 名
（2）B クラス（既習者クラス） 8 名

6. にほんごテーブル

にほんごテーブルは、国際教育交流センターとの連絡・調整・協力の下で、ボランティアグループが主催する自主的な活動である。にほんごテーブルでは、参加者はボランティアとペアになって、ひらがなや

漢字の学習をしたり、各自が選んだ教科書に沿ってボランティアといっしょに日本語の練習をしたり、自由に会話を楽しんだりしている。こうした活動に参加することで、参加者は自身の日本語学習の達成感を得てさらにモチベーションを高めることができ、いっそう日本語力を伸ばすことができる。また、にほんごテーブルでは、参加しているボランティアの方々から、日本での生活を快適に過ごすことができるさまざまな生活情報等も得ることができ、参加する外国人研究者や留学生及びその配偶者にとって、日本で快適に楽しく暮らす上でのたいへん貴重な場となっている。国際教育交流センターは、各部局の留学生相談室等への案内や、留学生会のメーリングリストでの案内など広報の面で日本語テーブルの活動を支援している。

○吹田地区でのにほんごテーブル活動

吹田地区ではボランティアグループ竹の子にほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。竹の子にほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成18年4月に発足した。会員数は、発足時が41名で、令和2年4月現在31名である。

○豊中地区でのにほんごテーブル活動

ホストファミリーなどの活動をしている市民ボランティアの方々から豊中地区でのにほんごテーブルの開催のご提案があり、国際教育交流センターとしてもそうした活動の意義を認識したところから、平成26年6月より、豊中地区においても、市民ボランティアグループの自主運営と国際教育交流センターがそれを支援する形で、にほんごテーブルが開設されることとなった。豊中地区ではボランティアグループマチカネにほんご交流会がにほんごテーブルを運営している。参加者は主として、実施場所である国際交流会館に居住する外国人研究者や留学生・外国人研究者などの配偶者である。研究生や大学院生等も参加している。

マチカネにほんご交流会は、外国人研究者とその配偶者や留学生等の日本語習得支援と交流を目的とした市民ボランティアグループで、市民ボランティアと国際教育交流センターとで協議して平成26年5月に発足した。会員数は、令和2年4月現在23名である。

○にほんごテーブルの活動

本年度は、新型コロナウイルス拡大のためにすべての活動は中止となった。

しかし、外国人研究者とその配偶者や留学生等からの日本語習得支援と交流を目的としたにほんごテーブルの活動への要望は多方面から聞かれた。そこで、センターと両日本語交流会とで相談をして、来年度にはオンラインでにほんごテーブルの機会を提供する方向で準備を進めることとした。

はじめに、両交流会で、メンバーにオンラインでにほんごテーブル活動を開始する場合に参加を希望するかと募ったところ、各交流会とも各々15名の参加希望があった。次に、両交流会から2名のオンラインにほんごテーブル運営支援者が出され、その計4名とセンター連絡窓口教員2名とフロントスタッフ2名が参加して、2021年3月12日(金)の10:00-11:30に、オンラインにほんごテーブルの実施方法や実施機関そして研修会の企画などについて検討した。そして、3月16日(火)の13:00のZoom参加実験と参加者顔合わせを経て、3月19日(金)の10:30-12:00には、オンラインにほんごテーブル参加予定者向けのZoom活用研修会を実施し、28名が参加した。その後は、連絡窓口教員とフロントスタッフが中心とな

って、オンラインにほんごテーブルの実施と円滑な運営に向けて各種の準備を進めている。

7. CIEE 研究会

国際教育交流センターに所属する教員は、各専門分野において活発な研究活動を行っており、その研究活動の成果報告や意見交換の場として、センター研究会が実施されている。2020 年度は下記の通り実施された。

第 1 回

日時：2020 年 4 月 8 日(金) 15：00－16：00

場所：IC ホール 2 階 Room5 & 6

講師：瀬井陽子先生

題名：「これからの SALC (Self-Access Learning Center) の課題と OU マルチリンガルプラザの試み」

第 2 回

日時：2020 年 11 月 13 日(金) 15：00－16：00

場所：IC ホール 2 階 Room5 & 6

講師：石倉佑季子先生

題名：「変わりゆく入試、変わりゆく学生」

XII. 教員個人データ

【記載事項】

1. 専門分野
2. 授業担当 (1) 共通教育 (2) 学際融合教育科目 (3) 大学院 (4) 留学生日本語選択コース
(5) 国際交流科目 (6) インターナショナル・カレッジ (7) その他
3. 学生指導 (1) 博士後期課程 (2) 博士前期課程 (3) 日本語集中コース生
(4) 短期留学特別プログラム (5) その他
4. 教育(学外) 5. 学内運営 6. 外部資金
7. 研究業績 (1) 論文 (2) 著書 (3) 口頭発表
8. 学外運営 9. 会議運営 10. 講演 11. 報道 12. その他

※以下の記載の7の(1)論文と(3)口頭発表の記載の末尾にある「有」「無」は、査読の有無。

有 川 友 子

1. 専門分野

教育人類学、異文化間教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

多文化コミュニケーションI/II-3

(5) 国際交流科目

○秋～冬学期

Approaches to Understanding Cultures

(6) インターナショナル・カレッジ

○秋～冬学期

Approaches to Understanding Cultures (上記国際交流科目を英語コース学生へのオープンとした)

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応

5. 学内運営

(職指定を含む)

- ・国際教育交流センター長

- 国際交流委員会委員
- ハウジング委員会委員
- 経営協議会委員
- 総長選考会議委員

8. 学外運営

- 国立大学留学生指導研究協議会 事務局幹事

9. 会議運営

- 平成 30 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会、企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2021 年 2 月（オンライン開催）

12. その他

- 京都市「京（みやこ）グローバル大学」促進事業 選考委員会委員

1. 専門分野

高等教育の国際化、大学入学者選抜の多様化、異文化コミュニケーション

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

多文化コミュニケーション（日本語）

多文化コミュニケーションセミナーⅠ

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

Internationalization of Higher Education

○秋～冬学期

Introduction to Intercultural Communication

(7) その他

- ・第5回 HAO（Handai Admission Officer）Program「多面的・総合的評価 203」、書類選抜
- ・オーストラリア「異文化体験」演習、“Multicultural Interaction between Australia and Japan”

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

- ・OUSSEP 学生 19 名（春夏学期）、27 名（秋冬学期）
- ・Winter Online Japanese Course 学生 10 名

(6) その他

- ・オーストラリア「異文化体験」演習 12 名
- ・教員による留学相談 79 名
- ・大学間交換留学応募学生 131 名

5. 学内運営

- ・ファカルティ・ディベロップメント委員会 委員
- ・国際交流委員会 海外派遣候補者選考 WG 委員
- ・国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営 Sub WG 委員
- ・国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- ・国際教育交流センター 広報出版委員会 委員
- ・教員による留学相談 企画・実施担当
- ・国際交流科目担当教員およびTA対象オリエンテーション・FD企画・実施担当
- ・Project HELP!（Harmonized English Learning Program）コーディネーター

6. 外部資金

- 科学研究費補助金 若手研究 2019-2022 年度 課題番号 19K14259「非英語圏における学部英語コースの進展に関する国際比較研究」研究代表者
- 科学研究費補助金 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））2020-2024 年度 課題番号 20KK0052「大学間教育交流のニューノーマル；各種プログラムの再定義」研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- Ishikura, Y., Nakano, R., & Kondo, S. (2020, September 1) COVID-19 and its impact on study abroad in Japan. *JAISE Rapid Communication on International Student Education*. Retrieved from <https://jaise.org/archives/670> (査読無)
- 近藤佐知彦・石倉佑季子・中野遼子（2020）「学校および留学生・日本人学生が直面した留学交流に関する令和2年の課題（4月末から5月にかけてのアンケート調査報告）」『グローバル人材育成教育研究』8(1), 70-76. (査読有)
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦（2020）「COVID-19による日本人学生の派遣留学への影響—日本人学生の声を中心に—」ウェブマガジン『留学交流』2020年07月号、Vol.112、pp.44-57. (査読無)
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦（2020）「留学交流へのCOVID-19の影響—7月調査の回答を中心に—」ウェブマガジン『留学交流』2020年09月号、Vol.114、pp.26-42. (査読無)

(3) 口頭発表

- 石倉佑季子・中野遼子・近藤佐知彦（2020）「COVID-19による日本の派遣・受け入れ留学への影響」、2020年9月19日、第25回留学生教育学会研究大会、於 オンライン（審査有）
- 近藤佐知彦・中野遼子・石倉佑季子（2020）「新型コロナウイルス感染症下の留学生ホームステイの動向」、2020年9月19日、第25回留学生教育学会研究大会、於 オンライン（審査有）
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦（2020）「COVID-19による日本の派遣・受け入れ留学への影響—5月と7月調査の比較分析を中心に—」、2020年9月19日、第25回留学生教育学会研究大会、於 オンライン（審査有）
- Yukiko Ishikura, Learned from the Global 30 Program: Are English-taught programs a key international strategy in Japan? The Osaka Conference on Education 2020 (OCE), Online Program, December 2020. (査読有)

8. 学外運営

- 令和年度に向けた文部科学省国際バカロレア教育推進コンソーシアム審査委員会 委員

1. 専門分野

教育工学、外国語教育学

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○春～夏学期

キャリアデザインとビジネスコミュニケーション

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

オンライン・リソースを活用したL2学習

3. 学生指導

- ・就職相談コーナーにおいて留学生の個別相談対応（豊中・吹田・箕面キャンパス / ZOOM / メール）
- ・留学生の相談対応（IRIS、豊中分室、箕面分室）

5. 学内運営

- ・海外派遣候補者選考WG
- ・学生交流支援検討WG
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- ・大阪大学卒業生担当者ネットワーク連絡会
- ・大阪大学キャリアセンター連携協力者
- ・大阪大学卒業生担当者ネットワーク連絡会構成員
- ・大阪大学国際教育交流センター広報委員会

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：16H03078 平成30年～32年度「学習ログシステムとeブックを活用した留学生のキャリア支援に関する研究と実践」 研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究（S）課題番号：16H06304 平成28年～33年度「教育ビッグデータを用いた教育・学習支援のためのクラウド情報基盤の研究」（研究代表者：緒方広明） 研究協力者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・Noriko Uosaki, Takahiro Yonekawa, Conducting a Japanese Language and Culture Class Online During the COVID-19 Pandemic in Japan, International Agenda Vol. 19, No. 2, pp. 28-31, 2020.
- ・Noriko Uosaki, Kousuke Mouri, Takahiro Yonekawa, Chengjiu Yin, Akihiko Ieshima and Hiroaki Ogata, Learning Support for Career Related Terms with SCROLL and InCircle, Proceedings of HCII2020 July,

2020 In: Streitz N., Konomi S. (Eds.) Distributed, Ambient and Pervasive Interactions. HCII 2020. Lecture Notes in Computer Science, vol 12203. Springer, Cham pp.648-662.

- Noriko Uosaki and Takahiro Yonekawa, Online Student-centered Seamless Learning Course under the COVID-19 Pandemic, Proceedings of ICCE2020, December, 2020 (ICCE2020), pp.728-731.

8. 学外運営

- グローバル人材活用運営協議会構成員
- CARES-Osaka運営委員会構成員
- CUMTEL SIG (Classroom, Ubiquitous and Mobile Technologies Enhanced Learning Special Interest Group, sub-division of ICCE2020) program committee member
- LTLE2020 (9th International Conference on Learning Technologies and Learning Environments) program committee member

12. その他

- 2020 年度「留学生のための就職対策講座」企画運営、大阪大学国際教育交流センター、2020 年 10 月～2021 年 1 月（計 8 回）

1. 専門分野

応用言語学、言語社会学、文献学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

総合日本語・多文化コミュニケーション（日本語）／学問への扉

○秋～冬学期

多文化コミュニケーション（日本語）／アドヴァンストセミナー

(3) 大学院（言語文化研究科）／外国語学部

○春～夏学期

言語文化教育論A／言語文化教育論（F）

○秋～冬学期

言語文化教育論B／言語文化教育論（G）

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

日本語・グローバル理解演習 JGU600d

○秋～冬学期

日本語・グローバル理解演習 JGU500a

日本語・グローバル理解演習 JGU600b

(6) インターナショナル・カレッジ

○春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 600d

○秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 500a

国際コミュニケーションセミナー日本語 600b

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3（うち留学生は2）

(2) 博士前期課程 2（留学生）

5. 学内運営

- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・マルチリンガル教育センター兼任教員
- ・マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員
- ・情報化推進会議委員

- 情報セキュリティ推進会議委員
- ODINS 運用部会委員
- 情報セキュリティ対策室部局 CSIRT
- マチカネにほんご交流会担当教員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（A）課題番号：17H00912 平成 29 年度～令和 2 年度「海外における平安文学及び多言語翻訳に関する研究」研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- 「教師研修としての授業観察に対する現職日本語教師集団の目的意識—日本語学校の常勤および非常勤集団へのインタビュー調査の質的分析—」（日本語教育学会『日本語教育』176 号）野瀬由季子・大山牧子・大谷晋也、2020.8、査読有

(2) 編著書

- 『蜻蛉日記』（平安文学ライブラリー）、日本文学 Web 図書館（古典ライブラリー）、伊井春樹・伊藤鉄也・大谷晋也・谷口敏夫・中村一夫編、2020 年 5 月、Web 配信

8. 学外運営

- 国・地方公共団体（箕面市等）、医療事務連絡会 委員
- 国・地方公共団体（箕面市・大阪大学）、みのお TAMASA（日本語支援活動等） 顧問
- その他、みのお外国人医療サポートネット 運営委員

10. 講演

- 「世界の言語と日本語」TAMASA 日本語学習支援ボランティア講座（みのお TAMASA）2021.3

1. 専門分野

微生物学、科学教育学、科学英語

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

- ・多文化コミュニケーション（日本語）
- ・多文化コミュニケーションセミナーⅠ

○秋～冬学期

- ・多文化コミュニケーション（日本語）
- ・多文化コミュニケーションセミナーⅡ

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

Introduction to Scientific English（科学英語入門）

○秋～冬学期

Science and Society（科学と社会）

3. 学生指導

- ・留学生の相談対応（吹田IRIS、豊中分室）
- ・留学生の個別相談対応

5. 学内運営

- ・学生生活委員会委員
- ・大阪大学留学生支援ネットワーク担当責任者
- ・大阪大学学内留学生指導フロントスタッフネットワーク・ミーティング構成員
- ・国際教育交流センター評価WG 委員
- ・国際教育交流センター人権・セクシャルハラスメント対策委員
- ・国際教育交流センター財務委員
- ・国際教育交流センター研究倫理教育 実施担当
- ・国際教育交流センター研究調査申請 対応窓口
- ・国際教育交流センター研究会 実施担当

6. 外部資金

- ・平成30年度～令和2年度科学研究費補助金若手研究（課題番号18K13256）「進路として理系を選択するまで：生徒の意思決定プロセスの質的分析」研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- 「文系観・理系観の形成プロセスの解明 ― 国立大学の学生を対象として」、岡本紗知、『科学教育研究』、査読有、44(1) 14-29
- 「学生は理系・文系をどのように定義するか ― 理論的立場に基づく考察」、岡本紗知、『科学教育研究』、査読有、43(2) 198-207

(3) 口頭発表

- 「文系・理系とは何か ― 学生による定義」、岡本紗知、日本科学教育学会第44回年会 2020年8月（オンライン開催）
- 「教科に対する苦手意識と学業ストレスの回避」、岡本紗知、日本理科教育学会第70回全国大会 2020年8月（オンライン開催）

8. 学外運営

- 一般社団法人 日本科学教育学会 学会誌「科学教育研究」編集委員

12. その他

- 「新入留学生交流会」（国際教育交流センターおよび国際部による共催）、令和2年7月7日、豊中キャンパス、企画運営
- 「留学生向けのストレス解消のヒント」（国際教育交流センター及びキャンパスライフ健康支援センターによる共催）、3月19日（豊中キャンパス）・3月30日（吹田キャンパス）、企画運営
- マヒドン大学向けオンライン大学紹介動画の作成（GIセンターからの依頼）、9月-11月
- センターウェブサイト・リニューアルワーキンググループ、12月-3月

1. 専門分野

ディスコース・レトリック分析、社会心理学、留学生教育、グローバル人材育成教育

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

日本の社会とイデオロギー、“Japan; Society and Ideology”

イノベーションの管理と変遷（三森八重子招聘教授と共同開講）

○秋～冬学期

日本のメディアとコミュニケーション、“Media and Communications in Japan”

ソーシャルイノベーションとソーシャルデザイン（三森八重子招聘教授と共同開講）

○集中

オーストラリア「異文化体験」演習、“Multicultural Interaction between Australia and Japan”

(7) その他

○集中

人間科学部・人間科学研究科 共生行動論Ⅱ

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

- ・OUSSEP学生 19名（春夏学期）、27名（秋冬学期）

(5) その他

- ・Winter Online Japanese Course 学生 10名（受入）
- ・オーストラリア「異文化体験」演習 12名（派遣）
- ・教員による留学相談 79名
- ・大学間交換留学応募学生選考 131名

5. 学内運営

- ・国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営 Sub WG 座長
- ・海外派遣候補者選考WG 委員
- ・国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- ・国際教育交流センター 広報委員長
- ・Project HELP!（Harmonized English Learning Program）コーディネータ
- ・体育会ボクシング部 部長

6. 外部資金

- ・大学間教育交流のニューノーマル；各種プログラムの再定義

日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））20KK0052
2020年10月-2024年3月（研究代表者）

- 留学はいつまで越境か；学生モビリティの将来に関する探索的研究

日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究（萌芽） 20K20825 2020年7月-2023年3月（研究代表者）

7. 研究業績

(1) 論文

- Ishikura, Y., Nakano, R., & Kondo, S. (2020, September 1) COVID-19 and its impact on study abroad in Japan. *JAISE Rapid Communication on International Student Education*. Retrieved from <https://jaise.org/archives/670>（無）
- 近藤佐知彦・石倉佑季子・中野遼子（2020）「学校および留学生・日本人学生が直面した留学交流に関する令和2年の課題（4月末から5月にかけてのアンケート調査報告）」『グローバル人材育成教育研究』8(1), 70-76（有）
- 近藤佐知彦（2020）「新型コロナウイルスと留学生のホームステイ（コロナ期の草の根国際交流）」『グローバル人材育成教育研究』8(1) 77-83（有）
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦（2020）「COVID-19による日本人学生の派遣留学への影響—日本人学生の声を中心に—」ウェブマガジン『留学交流』2020年07月号、Vol.112、pp.44-57（無）
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦（2020）「留学交流へのCOVID-19の影響—7月調査の回答を中心に—」ウェブマガジン『留学交流』2020年09月号、Vol.114、pp.26-42（無）
- 近藤佐知彦（2020）「地域と連携した日本語短期留学受け入れの試み」留学生教育（24）1-8（有）

(3) 口頭発表

- Nakano, R., Ito, S., Nakamaru, N. & Kondo, S. (2020) Factors that Determine the Satisfaction of Classes Taught in English in Japan: A Fundamental Analysis of 9 Years of Class Evaluations by Japanese Students. presented at: 3rd WCCES (World Council of Comparative Education Societies) ; November 26, 2020; On-line (Portugal).（有）
- 石倉佑季子・中野遼子・近藤佐知彦（2020）「COVID-19による日本の派遣・受け入れ留学への影響」、2020年9月19日、第25回留学生教育学会研究大会、於 オンライン（有）
- 近藤佐知彦・中野遼子・石倉佑季子（2020）「新型コロナウイルス感染症下の留学生ホームステイの動向」、2020年9月19日、第25回留学生教育学会研究大会、於 オンライン（有）
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦（2020）「COVID-19による日本の派遣・受け入れ留学への影響—5月と7月調査の比較分析を中心に—」、2020年9月19日、第25回留学生教育学会研究大会、於 オンライン（有）

8. 学外運営

- 留学生教育学会 会長
- (公財)吹田市国際交流協会 理事長
- (公財)大阪府国際交流財団 評議委員長
- (一社)外国人留学生高等教育協会 理事

- 特定非営利活動法人JAFSA 監事
- 留学生支援コンソーシアム大阪 誘致委員長
- 官民協働「トビタテ！留学Japan」学識者選考委員
- (公財)業務スーパージャパンドリーム財団 選考委員

9. 会議運営

- 留学生教育学会 25 回総会・研究大会（9 月 18 日 および 19 日）
東京会場設営の上、オンライン開催

10. 講演

- テーマ報告「新型コロナ流行と留学事業について緊急アンケート調査」グローバル人材育成教育学会 第 7 回関東支部大会（オンライン・招待講演）9 月 19 日

11. 報道

- 「大阪大学国際教育交流センター教授 留学生教育学会会長 近藤佐知彦教授に聞く コロナ禍の留学生交流事業」アジア学生文化協会 アジアの友 7-13 2020 年 4 月号
- コメント；(時時刻刻)「知」の交流、コロナ侵食 留学生を翻弄（朝日新聞 5 月 24 日）
- コメント；大学「全員留学」どうなる…卒業要件検討や期間短縮（読売新聞 6 月 6 日）
- コメント；留学あきらめない コロナ禍、絶たれた海外での日々（朝日新聞 6 月 9 日）
- コメント；オンライン留学／世界と活発議論（読売新聞 8 月 27 日）
- コメント；留学やインターンシップも画面越しに アフターコロナの選択肢「オンライン」（毎日新聞 12 月 29 日）

1. 専門分野

第二言語習得、日本語教育学、学習者オートノミー

2. 授業担当

(2) 学際融合教育科目

○春～夏学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションA

○秋～冬学期

上級専門日本語 アカデミックコミュニケーションB

(4) 留学生日本語選択コース

○春～夏学期

選択コース JC600/700 (アカデミックコミュニケーション)

○秋～冬学期

選択コース JC600/700 (アカデミックコミュニケーション)

3. 学生指導

(5) その他

OUマルチリンガルプラザにて日本語学習アドバイジングを実施

5. 学内運営

- ・国際教育交流センター 教務委員会 委員
- ・マルチリンガル教育センター 兼任教員
- ・OUマルチリンガルプラザ コーディネーター

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号：19K00708 平成 31 年度～令和 4 年度「大学における日本語自律学習支援者養成プログラムの開発」(研究代表者：義永美央子) 研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・瀬井陽子 (2021) 「教室外で日本語を学ぶ学習者向けの日本語学習アドバイジング— 理論的枠組みと導入への取り組み —」『多文化社会と留学生交流』第 25 号, pp.31-36, 査読無
- ・義永美央子, 瀬井陽子, 難波康治, 角南北斗, 韓喜善 (2021) 「日本語学習支援の全学的な展開に向けて— OUマルチリンガルプラザと OU 日本語ひろばの実践報告 —」『多文化社会と留学生交流』第 25 号, pp.55-61, 査読無

(3) 口頭発表

- SEI, Yoko & ABE, Maya (2020) ‘Support for Multi-Language Learning: A Case of OU Multilingual Plaza at Osaka University’ The Japan Association for Self-Access Learning 2020 National Conference, Online, 査読有
- 瀬井陽子 (2020) 「ポストコロナ時代の学習者オートノミー育成 ―セルフアクセスセンターの再考―」 2020 年日本語教育学会秋季大会, ポスター発表, オンライン, 査読有

8. 学外運営

言語文化教育研究学会 年次大会委員会 副委員長

12. その他

- OUマルチリンガルプラザ開設、運営、日本語関連コーディネーター
- 言語学習記録 バインダー式冊子「大阪大学 言語学習ポートフォリオ」監修
- STiPS Handai 研究会「多言語コミュニケーション実践の共創」第3回 言語ポートフォリオとコミュニケーションストラテジー, メインファシリテーター, 2021 年2月4日, オンライン

1. 専門分野

留学生教育、留学交流教育、異文化コミュニケーション

2. 授業担当

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

異文化コミュニケーションとパフォーマンス、“Intercultural Communication and Performance”

○秋～冬学期

言語コミュニケーションとパフォーマンス、“Language Communication and Performance”

○集中

- ・オーストラリア「異文化体験」演習、“Multicultural Interaction between Australia and Japan”

(7) その他

大学院高度副プログラム ユネスコチェア「グローバル時代の健康と教育～健康のための社会デザイン～」

○春～夏学期

異文化コミュニケーションとパフォーマンス、“Intercultural Communication and Performance”

○秋～冬学期

言語コミュニケーションとパフォーマンス、“Language Communication and Performance”

3. 学生指導

(4) 短期留学特別プログラム

- ・OUSSEP学生 19 名（春～夏学期）、27 名（秋～冬学期）

(5) その他

- ・オーストラリア「異文化体験」演習 12 名
- ・教員による留学相談 79 名
- ・大学間交換留学応募学生 131 名
- ・Winter Online Japanese Course 学生 10 名

5. 学内運営

- ・国際教養・専門複合型プログラム（OUSSEP）運営Sub WG 委員
- ・海外派遣候補者選考WG 委員
- ・国連ユースボランティアプログラム推進タスクフォース 委員
- ・国際教育交流センター 財務委員会 委員
- ・教員による留学相談 企画・実施担当
- ・交換留学経験学生による留学相談 コーディネータ
- ・Project HELP!（Harmonized English Learning Program） コーディネータ

6. 外部資金

- マツダ財団研究助成 ― 青少年健全育成関係 ― 2020-2022 年度 「パフォーマンス共同創作を通した留学生と日本の学生とのコミュニティ形成に関する実践研究」 研究代表者
- 科学研究費補助金 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）） 2020-2023 年度 課題番号 20KK0052 「大学間教育交流のニューノーマル；各種プログラムの再定義」（研究代表者：近藤佐知彦） 研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- Ishikura, Y., Nakano, R., & Kondo, S. (2020, September 1) COVID-19 and its impact on study abroad in Japan. *JAISE Rapid Communication on International Student Education*. Retrieved from <https://jaise.org/archives/670> (査読無)
- 近藤佐知彦・石倉佑季子・中野遼子 (2020) 「学校および留学生・日本人学生が直面した留学交流に関する令和 2 年の課題（4 月末から 5 月にかけてのアンケート調査報告）」『グローバル人材育成教育研究』8(1), 70-76. (査読有)
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦 (2020) 「COVID-19 による日本人学生の派遣留学への影響―日本人学生の声を中心に―」ウェブマガジン『留学交流』2020 年 07 月号、Vol.112、pp.44-57. (査読無)
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦 (2020) 「留学交流への COVID-19 の影響―7 月調査の回答を中心に―」ウェブマガジン『留学交流』2020 年 09 月号、Vol.114、pp.26-42. (査読無)
- 中野遼子 (2021) 「英語による授業担当者の悩みに関する考察―ティーチング・ティップス集作成の実践報告―」『多文化社会と留学生交流』第 25 号、pp.37-46. (査読無)

(3) 口頭発表

- Nakano, R., Ito, S., Nakamaru, N. & Kondo, S. (2020) Factors that Determine the Satisfaction of Classes Taught in English in Japan: A Fundamental Analysis of 9 Years of Class Evaluations by Japanese Students, presented at: 3rd WCCES (World Council of Comparative Education Societies) ; November 26, 2020; On-line (Portugal). (審査有)
- 石倉佑季子・中野遼子・近藤佐知彦 (2020) 「COVID-19 による日本の派遣・受け入れ留学への影響」、2020 年 9 月 19 日、第 25 回留学生教育学会研究大会、於 オンライン (審査有)
- 近藤佐知彦・中野遼子・石倉佑季子 (2020) 「新型コロナウイルス感染症下の留学生ホームステイの動向」、2020 年 9 月 19 日、第 25 回留学生教育学会研究大会、於 オンライン (審査有)
- 中野遼子・石倉佑季子・近藤佐知彦 (2020) 「COVID-19 による日本の派遣・受け入れ留学への影響―5 月と 7 月調査の比較分析を中心に―」、2020 年 9 月 19 日、第 25 回留学生教育学会研究大会、於 オンライン (審査有)
- 中野遼子・渡邊泰久・菱田伊駒 (2020) 「地域住民と留学生との交流に関する実践報告―2 つの商店街における留学生受け入れの影響を中心に―」、2020 年 10 月 24 日、多文化関係学会第 19 回年次大会、於 近畿大学 (オンライン) (審査有)
- 中野遼子・小田桐ジェイク・蓮行 (2020) 「オンラインによる演劇的手法を用いた異文化コミュニケーション国際共修授業の実践報告」(ポスター発表) 2020 年 12 月 17 日、大阪大学第 5 回豊中地

区研究交流会、於：大阪大学（審査無）

- ・中野遼子（2021）「教員による派遣留学相談の実践報告—4年間を通じた気づきと今後の課題—」、2021年2月11日、第9回 留学生交流・指導研究会、於 オンライン（審査有）

8. 学外運営

- ・多文化関係学会 大会委員（2020年10月まで）
- ・多文化関係学会 編集委員
- ・国立大学留学生指導研究（COISAN）協議会 査読協力者
- ・異文化コミュニケーション学会 査読協力者
- ・官民協働「トビタテ！留学Japan」学識者選考委員

12. その他

- ・「9年間の国際交流科目授業評価アンケートの結果と考察」、2020年度春夏学期・秋冬学期 国際交流科目担当教員およびTA予定者対象オリエンテーションおよびFD研修の企画及びファシリテーター、2020年4月8日、於：オンライン（ZOOM）
- ・Project HELP! 交流会を石橋商店街にある「タローバン」の協力によりオンラインで4回開催、企画を担当、2020年6月5日、7月1日、11月18日、12月21日 於：ZOOM

1. 専門分野

日本語教育学、社会言語学、教育工学

2. 授業担当

(1) 全学共通教育科目

○春～夏学期

専門日本語

(3) 大学院

○春～夏学期

応用マルチメディア論A

○秋～冬学期

応用マルチメディア論B

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

総合日本語JA100

総合日本語JA500

○秋～冬学期

総合日本語JA100

(6) インターナショナル・カレッジ

○春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

国際コミュニケーションセミナー日本語 503

○秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 2 (うち留学生は1)

(2) 博士前期課程 3 (うち留学生は2)

5. 学内運営

・教育情報化WG

・CALLシステムWG

・インターナショナルカレッジ教務委員会

7. 研究業績

(1) 論文

- 「日本語学習支援の全学的な展開に向けて：OUマルチリンガルプラザとOU日本語ひろばの実践報告」義永美央子・瀬井陽子・難波康治・角南北斗・韓喜善,『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』25, 2021年3月 pp.55-61.

(3) 口頭発表

- Perception of Japanese moraic-nadsal (/N/) sounds followed by a vowel: A comparison of Japanese native speakers and Korean learners of Japanese, Heesun Han, Koji Namba, The 179th Meeting of the Acoustical Society of America, 2020年11月, 国際会議 (proceedings なし)
- 母音間における撥音の知覚判断——子音の閉鎖の度合いについて——, 韓喜善・難波康治, 第161回日本言語学会全国大会予稿集, PDF 1-7, 2020年11月, 会議報告/口頭発表

9. 学外運営

- 公益財団法人日本語教育学会 査読・運営協力者
- 公益信託井内留学生奨学基金運営委員会委員
- 公益信託井内奨学財団評議委員

1. 専門分野

言語哲学、言語心理学、日本語教育学

2. 授業担当

(3) 大学院

○春～夏学期

応用言語学研究 A

言語文化教育論特別研究 A

○秋～冬学期

応用言語学研究 B

言語文化教育論特別研究 B

(4) 留学生日本語プログラム

○春～夏学期

IJ100 講義 (IJ100A・IJ100B 合同) 2 コマ

○秋～冬学期

IJ100 講義

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

総合日本語 JA300-1

○秋～冬学期

総合日本語 JA300-1

総合日本語 JA100(T5)-1

(6) インターナショナル・カレッジ

○春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

○秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 303

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 5 (うち留学生は 2)

(2) 博士前期課程 2 (うち留学生は 2)

(3) 日本語集中コース生 10

4. 教育 (学外)

- ・関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科 日本語教育研究 F (集中講義)
- ・京都外国語大学外国語学研究科 日本語教育研究 III (集中講義)

5. 学内運営

- 評価委員会
- 吹田地区事業場安全衛生委員会
- OUSSEP 運営サブ WG
- Maple 運営サブ WG
- 日本語・日本文化研修留学生プログラム実施 WG

7. 研究業績

(1) 論文

- 「対話の原型と対話原理の原点：「生活のなかの言葉と詩のなかの言葉」におけるイントネーション」、西口光一、投稿、『多文化社会と留学生交流』第 25 号、学術論文、有、pp.1-12
- 「そのモノ、多面的につき、取り扱い注意！—第二言語教育にとっての言語論的転回の意味」『日本語教育の新しい地図—専門知識を書き換える』（青木直子、バーデルスキー・マシュー編、ひつじ書房）所収、pp.47-64、学術論文

(2) 著書

- 『新次元の日本語教育の理論と企画と実践—第二言語教育学と表現活動中心のアプローチ』（くろしお出版）単著
- 『第二言語教育のためのことば学—人文・社会科学から読み解く対話論的な言語観』（福村出版）単著
- 『思考と言語の実践活動へ—日本語教育における表現活動の意義と可能性』（ココ出版）西口光一編著

8. 学外運営

- 公益社団法人日本語教育学会 査読・運営協力者
- 国立大学日本語教育研究協議会 代表理事（2016 年 6 月から 2020 年 5 月まで）
- 大阪教育大学 日本語教育プログラム教育課程検討実施委員会及び日本語教育プログラム事業評価委員会 委員
- 京都女子大学 日本語教師養成課程カリキュラム検討部会及び評価部会 委員
- 四国大学 日本語教員養成課程検討・実施委員会及び日本語教員養成課程評価委員会 委員

1. 専門分野

比較政治学、東南アジア地域研究、フィリピン研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

学問への扉（多文化コミュニケーションセミナーⅠ／多文化コミュニケーション（日本語））

○秋～冬学期

多文化コミュニケーションセミナーⅡ／多文化コミュニケーション（日本語）

(2) 学際融合教育科目

○春～夏学期

上級専門日本語（アカデミックリーディング）A

○秋～冬学期

上級専門日本語（アカデミックリーディング）B

(3) 大学院

○春～夏学期

言語文化政策論A

○秋～冬学期

言語文化政策論B

(4) 留学生日本語プログラム

○春～夏学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディングJR600／JR700（日本語）

○秋～冬学期

日本語集中（研修）コース IJ300 クラス

アカデミックリーディングJR600／JR700（日本語）

3. 学生指導

(2) 博士前期課程 2（うち留学生2）

(3) 日本語集中コース生 6

5. 学内運営

- ・男女協働推進センター会議委員
- ・ハラスメント相談室全学相談員

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：20H04425 令和2年度～令和5年度「東南アジア地方自治ガバナンスと住民意識の分析—インドネシア、フィリピンの比較」研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：19H01446 平成31年度～令和5年度「政策波及の政治的動態と中央地方関係—タイ、フィリピン、インドネシアの比較」（研究代表者：永井史男）、研究分担者
- 京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」令和2年度～令和3年度「インドネシアおよびフィリピンの地方自治に関する住民意識の分析」研究代表者

7. 研究業績

(1) 論文

- 「地方自治体の政策パフォーマンスに対する住民参加の効果—フィリピンを例として—」西村謙一、『阪大法学』第70巻第6号、2021年3月、67-101頁。
- 「2019年フィリピンの地方自治意識調査（1）」西村謙一・菊地端夫・小林盾・永井史男、『法学雑誌』第67巻第3号、2021年1月、1-29頁。
- 「2019年フィリピンの地方自治意識調査（2）」西村謙一・菊地端夫・小林盾・永井史男、『法学雑誌』第67巻第4号、2021年3月、1-26頁。

(3) 口頭発表

- 「住民参加は自治体パフォーマンスにいかなる影響を与えるのか—フィリピンを例にして」西村謙一、日本国際政治学会2020年度研究大会、2020年10月23日
- 「インドネシアおよびフィリピンの地方自治に関する住民意識の分析」西村謙一、永井史男、籠谷和弘、小林盾、菊地端夫、岡本正明、京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」令和2年度研究成果報告、2021年2月17日

8. 学外運営

- 兵庫県立高等学校 学校評議員

1. 専門分野

言語学、音声学、日本語学、韓国語学

2. 授業担当

(4) 留学生日本語選択コース

該当なし

6. 外部資金

- ・「日本語における音韻的対立と音声的実現の曖昧さ」(科学研究費補助金、若手研究、課題番号：19K13179、研究代表者：韓 喜善)(2019年4月～2022年3月)

7. 研究業績

(1) 論文

- ・F0 influence on the perception of Korean initial stops, affricates and fricatives by Japanese learners of Korean, Heesun Han, 言語文化共同研究プロジェクト 2019 音声言語の研究 14、2020年07月、査読無、pp.65-72.
- ・母音間における撥音の知覚判断——日本語母語話者と韓国語を母語とする日本語学習者との比較——、韓喜善、大阪大学国際教育交流センター研究論集多文化社会と留学生交流 25、2021年3月、pp.13-19.
- ・日本語学習支援の全学的な展開に向けて——OUマルチリンガルプラザとOU日本語ひろばの実践報告——、義永美央子・瀬井陽子・難波康治・角南北斗・韓喜善、大阪大学国際教育交流センター研究論集多文化社会と留学生交流 25、2021年3月、pp.55-61.

(3) 口頭発表

- ・Perception of Japanese moraic-nasal (/N/) sounds followed by a vowel: A comparison of Japanese native speakers and Korean learners of Japanese, Heesun Han, Koji Namba, The 179th Meeting of the Acoustical Society of America, 2020年11月.
- ・母音間における撥音の知覚判断——子音の閉鎖の度合いについて——, 韓喜善・難波康治, 第161回日本言語学会全国大会, 2020年11月

8. 学外運営

近畿音声言語研究会 世話役

1. 専門分野

専門日本語教育研究、日本語教育学

2. 授業担当

(1) 共通教育

○春～夏学期

総合日本語

○秋～冬学期

総合日本語

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

総合日本語 JA200

○秋～冬学期

総合日本語 JA100-4

総合日本語 JA200

(6) インターナショナル・カレッジ

○春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

○秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 103

国際コミュニケーションセミナー日本語 203

(7) その他

○ Winter Online Japanese Course (冬季超短期日本語プログラム、2021 年 2 月 1 日～2 月 19 日)

コーディネーション及び大阪大学の学生との会話セッション担当 (計 5 回)

○春休み日本語特別演習 (来日遅れなどで日本語の授業を履修できなかった留学生やさらに学びたいという留学生を対象とした特別演習、2021 年 3 月 1 日～3 月 10 日) コーディネーション

5. 学内運営

教務委員会

7. 研究業績

(1) 論文

- ・福良直子 (2021) 「同期型・非同期型併用による上級日本語教育の試み——学部留学生を対象とした「総合日本語」の授業実践から——」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』25 号、無、pp.47-54

(3) 口頭発表

- 福良直子・横川未奈（2021）「日本語初級から上級までの体系的なプレゼンテーション教育方法開発のための基礎研究—2015年から2020年に刊行された文献の調査から—」（ポスター発表）『第23回専門日本語教育学会研究討論会誌』有、pp.14-15、2021年3月6日、第23回専門日本語教育学会研究討論会、zoomによるオンライン開催

8. 学外運営

公益社団法人日本語教育学会 審査・運営協力員

12. その他

- Winter Online Japanese Course 広報動画作成（2020年10月）
- Winter Online Japanese Course サポーター学生対象事前説明会（2021年1月15日、21日）

村 岡 貴 子

1. 専門分野

日本語教育学、アカデミック・ライティング研究、専門日本語教育研究

2. 授業担当

(1) 共通教育

○秋～冬学期

専門日本語B

(2) 学際融合教育科目

○春～夏学期

「上級専門日本語 アカデミックライティングA」

○秋～冬学期

「上級専門日本語 アカデミックライティングB」

(3) 大学院

○春～夏学期

言語技術研究A

言語コミュニケーション論特別研究A

○秋～冬学期

言語技術研究B

言語コミュニケーション論特別研究B

(4) 留学生日本語プログラム

○春～夏学期

日本語集中コースIJ200（読解）

選択コースJW600/700（アカデミックライティング）

○秋～冬学期

日本語集中コースIJ200（読解）

選択コースJW600/700（アカデミックライティング）

3. 学生指導

(1) 博士後期課程 3（うち留学生は1）

(2) 博士前期課程 2（うち留学生は2）

(3) 日本語集中コース生 9

5. 学内運営

- ・教育課程委員会委員
- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・マルチリンガル教育センター兼任教員

- ASEAN キャンパス運営 WG メンバー
- グローバル教育運営委員会オブザーバー
- 人文系教育研究組織構想検討 WG オブザーバー
- 国際教育交流センター財務委員会委員長

6. 外部資金

- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：19H01269 令和元年度～令和4年度「日本語読解・ライティングの方法に影響する母語・母文化の教育的背景要因に関する研究」、研究代表者
- 科学研究費補助金基盤研究（B） 課題番号：20H01270 令和2年度～令和5年度「日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成——批判的思考を中心に——」（課題番号20H01270）」研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- 村岡貴子・中島祥子（2021）「日本語非母語話者教員による日本語読解・ライティング教育に関する期待と課題——漢字圏と非漢字圏の各地域における大学教員への調査から——」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第25号、pp.85-94（査読無）
- 中島祥子・村岡貴子（2021）「ライティング教育に関するビリーフ調査に向けての基礎的調査——韓国の大学の事例をもとに——」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第25号、pp.63-73（査読無）

8. 学外運営

- 日本語教育学会審査・運営協力員、2017年9月～
- 専門日本語教育学会代表幹事、2015年3月～
- 専門日本語教育学会編集幹事・副編集委員長、2018年3月～

10. 講演

- 村岡貴子（2020）「研究のデザインから論文完成に至るまでに必要な研究倫理の諸相」（講演）、昭和女子大学研究倫理教育講演会、招待、2020.10.31
- 村岡貴子（2021）「論文スキーマ形成を促す日本語ライティングの学習と教育——学生・教員の事例をリソースとして——」（講演）、東京大学文学部日本語教育研究会、オンライン形式、招待、2021.3.17

12. その他

- 国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」プロジェクト構成員
- 2019年度日本語教育学会学会活動貢献賞受賞（2020年5月）

1. 専門分野

日本語教育学、応用言語学

2. 授業担当

(1) 共通教育科目

○春～夏学期

専門日本語

○秋～冬学期

専門日本語

(2) 学際融合教育科目

○春～夏学期

第二言語学習方法論

○秋～冬学期

言語学習アドバイジング入門

(3) 大学院

○春～夏学期

言語コミュニケーション論A

言語コミュニケーション論特別研究A

○秋～冬学期

言語コミュニケーション論B

言語コミュニケーション論特別研究B

(5) 国際交流科目

○春～夏学期

総合日本語 JA400-1

○秋～冬学期

総合日本語 JA400-1

(6) インターナショナル・カレッジ

○春～夏学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 403

○秋～冬学期

国際コミュニケーションセミナー日本語 403

3. 学生指導

- (1) 博士後期課程 7 (うち留学生は2)
- (2) 博士前期課程 3 (うち留学生は2)

5. 学内運営

- ・人権問題委員会委員 (全学)
- ・ハラスメント相談室専門アドバイザー (全学)
- ・大学院言語文化研究科兼任教員
- ・マルチリンガル教育センター兼任教員
- ・国際教育交流センター教務委員長
- ・国際教育交流センター人権・ハラスメント対策委員会委員長

6. 外部資金

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 19K00708 2019 年度～ 2022 年度「大学における日本語自律学習支援者養成プログラムの開発」、研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 20K00713 2020 年度～ 2023 年度「日本語教師養成における実践的コミュニケーション能力育成プログラムの開発」、研究分担者

7. 研究業績

(1) 論文

- ・義永美央子 (2020) 「日本語教師の資質・能力観の変遷と今日的課題」『社会言語科学』23 巻 1 号、pp.21-36、2020 年 9 月、招待・査読有
- ・義永美央子 (2021) 「溶け合うことばの境界」青木直子・バーデルスキー, M. (編著)『日本語教育の新しい地図—専門知識を書き換える—』pp.25-46、2021 年 3 月、招待
- ・義永美央子・瀬井陽子・難波康治・角南北斗・韓喜善 (2021) 「日本語学習支援の全学的な展開に向けて—OU マルチリンガルプラザと OU 日本語ひろばの実践報告—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』25 号、pp.55-61、2021 年 3 月、査読無
- ・林希和子・陳静怡・李雪・義永美央子 (2021) 「JSL 学習者の日本語実践における ICT ツールの使用状況—モバイル端末の利活用に関する質問紙調査報告—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』25 号、pp.75-83、2021 年 3 月、査読無

(3) 口頭発表

- ・小河原義朗・黒崎誠・金孝卿・義永美央子 (2020) 「中堅日本語教師研修の内容と方法」2020 年度日本語教育学会春季大会パネルセッション、2020 年 5 月、査読有 (新型コロナウイルス感染拡大により大会は中止となったが、予稿集掲載を以て発表とみなすことが決定された)
- ・義永美央子「『ときめき取材記』実践報告」(公財) 国際文化フォーラム・ときめき取材記実践ワークショップ (オンライン開催)、2020 年 12 月、招待
- ・義永美央子「ことばの学び方を学ぶ授業のデザイン—学習者オートノミーの育成を目指して—」言語文化教育研究会第 7 回年次大会口頭発表 (オンライン開催)、2021 年 3 月、査読有

8. 学外運営

- 日本語教育学会 常任理事
- 社会言語科学会 編集委員
- 第二言語習得研究会 大会運営委員副委員長
- 言語文化教育研究学会 査読協力者

9. 会議運営

- 第二言語習得研究会第31回全国大会、企画運営、オンライン開催、2020年12月12日～13日

12. その他

- 文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」（事業区分：（2）日本語教育人材の研修カリキュラム開発④日本語教師【中堅】に関する研修）「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修事業」（JCN事業）専門委員
- 大阪府教育庁市町村教育室「令和2年度 識字・日本語学習活動支援 市町村域を越えた取組みプラン」識字・日本語学習の支援者を対象とした豊能ブロック研修講師

資料 1 国際教育交流センターが提供する日本語科目 2020 年度 留学生日本語プログラム 時間割

春～夏学期 吹田キャンパス（今年度はいずれも Zoom で実施）

科目種別： 留学生日本語選択コース 国際交流科目 日本語集中コース 学際融合教育科目

時間帯	月		火		水		木		金	
	授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当	授業	担当
Ⅰ 8:50 ～ 10:20			JB200-T1-1	総合日本語	山崎		JK301	漢字と語彙 (非漢字系)	JB200-T1-2	総合日本語
			JB300-1	総合日本語	浦木				JB100-T1-2	総合日本語
			JB100-T1-1	総合日本語	岡田					
			JK202/302	漢字と語彙 (漢字系)	TA横川					
Ⅱ 10:30 ～ 12:00	合同講義	山崎	JB200-T1-1	総合日本語	山崎		JK301	漢字と語彙 (非漢字系)	JB200-T1-2	総合日本語
	国際交流科目	加藤	JB300-1	総合日本語	浦木				JB100-T1-2	総合日本語
	JK201	TA リナ	JB100-T1-1	総合日本語	岡田					
			JK202/302	漢字と語彙 (漢字系)	TA横川					
Ⅲ 13:00 ～ 14:30	合同講義	山崎	JB200-T1-1	総合日本語	山崎		JK301	漢字と語彙 (非漢字系)	JB200-T1-2	総合日本語
	国際交流科目	加藤	JB300-1	総合日本語	浦木				JB100-T1-2	総合日本語
	JK201	TA リナ	JB100-T1-1	総合日本語	岡田					
			JK202/302	漢字と語彙 (漢字系)	TA横川					
Ⅳ 14:40 ～ 16:10	合同講義	山崎	JB200-T1-1	総合日本語	山崎		JK301	漢字と語彙 (非漢字系)	JB200-T1-2	総合日本語
	国際交流科目	加藤	JB300-1	総合日本語	浦木				JB100-T1-2	総合日本語
	JK201	TA リナ	JB100-T1-1	総合日本語	岡田					
			JK202/302	漢字と語彙 (漢字系)	TA横川					
Ⅴ 16:20 ～ 17:50	合同講義	山崎	JB200-T1-1	総合日本語	山崎		JK301	漢字と語彙 (非漢字系)	JB200-T1-2	総合日本語
	国際交流科目	加藤	JB300-1	総合日本語	浦木				JB100-T1-2	総合日本語
	JK201	TA リナ	JB100-T1-1	総合日本語	岡田					
			JK202/302	漢字と語彙 (漢字系)	TA横川					

※ 6月1日より、3限13:30～15:00、4限15:10～16:40、5限16:50～18:20に変更となった。

※ 日本語集中コースについては、コロナウィルスの影響で上記のカリキュラムから変更があったため、実際の時間割の詳細はⅣ章「留学生日本語プログラム」の記述を参照すること。

春～夏学期 豊中キャンパス（今年度はいずれもZoomで実施）

科目種別： 国際交流科目（JA、JGU） 全学共通教育科目 学際融合教育科目 日本語自律学習支援

時間帯	月		火		水		木		金	
	授	業	授	業	授	業	授	業	授	業
I 8：50 ～ 10：20		担当	JA100-T1/T2	総合日本語（講義）	JA100-T1	総合日本語	岡田	JA100-T1	総合日本語	藤山
			JA200-T1/T2	総合日本語（講義）	JA100-T2	総合日本語	花井	JA100-T2	総合日本語	花井
			JA300-T1	総合日本語	JA200-T1	総合日本語	住吉	JA200-T1	総合日本語	矢部
			JA300-T2	総合日本語	JA200-T2	総合日本語	岡崎	JA200-T2	総合日本語	半田
			JA400-T1	総合日本語	JA300-T1/T2	総合日本語（講義）	小原	JA300-T1	総合日本語	住吉
			JA400-T2	総合日本語	JA400-T1	総合日本語	矢部	JA300-T2	総合日本語	岡崎
			JA500-T1	総合日本語	JA400-T2	総合日本語	菅	JA400-T1/T2	総合日本語（講義）	義永
II 10：30 ～ 12：00			JA500-T2	総合日本語	JA500-T1	総合日本語	上田	JA500-T1/T2	総合日本語（講義）	難波
			JGU600d	日本語・グローバル 理解演習	JA500-T2	総合日本語	大谷	JGU600f	日本語・グローバル 理解演習	伊藤
III 13：00 ～ 14：30					多文化コミュニケーション		有川			
			日本語学習アドバイザー							
			学際融合	第三言語学習方法論						
IV 14：40 ～ 16：10					多文化コミュニケーション		石倉			
V 16：20 ～ 17：50	専門日本語	義永	総合日本語		専門日本語		難波		福良	
	多文化コミュニケーション	岡本	多文化コミュニケーション		多文化コミュニケーション		大谷			

※6月1日より、3限13：30～15：00、4限15：10～16：40、5限16：50～18：20に変更となった。
 ※開講予定であった水曜1限JGU600eについては、不開講であったため表中に記載していない。

秋～冬学期 吹田キャンパス（今年度はいずれもZoomで実施）

科目種別： ☐ 留学生日本語選択コース ☐ 国際交流科目 ☐ 日本語集中コース ☐ 学際融合教育科目

時間帯	月		火		水		木		金	
	授	業	授	業	授	業	授	業	授	業
I 8:50 ～ 10:20			JA100-T5	総合日本語	浦木		JA100-T5	総合日本語	西口	総合日本語
			JB200-T1-1	総合日本語	山崎		JK301	漢字と語彙 (非漢字系)	TA横川	総合日本語
			JB300-T1-1	総合日本語	小原					総合日本語
			JB100-T1-1	総合日本語	岡田					総合日本語
			JK202/302	漢字と語彙 (漢字系)	TA横川					
II 10:30 ～ 12:00		UJ100		UJ200	山崎	チェートリアル	UJ100 (漢字と語彙)	TAリナ		チェートリアル UJ100 (漢字と語彙) TA松本
	JK201	漢字と語彙 (非漢字系)	TAリナ	UJ300	半田	チェートリアル	UJ200	TA横川		UJ200 UJ300 上仲
				総合日本語	岡田		UJ300	菅		総合日本語 矢部
			JB100-T2-1	総合日本語	住吉	JW400/500	アカデミック ライティング	韓		総合日本語 竹内
			JB300-T2-1	総合日本語	小原					総合日本語 梅本
III 13:30 ～ 15:00		UJ100	蔭山	UJ100	滝井		UJ100	花井	蔭山	UJ100 浦木
		UJ200	畑中	UJ200	山崎		UJ200	山田	小原	UJ200 上仲
		UJ300	西村	UJ300	半田		UJ300	菅	松田	UJ300 TA林
				言語コミュニケーション とパフォーマンス	中野	aBJ500/ 600/700	ビジネス日本語 コミュニケーション	韓		アカデミック コミュニケーション
				国際交流科目						JC400/500
IV 15:10 ～ 16:40		UJ100	蔭山	UJ100	滝井		UJ100	花井	蔭山	UJ100 浦木
		UJ200	畑中			JC400/500	アカデミック コミュニケーション	菅	浦木	UJ100
						JC600/700	アカデミック コミュニケーション	瀬井	小原	UJ200
V 16:50 ～ 18:20	JR600/700	アカデミック ライティング	西村	UJ200	矢部				岡崎/ 半田	
				JW600/700	アカデミック ライティング					

※日本語集中コースについては、コロナウィルスの影響で上記のカリキュラムから変更があったため、実際の時間割の詳細はⅣ章「留学生日本語プログラム」の記述を参照すること。

秋～冬学期 豊中キャンパス（今年度はいずれもZoomで実施）

科目種別： 国際交流科目（JA、JGU） 全学共通教育科目 学際融合教育科目 日本語自律学習支援

時間帯	月		火		水		木		金	
	授	業	授	業	授	業	授	業	授	業
I 8：50 ～ 10：20		担当	JA100-T1/T2	総合日本語（講義）	難波	JA100-T1	総合日本語	岡田	JA100-T1	総合日本語
			JA100-T4	総合日本語	上仲	JA100-T2	総合日本語	花井	JA100-T2	総合日本語
			JA200-T1/T2	総合日本語（講義）	福良	JA100-T4	総合日本語	山田	JA100-T4	総合日本語（講義）
			JA300-T1	総合日本語	住吉	JA200-T1	総合日本語	上仲	JA200-T1	総合日本語
			JA300-T2	総合日本語	上田	JA200-T2	総合日本語	半田	JA200-T2	総合日本語
			JA400-T1	総合日本語	菅	JA300-T1/T2	総合日本語（講義）	西口	JA300-T1	総合日本語
			JA400-T2	総合日本語	矢部	JA400-T1	総合日本語	小原	JA300-T2	総合日本語
			JGU500a	日本語・グローバル理解演習	大谷	JA400-T2	総合日本語	矢部	JA400-T1/T2	総合日本語（講義）
			JGU600a	日本語・グローバル理解演習	岡崎	JGU500b	日本語・グローバル理解演習	藤澤	JGU500c	日本語・グローバル理解演習
						JGU600b	日本語・グローバル理解演習	大谷	JGU600c	日本語・グローバル理解演習
II 10：30 ～ 12：00										
III 13：30 ～ 15：00			学際融合	言語学習 アドベインツ入門	義永					
IV 15：10 ～ 16：40			日本語学習アドベインツ		難波					
V 16：50 ～ 18：20	専門日本語	義永	専門日本語	難波	村岡	専門日本語	総合日本語	福良		
	多文化コミュニケーション	岡本	多文化コミュニケーション	西村	大谷	多文化コミュニケーション				

※開講予定であったJA100Track3（火曜1限、水曜1限、木曜1限）については、不開講であったため表中に記載していない。

資料2 2020年度 留学生日本語プログラム(選択コース) 履修登録者数(実人数)一覧

2-1 春～夏学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研 究 科 / 学 部	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*1}	研究生 ^{*2}	特 別 研究学生 ^{*3}	特 別 聴講学生 ^{*3}
文学研究科/文学部	8	3	5	0	0	0
人間科学研究科/人間科学部	1	0	0	1	0	0
法学研究科/法学部	5	0	5	0	0	0
経済学研究科/経済学部	6	2	4	0	0	0
理学研究科/理学部	7	0	6	1	0	0
医学系研究科/医学部	9	3	6	0	0	0
歯学系研究科/歯学部	1	0	1	0	0	0
薬学研究科/薬学部	2	0	2	0	0	0
工学研究科/工学部	38	3	33	0	0	2
基礎工学研究科/基礎工学部	2	0	1	1	0	0
言語文化研究科	7	0	3	4	0	0
国際公共政策研究科	1	0	1	0	0	0
情報科学研究科	6	0	6	0	0	0
社会経済研究所	0	0	0	0	0	0
産業科学研究所	0	0	0	0	0	0
生命機能研究科	3	0	3	0	0	0
計 ^{*4}	96	11	76	7	0	2

【特記事項】

- * 1. 大学院生：大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。
- * 2. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中コース）。
- * 3. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。
- * 4. JA・JGU（国際交流科目）受講学生は含まれない。また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	8	0	8	0	0	0
200	25	0	23	1	0	1
300	14	0	12	2	0	0
400	3	1	2	0	0	0
500	10	2	7	0	1	0
600	10	5	2	3	0	0
(超上級レベル) 700*	26	3	22	1	0	0
計	96	11	76	7	1	1

*：大学院生の「(超上級レベル) 700」は「学際融合教育科目」として履修登録。ただし、「ビジネス日本語コミュニケーション 500/600/700」は除く。

2-2 秋～冬学期

(1) 部局別履修者数・身分内訳

研 究 科 / 学 部	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生 ^{*1}	研究生 ^{*2}	特 別 研究学生 ^{*3}	特 別 聴講学生 ^{*3}
文学研究科/文学部	7	3	3	1	0	0
人間科学研究科/人間科学部	4	1	1	2	0	0
法学研究科/法学部	13	5	8	0	0	0
経済学研究科/経済学部	27	16	10	1	0	0
理学研究科/理学部	11	1	9	1	0	0
医学系研究科/医学部	8	1	5	2	0	0
歯学系研究科/歯学部	2	0	0	2	0	0
薬学研究科/薬学部	0	0	0	0	0	0
工学研究科/工学部	55	4	48	3	0	0
基礎工学研究科/基礎工学部	14	0	14	0	0	0
言語文化研究科	12	0	4	8	0	0
国際公共政策研究科	9	0	3	6	0	0
情報科学研究科	5	0	5	0	0	0
生命機能研究科	4	0	2	2	0	0
連合小児発達学研究科	1	0	0	1	0	0
産業科学研究所	1	0	0	1	0	0
レーザー科学研究所	1	0	0	1	0	0
国際教育交流センター ^{*4}	5	0	0	5	0	0
計 ^{*5}	179	31	112	36	0	0

【特記事項】

- * 1. 大学院生：大学院生には、「学際融合教育科目」として履修登録している学生が含まれる。
- * 2. 研究生：大学院レベル、および予備教育生（日本語集中コース）。
- * 3. 特別研究学生・特別聴講学生には、OUSSEP・FrontierLabのほか、iExpoの学生が含まれる。
- * 4. 国際教育交流センター欄の研究生5名は、他大学配属日本語集中コース生。
- * 5. JA・JGU（国際交流科目）受講学生は含まれない。また、正規学部留学生については、本プログラムではなく共通教育の第2外国語科目（国際教育交流センターが提供）を受講しているため、ここには含まれていない。

(2) レベル別身分内訳

選 択 レ ベ ル	総 計	身 分 別 内 訳				
		学部研究生	大学院生	研究生	特 別 研究学生	特 別 聴講学生
(未習) 100	17	0	14	3	0	0
200	35	3	23	9	0	0
300	44	4	34	6	0	0
400	12	0	7	5	0	0
500	19	10	6	3	0	0
600	12	5	1	6	0	0
(超上級レベル) 700 [*]	40	9	27	4	0	0
計	179	31	112	36	0	0

*：大学院生の「(超上級レベル) 700」は「学際融合教育科目」として履修登録。ただし、「ビジネス日本語コミュニケーション 500/600/700」は除く。

資料 3-1 国際交流科目授業時間割（令和 2 年 春～夏学期）

時 限	時 間	月	火	水	木	金		
		吹田キャンパス	豊中キャンパス	豊中/吹田キャンパス	豊中キャンパス	吹田/箕面キャンパス		
Ⅰ	8:50 ～ 10:20		日本語 JA (100, 200, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2, 日本語・グローバル理解演習 JGU600d) 《国際教育交流センター》	日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 500-1, 500-2 日本語・グローバル理解演習 JGU600e) 《国際教育交流センター》	日本語 JA (100-1, 100-2, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400, 500, 日本語・グローバル理解演習 JGU600f) 《国際教育交流センター》			
			100 : 難波 康治 200 : 福良 直子 300-1 : 住吉 秀紀 300-2 : 岡崎 洋三 400-1 : 小原 俊彦 400-2 : 矢部 正人 500-1 : 菅 摂子 500-2 : 上田安希子 JGU600d : 大谷 晋也	100-1 : 岡田亜矢子 100-2 : 花井 理香 200-1 : 上仲 淳 200-2 : 半田佳奈子 300 : 西口 光一 400-1 : 小原 俊彦 400-2 : 岡崎 洋三 500-1 : 藤澤 好恵 500-2 : 竹内 茜 JGU600e : 矢部 正人	100-1 : 藤山 拓 100-2 : 花井 理香 200-1 : 矢部 正人 200-2 : 半田佳奈子 300-1 : 住吉 秀紀 300-2 : 岡崎 洋三 400 : 義永美央子 500 : 難波 康治 JGU600f : 伊藤 創			
			100 : 全学教育 C306 200 : 全学教育 C206 300-1 : 全学教育 C409 300-2 : 全学教育 B306 400-1 : 全学教育 C405 400-2 : 全学教育 C404 500-1 : 全学教育 C107 500-2 : 全学教育 A304 JGU600d : 全学教育 C307	100-1 : 全学教育 A315 100-2 : 全学教育 C304 200-1 : 全学教育 B306 200-2 : 全学教育 B316 300 : 全学教育 C204 400-1 : 全学教育 C107 400-2 : 全学教育 C405 500-1 : 全学教育 C404 500-2 : 全学教育 C105 JGU600e : 全学教育 A305	100-1 : 全学教育 A301 100-2 : 全学教育 C304 200-1 : 全学教育 A103 200-2 : 全学教育 C303 300-1 : 法経研究棟 509 300-2 : 全学教育 C107 400 : 全学教育 A315 500 : 文法経講義棟 32 講義 室 JGU600f : 全学教育 A305			
Ⅱ	10:30 ～ 12:00	我が国の保健サービスと医療ケア 《医学研究科》	日本法の諸問題 《法学研究科》	哲学的思考と 日本の伝統 《人間科学部 G30》	比較法の諸問題 《法学研究科》	近代日本文学に おける大阪 《言語文化研究科》	科学英語入門 《国際教育交流 センター》	多文化共生論 《人間科学部 G30》
		加藤 和人	Elbalti Beligh	須藤 訓任	Elbalti Beligh	村上スミス・ アンドリュウ	岡本 紗知	Viktoriya Kim
		IC Hall Room 6	文法経講義棟 22 講義室	文法経講義棟 11 講義室	文法経講義棟 22 講義室	全学教育 SC セミナー室 B	文法経講義棟 32 講義室	人間科学研究科 12 講義室
Ⅲ	13:30 ～ 15:00	異文化コミュニケーションと パフォーマンス 《国際教育交流センター》	ジェンダー論 《人間科学部 G30》	合成化学への いざない 《基礎工学研究科》	知覚と認知の 心理学 《人間科学部 G30》	日本における 大学の国際化 《国際教育交流 センター》	生物学演習 A 《理学研究科》	
		中野 遼子	Paola Cavaliere	新谷 亮	森川 和則	石倉佑季子	高木 慎吾	
		IC Hall Room 6	全学教育 SC セミナー室 B	基礎工学 研究科 A 304	人間科学 研究科 34 講義室	文理融合棟 共通講義室 1	理学研究科 B308	
Ⅳ	15:10 ～ 16:40		イノベーション の管理と変遷 《国際教育交 流センター》	文化人類 学入門 《人間科 学部 G30》	オンライン・ リソースを 活用した L2 学習 《国際教育交 流センター》	日本の社会とイデオロギー 《国際教育交流センター》	家族と結婚の社会学入門 《人間科学部 G30》	異文化理解演習 《外国語学部》
			三森八重子	Mohacs Gergely	魚崎 典子	近藤佐知彦	Viktoriya KIM	波多野吉徳
			全学教育 SC セミナー室 D	全学教育 SC セミナー室 B	サイバーメ ディアセン ター CALL 教室 第 1B 教室	全学教育 C204	全学教育 C304	外国語学部 A101
Ⅴ	16:50 ～ 18:20	応用理工学入門 《工学研究科》						
		小林 英樹						
		工学研究科 M1 棟 211						

資料 3-2 国際交流科目授業時間割（令和 2 年 秋～冬学期）

時 限	時 間	月		火		水		木				金			
		吹田キャンパス		豊中/吹田キャンパス		豊中/吹田キャンパス		豊中/吹田キャンパス		豊中/吹田/箕面キャンパス					
I	8:50 ～ 10:20			日本語 JA (100-1, 100-2, 100-4, 100-5 200, 300-1, 300-2, 400-1, 400-2, 日本語・グローバル理解演習 JGU500a 日本語・グローバル理解演習 JGU600a) 《国際教育交流センター》		日本語 JA (100-1, 100-2, 100-4, 200-1, 200-2, 300, 400-1, 400-2, 日本語・グローバル 理解演習 JGU500b, 日本語・グローバル 理解演習 JGU600b) 《国際教育交流センター》		※ UC Frontier Science 《大阪大 学とカリ フォルニ ア大学と の学術交 流推進 室》		日本語 JA (100-1, 100-2, 100-4, 100-5, 200-1, 200-2, 300-1, 300-2, 400, 日本語・グローバル 理解演習 JGU500c 日本語・グローバル 理解演習 JGU600c) 《国際教育交流センター》		※ UC Frontier Science 《大阪大 学とカリ フォルニ ア大学と の学術交 流推進 室》		日本語 JA (100-5) 《国際教育交流センター》	
				100-1,2: 難波 康治 100-4: 上仲 淳 100-5: 浦木 貴和 200 : 福良 直子 300-1: 住吉 秀紀 300-2: 上田安希子 400-1: 菅 拱子 400-2: 矢部 正人 JGU500a: 大谷 晋也 JGU600a: 岡崎 洋三		100-1: 岡田亜矢子 100-2: 花井 理香 100-4: 山田真知子 200-1: 上仲 淳 200-2: 半田佳奈子 300 : 西口 光一 400-1: 小原 俊彦 400-2: 矢部 正人 JGU500b: 藤澤 好恵 JGU600b: 大谷 晋也		John Ino		John Ino		浦木 貴和			
				100-1: - 100-2: - 100-4: - 100-5: IC Hall 講義室 1 200 :- 300-1: - 300-2: - 400-1: - 400-2: 全学教育 A305 JGU500a: - JGU600c: 全学教育 A301		100-1: - 100-2: - 100-3: - 100-4: - 200-1: - 200-2: - 300 :- 400-1: - 400-2: 全学教育 C107 JGU500b: - JGU600b: -		—		—		IC Hall 講義室 1			
II	10:30 ～ 12:00	社会学《人間科学部 G30》		日本における文化言語の多様性 《文学研究科》	日本法の諸問題 《法学研究科》	比較法の諸問題 《法学研究科》	移動の社会学 《人間科学部 G30》	近代・現代 日本文学 《言語文化 研究科》	科学と社会 《国際教育 交流セ ンター》	日本における 多様性と人権 《人間科学 部 G30》	※ UC Frontier Science 《大阪大学 とカリフォル ニア大学と の学術交流 推進室》	メディア社会学 《人間科学部 G30》	材料化学入門 《工学研究科》		
		Christian Etzrodf		佐藤 廉也	Elbalti Beligh	Elbalti Beligh	Viktoriya KIM	村上スミス・ アンドリュース	岡本紗知	北山夕華	John Ino	Viktoriya KIM	宇山 浩		
		人間科学研究科 31 講義室		—	—	—	—	—	—	—	—	—	工学研究科 C1-312 講義室		
III	13:30 ～ 15:00			言語コミュニケーションと パフォーマンス 《国際教育交流センター》		特別講義 (比較契約法・不法行為法の諸問題) 《法学研究科》									
				中野 遼子		Leonardo Ciano									
				全学教育 SC セミナー室 B		—									
IV	15:10 ～ 16:40	多変量統計科学 《人間科学部 G30》	日本のサル学 《人間科学部 G30》	コンピュータを 活用した語学学習 (国際教育交流センター)	ソーシャルイノ ベーションとソ ーシャルデザイン (国際教育交流センター)	異文化コミュニケーション入門 ～異文化を理解するためのストラテジー～ 《国際教育交流センター》		文化: その理解 へのアプローチ (国際教育交流センター)		2 次元の幾何学 《理学研究科》		異文化理解演習 《外国語学部》			
		足立 浩平	中道 正之	魚崎 典子	近藤佐知彦／ 三森八重子	石倉佑季子		有川 友子	馬場 伸平	筒井 佐代					
		人間科学研究科 33 講義室	人間科学研究科 207 講義室	サイバーメディア センター CALL 教室第 1B 教室	全学教育 SC セミナー室 B	—		—	—	理学研究科 B302	外国語学部 A101				
V	16:50 ～ 18:20					日本のメディアと コミュニケーション 《国際教育交流センター》		先端物性物理学 《基礎工学研究科》		地球総合工学入門 —持続可能な開発における地球 総合工学の役割— 《工学研究科》					
						近藤佐知彦		山本 俊		入江 政安					
						全学教育 C406		基礎工学研究科 A403		工学研究科 S1-513 講義室					

※毎月第 1 週目の水曜 2 限木曜 1・2 限開講

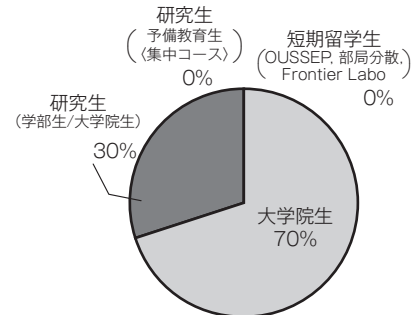
資料 4 日本語授業についてのアンケート

2020 年度 春～夏学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆身分 回答者のみ

(1) 大学院生	26
(2) 研究生（学部生 / 大学院生）	11
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	0
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Labo）	0
計	37



* 延総受講者数 101 名のうち、アンケート回答者数 37 名（全体の約 37%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。	(5：高評価)					全科目平均値
50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.8	
(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。						
全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.4	
(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5	3.4	
(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。						
全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	91分以上 5	3.2	
(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。						
一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	3.3	
(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。						
ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	4.0	

B. 授業への感想

授業への感想

(5：高評価)

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
---------------	-------------	----------------	-----------	-------------

(1) この授業は体系的に構成されていた。

4.3

(2) 教師は十分な準備をしていた。

4.5

(3) 教師の説明はわかりやすかった。

4.4

(4) 教師は質問にいてねいに答えてくれた。

4.6

(5) 練習やアクティビティは役に立った。

4.3

(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。

4.3

(7) 宿題の量は適切だった。

4.1

(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

4.6

(9) この授業を受講してよかったと思う。

4.3

2020 年度 春～夏学期 日本語授業についてのアンケート集計 (回答者：選択コース受講学生)

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

受講者数	アンケート回答者数	回答率
のべ101名	のべ37名	36.63%

○各科目平均集計

1. 選択コース

科目名 質問項目	全科目 平均値		JB 100-T1		JB 100-T2		JB 200-T1		JB 200-T2		JK 201		JK 202		JB 300		JK 301		JK 302		JC 400		JC 500		JW 400		JW 500		BJ 600		BJ 700		JC 600		JC 700		JR 600		JR 700		JW 600		JW 700			
	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数	回答数	受講数				
(1)	37	101	5.00	5.00	4.80	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	—	—	3.67	4.00	—	—	—	—	5.00	5.00	5.00	5.00	—	—	4.80	5.00	5.00	5.00	5.00	—	5.00	—	5.00	—	5.00	—	5.00	—	5.00	—	5.00	—	5.00	—
(2)			5.00	4.50	4.40	4.00	4.50	4.00	4.50	4.00	4.50	4.00	—	—	4.33	4.00	—	—	—	—	4.00	5.00	5.00	5.00	—	—	4.40	4.67	5.00	5.00	5.00	—	4.33	—	4.00	—	2.00	—	4.00	—	5.00	—	5.00	—	5.00	—
(3)			5.00	3.25	3.00	4.00	3.50	3.50	3.50	3.50	3.50	2.00	—	—	2.67	2.00	—	—	—	—	4.00	5.00	5.00	5.00	—	—	3.40	2.67	3.00	5.00	5.00	—	4.00	—	5.00	—	5.00	—	2.00	—	2.00	—	1.00	—	1.00	—
(4)			5.00	3.25	2.80	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	—	—	3.00	3.00	—	—	—	—	3.00	5.00	5.00	5.00	—	—	3.00	2.67	3.00	5.00	5.00	—	3.00	—	3.00	—	2.50	—	2.50	—	2.00	—	2.00	—	2.00	—
(5)			5.00	3.00	2.60	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	—	—	3.00	3.00	—	—	—	—	3.00	5.00	5.00	5.00	—	—	3.40	3.00	2.00	5.00	5.00	—	3.33	—	4.50	—	4.50	—	2.50	—	2.50	—	1.00	—	1.00	—
(6)			4.00	4.50	3.60	4.00	3.50	4.00	3.50	4.00	3.50	5.00	—	—	4.67	5.00	—	—	—	—	2.00	5.00	5.00	5.00	—	—	3.80	4.00	3.00	5.00	5.00	—	3.67	—	4.50	—	4.00	—	4.00	—	3.00	—	3.00	—		
(7)			4.00	4.75	4.20	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	—	—	4.67	5.00	—	—	—	—	3.00	5.00	5.00	5.00	—	—	4.60	4.33	5.00	5.00	5.00	—	4.00	—	5.00	—	5.00	—	4.00	—	3.00	—	3.00	—		
(8)			4.00	4.75	4.40	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	—	—	4.67	5.00	—	—	—	—	3.00	5.00	5.00	5.00	—	—	4.80	5.00	5.00	5.00	5.00	—	4.33	—	5.00	—	5.00	—	4.50	—	4.00	—	4.00	—		
(9)			4.00	4.75	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	—	—	4.67	5.00	—	—	—	—	3.00	5.00	5.00	5.00	—	—	4.60	5.00	5.00	5.00	5.00	—	4.33	—	5.00	—	5.00	—	4.50	—	3.00	—	3.00	—		
(10)			5.00	4.75	4.40	4.00	4.50	4.00	4.50	4.00	4.50	—	—	—	4.67	—	—	—	—	—	4.00	5.00	5.00	5.00	—	—	4.80	5.00	5.00	5.00	5.00	—	4.33	—	5.00	—	5.00	—	4.50	—	4.00	—	4.00	—		
(11)			4.00	4.75	4.20	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	—	—	4.00	5.00	—	—	—	—	4.00	5.00	5.00	5.00	—	—	4.40	5.00	4.00	4.00	4.00	—	4.00	—	4.50	—	4.50	—	4.00	—	4.00	—	4.00	—		
(12)			4.00	4.75	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	—	—	4.00	5.00	—	—	—	—	3.00	5.00	5.00	5.00	—	—	4.40	5.00	5.00	4.00	4.00	—	3.67	—	4.50	—	4.50	—	4.00	—	4.00	—	4.00	—		
(13)			4.00	4.75	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	—	—	4.00	5.00	—	—	—	—	3.00	5.00	5.00	5.00	—	—	4.60	5.00	4.00	4.00	4.00	—	3.67	—	4.00	—	4.00	—	4.50	—	2.00	—	2.00	—		
(14)			5.00	4.75	4.00	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	—	—	4.33	5.00	—	—	—	—	—	5.00	5.00	5.00	—	—	4.40	5.00	5.00	5.00	5.00	—	4.33	—	4.00	—	4.00	—	4.50	—	4.00	—	4.00	—		
(15)			4.00	4.75	4.20	4.00	4.50	4.00	4.50	4.00	4.50	5.00	—	—	4.67	5.00	—	—	—	—	3.00	5.00	5.00	5.00	—	—	4.60	5.00	4.00	4.00	4.00	—	4.33	—	4.50	—	4.50	—	4.50	—	2.00	—	2.00	—		

設問内容

A. あなたの受講状況について

- (1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。
- | | | | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|--------|---|-------|
| 1 | 50%未満 | 2 | 70～80% | 3 | 80～90% | 4 | 90%以上 |
|---|-------|---|--------|---|--------|---|-------|
- (2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。
- | | | | | | | | | | |
|---|----------|---|--------|---|-----------|---|------|---|--------|
| 1 | 全くそう思わない | 2 | そう思わない | 3 | どちらともいえない | 4 | そう思う | 5 | 強くそう思う |
|---|----------|---|--------|---|-----------|---|------|---|--------|
- (3) あなたはこの授業の準備のために、毎回のどのくらいの時間をかけましたか。
- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|------|---|------|---|-------|
| 1 | 全くしない | 2 | ～30分 | 3 | ～60分 | 4 | ～90分 | 5 | 90分以上 |
|---|-------|---|------|---|------|---|------|---|-------|
- (4) あなたはこの授業の復習に、毎回のどのくらいの時間をかけましたか。
- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|------|---|------|---|-------|
| 1 | 全くしない | 2 | ～30分 | 3 | ～60分 | 4 | ～90分 | 5 | 90分以上 |
|---|-------|---|------|---|------|---|------|---|-------|
- (5) あなたは、この授業中(90分)にいつものどのくらい自分から質問や発言をしましたか。
- | | | | | | | | | | |
|---|----------|---|----|---|------|---|------|---|------|
| 1 | 一度もしなかった | 2 | 1回 | 3 | 2～3回 | 4 | 4～5回 | 5 | 6回以上 |
|---|----------|---|----|---|------|---|------|---|------|
- (6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。
- | | | | | | | | | | |
|---|-------------|---|-------------|---|-----------|---|---------|---|---------|
| 1 | ぜんぜん上達しなかった | 2 | ほとんど上達しなかった | 3 | すこしだけ上達した | 4 | かなり上達した | 5 | とても上達した |
|---|-------------|---|-------------|---|-----------|---|---------|---|---------|

B. 授業への感想

- (7) この授業は体系的に構成されていた。
- (8) 教師は十分な準備をしていた。
- (9) 教師の説明はわかりやすかった。
- (10) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。
- (11) 練習やアクティビティは役に立った。
- (12) クイズや課題・テストなどは適切だった。
- (13) 宿題の量は適切だった。
- (14) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。
- (15) この授業を受講してよかったと思う。

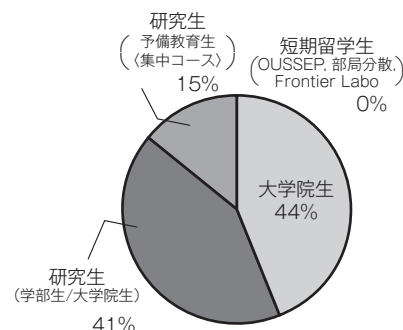
全くそう思わない	1	2	3	4	5
強くそう思う					

2020 年度 秋～冬学期 日本語授業についてのアンケート集計（回答者：選択コース受講学生）

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

◆身分 回答者のみ

(1) 大学院生	36
(2) 研究生（学部生/大学院生）	34
(3) 研究生（予備教育生〈集中コース〉）	12
(4) 短期留学生 （OUSSEP, 部局分散, Frontier Labo）	0
計	82



* 延総受講者数 216 名のうち、アンケート回答者数 82 名（全体の約 38%）

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。 (5：高評価) 全科目平均値

50%未満 1	50～70% 2	70～80% 3	80～90% 4	90%以上 5	4.7
------------	-------------	-------------	-------------	------------	------------

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5	4.4
---------------	-------------	----------------	-----------	-------------	------------

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	2.9
------------	-----------	-----------	-----------	------------	------------

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回どのくらい時間をかけましたか。

全くしない 1	～30分 2	～60分 3	～90分 4	90分以上 5	2.8
------------	-----------	-----------	-----------	------------	------------

(5) あなたは、この授業中（90分）にいつもどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

一度もしなかった 1	1回 2	2～3回 3	4～5回 4	6回以上 5	2.8
---------------	---------	-----------	-----------	-----------	------------

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

ぜんぜん 上達しなかった 1	ほとんど 上達しなかった 2	すこしだけ 上達した 3	かなり 上達した 4	とても 上達した 5	3.8
----------------------	----------------------	--------------------	------------------	------------------	------------

B. 授業への感想

(5：高評価)

全くそう思わない 1	そう思わない 2	どちらともいえない 3	そう思う 4	強くそう思う 5
---------------	-------------	----------------	-----------	-------------

(1) この授業は体系的に構成されていた。	4.5
(2) 教師は十分な準備をしていた。	4.7
(3) 教師の説明はわかりやすかった。	4.6
(4) 教師は質問にいてねいに答えてくれた。	4.8
(5) 練習やアクティビティは役に立った。	4.3
(6) クイズや課題・テストなどは適切だった。	4.3
(7) 宿題の量は適切だった。	4.3
(8) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。	4.3
(9) この授業を受講してよかったと思う。	4.5

2020 年度 秋～冬学期 日本語授業についてのアンケート集計 (回答者：選択コース受講学生)

Students' Evaluation of the Japanese Language Class

受講者数	アンケート回答者数	回答率
のべ216名	のべ82名	37.96%

○各科目平均集計

1. 選択コース

科目名	全科目 平均値	JB 100-T1	JB 100-T2	JB 200-T1	JB 200-T2	JK 201	JK 202	JB 300-T1	JB 300-T2	JK 301	JK 302	JC 400-T1	JC 400-T2	JC 500-T1	JC 500-T2	JW 400	JW 500	BI 500	BI 600	BI 700	JC 700	JR 600	JR 700	JW 600	JW 700
設問	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数	回答数/名数
質問項目	82/216	5/6	2/11	3/11	3/10	1/13	0/1	8/23	5/13	4/18	1/4	1/4	1/4	4/5	1/3	5/12	3/7	3/12	4/13	4/4	1/5	4/8	8/10	1/7	4/5
(1)	4.70	4.67	5.00	4.33	5.00	5.00	—	4.25	4.00	5.00	5.00	5.00	4.75	5.00	5.00	4.67	4.67	5.00	4.25	4.00	4.67	4.63	5.00	4.50	5.00
(2)	4.45	4.00	5.00	3.33	4.33	4.00	—	4.38	3.40	4.25	5.00	5.00	4.50	5.00	4.20	4.67	5.00	4.25	4.75	4.00	4.67	4.38	5.00	4.50	4.50
(3)	3.08	3.33	3.00	2.33	2.33	5.00	—	2.63	1.80	2.00	2.00	5.00	3.00	4.00	2.80	3.00	3.00	2.25	2.75	2.00	3.00	3.50	5.00	3.50	3.50
(4)	2.96	3.33	4.00	2.33	2.33	4.00	—	3.00	1.80	2.75	2.00	4.00	2.50	3.00	2.40	3.67	3.33	2.75	2.00	2.00	3.00	2.86	5.00	3.00	3.50
(5)	2.84	3.33	2.50	3.00	2.33	2.00	—	2.63	2.40	2.50	3.00	3.00	3.00	3.00	1.80	2.67	2.67	2.50	3.25	2.00	2.00	2.88	5.00	4.00	3.50
(6)	4.00	5.00	5.00	3.33	3.67	4.00	—	3.00	3.00	3.75	4.00	5.00	3.50	5.00	3.20	4.00	4.33	4.25	4.25	3.00	4.20	3.67	4.00	5.00	3.50
(7)	4.59	5.00	4.50	5.00	5.00	5.00	—	4.25	3.80	4.25	4.00	5.00	4.25	5.00	4.20	4.67	4.67	4.25	4.50	5.00	5.00	4.33	4.50	5.00	4.50
(8)	4.82	5.00	5.00	4.67	5.00	5.00	—	4.63	4.40	4.75	5.00	5.00	4.75	5.00	4.80	4.67	5.00	5.00	4.75	5.00	4.67	4.50	5.00	4.50	4.50
(9)	4.72	5.00	4.50	4.67	5.00	5.00	—	4.13	4.40	4.50	4.00	5.00	4.50	5.00	4.80	5.00	4.67	5.00	4.75	5.00	5.00	4.38	5.00	4.50	4.50
(10)	4.81	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	—	4.50	4.60	5.00	5.00	5.00	4.75	4.00	4.80	4.67	5.00	4.75	4.75	5.00	4.80	5.00	4.63	5.00	4.50
(11)	4.43	4.67	5.00	3.67	4.67	5.00	—	3.63	3.80	3.75	4.00	5.00	4.25	4.00	4.20	4.33	5.00	4.50	4.75	5.00	4.60	4.38	4.00	5.00	4.50
(12)	4.45	5.00	4.50	4.33	5.00	5.00	—	3.50	3.40	3.50	4.00	3.00	4.50	5.00	4.40	4.67	5.00	4.50	4.75	5.00	4.40	4.13	5.00	4.75	4.50
(13)	4.46	5.00	5.00	4.33	5.00	5.00	—	3.50	3.80	4.00	4.00	3.00	4.25	5.00	4.60	5.00	4.33	4.50	4.50	5.00	4.00	3.75	5.00	5.00	4.50
(14)	4.40	4.67	5.00	4.00	5.00	5.00	—	3.50	4.00	3.25	4.00	5.00	4.00	4.00	4.40	5.00	4.67	4.50	4.50	4.00	4.60	3.67	4.38	5.00	4.50
(15)	4.60	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00	—	3.75	4.20	3.75	4.00	5.00	4.25	5.00	4.60	4.67	5.00	4.75	4.50	5.00	4.33	4.38	5.00	5.00	4.50

設問内容

A. あなたの受講状況について

(1) あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか。

50%未満	50～70%	70～80%	80～90%	90%以上
1	2	3	4	5

(2) あなたはこの授業を意欲的に受講したと思いますか。

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

(3) あなたはこの授業の準備のために、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(4) あなたはこの授業の復習に、毎回のどのくらい時間をかけましたか。

全くしない	～30分	～60分	～90分	90分以上
1	2	3	4	5

(5) あなたは、この授業中(90分)にいつものどのくらい自分から質問や発言をしましたか。

一度もしなかった	1回	2～3回	4～5回	6回以上
1	2	3	4	5

(6) あなたは、この授業を受講して、日本語が上達したと思いますか。

ぜんぜん上達しなかった	ほとんど上達しなかった	すこしだけ上達した	かなり上達した	とても上達した
1	2	3	4	5

B. 授業への感想

(7) この授業は体系的に構成されていた。

(8) 教師は十分な準備をしていた。

(9) 教師の説明はわかりやすかった。

(10) 教師は質問にいていねいに答えてくれた。

(11) 練習やアクティビティは役に立った。

(12) クイズや課題・テストなどは適切だった。

(13) 宿題の量は適切だった。

(14) 指定された教科書や、配付されたプリントは役に立った。

(15) この授業を受講してよかったと思う。

全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う
1	2	3	4	5

資料 5 国際交流科目 授業評価アンケート（質問票）

 アンケート作成／回答入力

タイトル	End of Semester Evaluation Questionnaire (International Exchange Subjects)
概要	*Note: The main purpose of this survey is to evaluate and enhance the educational benefits and teaching quality of the instructors. This information may be used by the instructor, coordinator(s), and/or staff of the program as a reference for educational and improvement purposes in an anonymous form. Your answers to the questions will have no effect on your grade. You have 10 minutes to answer the questions. Please take your time completing the survey.
開講科目名	哲学的思考と日本の伝統

1:Your gender 【1つ選択してください。】 (回答必須)

I. ☐ Male
 II. ☐ Female
 III. ☐ Other

2:Your age 【記述式 50文字以内】 (回答必須)

3:Your home country 【1つ選択してください。】 (回答必須)

4:Please write your home country if you chose "others" for question 3. 【記述式 100文字以内】

5:Your native language 【1つ選択してください。】 (回答必須)

6:Please write your native language if you chose "others" for question 5. 【記述式 100文字以内】

7: Your program 【1つ選択してください。】 (回答必須)

I. ☐ OUSSEP
 II. ☐ iExpo (Regular exchange student)
 III. ☐ FrontierLab@Osaka
 IV. ☐ Maple
 V. ☐ International-College(G30)CBCMP
 VI. ☐ International-College(G30)HUS
 VII. ☐ Faculty-level exchange student
 VIII. ☐ Regular Student
 IX. ☐ Auditor
 X. ☐ Others

8:Please write your program if you chose "others" for question 7. 【記述式 100文字以内】

9:Your Japanese level 【1つ選択してください。】 (回答必須)

I. ☐ Native
 II. ☐ Excellent
 III. ☐ Good
 IV. ☐ Fair
 V. ☐ Poor

10:Your English level 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Native
- II. ☐ Excellent
- III. ☐ Good
- IV. ☐ Fair
- V. ☐ Poor

11:Which field is your major closest to? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Dentist
- II. ☐ Economics
- III. ☐ Engineering
- IV. ☐ Engineering Science
- V. ☐ Foreign Studies
- VI. ☐ Human Sciences
- VII. ☐ Information Science and Technology
- VIII. ☐ International Public Policy
- IX. ☐ Language and Culture
- X. ☐ Law and Politics
- XI. ☐ Letters
- XII. ☐ Medicine
- XIII. ☐ Pharmaceutical
- XIV. ☐ Sciences
- XV. ☐ Others

12:Please write your major if you chose "others" for question 11. 【記述式 100文字以内】

13:Which field is your minor closest to? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

14:Please write your minor if you chose "others" for question 13. 【記述式 1,000文字以内】

15:How often did you attend this class so far? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ All
- II. ☐ 80% ~
- III. ☐ 60% ~
- IV. ☐ 50% ~ 59%
- V. ☐ Less than half

16:Let us know the main reason for taking this class. Please write the reason. (e.g. OUSSEP completion, personal interest, others.) 【記述式 1,000文字以内】 (回答必須)

17:Are you satisfied with this class? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

18:Is the lecture understandable? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

19: Does the instructor speak English understandably? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

20: Is the class conducted in accordance with the syllabus? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

21: Does the instructor appropriately answer questions that the students have? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

22: Let us know your opinion on the amount of reading and assignments (inside and outside of class). 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Too much.
- II. ☐ Much.
- III. ☐ Adequate.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Too little.

23: Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

24: Does the instructor think out a method or way to improve the education effect? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

25: Is the lecture interactive (e.g. between instructor and students, among students)? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

26: Did you develop global awareness and learn different cultures and values through taking this class? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

27: How well does the TA/TF contribute? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ There are no TAs/TFs.

28:(Only for international students) Do you intend to transfer the credit to your home institution? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ I'll transfer the credit.
- II. ☐ I can transfer, but I don't need credits.
- III. ☐ I cannot transfer.
- IV. ☐ I'm an Osaka University student.

29:(Only for international students) To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ There are no Japanese students.
- VII. ☐ I'm a Japanese student.

30:(Only for international students) Can you recommend this class to other international students and students of your home university? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm a Japanese student.

31:(Only for Osaka University students) Do you take this class to get the credit for graduation? 卒業要件単位取得の目的で受講していますか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, I'll get the credit for graduation.
- II. ☐ No, I'm an auditor.
- III. ☐ No, I'll get the credit, however the credit is not necessary for graduation.
- IV. ☐ I'm not a regular student.

32:(Only for Osaka University students) To what extent have you had opportunities to talk to international students in this class? この授業で留学生との交流はできましたか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

33:(Only for Osaka University students) Do you have more opportunities to communicate with international students outside classes through taking this class? 授業に参加することで授業以外で留学生と話す機会が増えましたか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

34:(Only for Osaka University students) Have you ever studied abroad before? あなたはこれまでに留学したことがありますか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ I have studied abroad for 6 months or more.
- II. ☐ I have studied abroad for 3 months or more.
- III. ☐ I have studied abroad for less than 3 months.
- IV. ☐ I haven't studied abroad, however I'm thinking about it in the future.
- V. ☐ I haven't studied abroad, and don't plan to do so in the future.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

35:(Only for Osaka University students) Did you become interested in studying abroad through taking this class? 授業に参加することであなたは海外留学に興味を持ちましたか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I have already studied abroad before.
- VII. ☐ I'm not a regular student.

36:(Only for Osaka University students) Is this class helpful in preparing for studying abroad? 海外留学のための準備としてこの授業に参加することは、役に立つと思いますか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

37:(Only for Osaka University students) Can you recommend this class to other students? 後輩や他の学生にこの授業を受講することを勧められますか? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.
- VI. ☐ I'm not a regular student.

38:Do you think that the class should keep being conducted online? 【1つ選択してください。】 (回答必須)

- I. ☐ Yes, very much.
- II. ☐ Almost always.
- III. ☐ To some extent.
- IV. ☐ A little.
- V. ☐ Not at all.

39:Let us know what good points in this online class? 【記述式 1,000文字以内】 (回答必須)

40:Let us know what difficulties you have in this online class? 【記述式 1,000文字以内】 (回答必須)

41:Let us know if there are any favorable methods of teaching or class organization that you think the instructor should continue to maintain. (e.g. audio-visual material, field trip, discussions, quizzes, etc.) 【記述式 1,000文字以内】

42:Let us know if you have any suggestions or advice to improve the class. 【記述式 1,000文字以内】

43:Please freely write any other comments and opinions. 【記述式 1,000文字以内】

回答確認

一時保存

クリア

一覧に戻る

資料 6 国際交流科目 授業アンケート（結果）

7	Which is your program?	Answer	Num.	☐ A: OUSSEP ☐ B: iExPO ☐ C: Frontier Lab ☐ D: Maple ☐ E: G30-CBCMP ☐ F: G30-HUS ☐ G: Faculty-level exchange student ☐ H: Regular Student ☐ I: Auditor ☐ J: Others
		A: OUSSEP	33	
		B: iExPO	2	
		C: Frontier Lab	1	
		D: Maple	0	
		E: G30-CBCMP	6	
		F: G30-HUS	0	
		G: Faculty-level exchange student	0	
		H: Regular Student	15	
		I: Auditor	5	
		J: Others	8	
		Total Num.	70	
9	Your Japanese level	Answer	Num.	☐ A: Native ☐ B: Excellent ☐ C: Good ☐ D: Fair ☐ E: Poor
		A: Native	13	
		B: Excellent	3	
		C: Good	23	
		D: Fair	12	
		E: Poor	19	
		Total Num.	70	
10	Your English level	Answer	Num.	☐ A: Native ☐ B: Excellent ☐ C: Good ☐ D: Fair ☐ E: Poor
		A: Native	11	
		B: Excellent	36	
		C: Good	19	
		D: Fair	2	
		E: Poor	2	
		Total Num.	70	
11	Your Major	Answer	Num.	
		Dentistry	0	
		Economics	6	
		Engineering	1	
		Engineering-Science	7	
		Foreign Studies	13	
		Human Sciences	4	
		Information Science and Technology	0	
		International Public Policy	1	
		Language and Culture	12	
		Law and Politics	13	
		Letters	1	
		Medicine	1	
		Pharmaceutical	0	
		Sciences	10	
		Others	1	
		NA	0	
		Total Num.	70	
15	How often did you attend this class so far?	Answer	Num.	☐ A: All ☐ B: 80%~ ☐ C: 60%~ ☐ D: 50~59% ☐ E: less than half
		A: All	40	
		B: 80%~	28	
		C: 60%~	2	
		D: 50~59%	0	
		E: less than half	0	
		Total Num.	70	

16	Let us know your main purpose of taking this class. Please specify the reason, such as OUSSEP completion, your own interest in the subject, or others.																		
	I have an interest in Japanese Philosophy and Buddhism.																		
	It was for me a discovery in order to complete my independent on Japanese society and its comparative approach notably on my chapter over education.																		
	Personal interest in learning economics and business																		
	OUSSEP completion and personal interest																		
17	Are you satisfied with this class?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: Yes, very much.</td><td>28</td></tr><tr><td>B: Almost always.</td><td>24</td></tr><tr><td>C: To some extent.</td><td>15</td></tr><tr><td>D: A little.</td><td>1</td></tr><tr><td>E: Not at all.</td><td>2</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>70</td></tr></table>	Answer	Num.	A: Yes, very much.	28	B: Almost always.	24	C: To some extent.	15	D: A little.	1	E: Not at all.	2	NA	0	Total Num.	70	□ A: Yes, very much. □ B: Almost always. □ C: To some extent. □ D: A little. □ E: Not at all. ■ NA
Answer	Num.																		
A: Yes, very much.	28																		
B: Almost always.	24																		
C: To some extent.	15																		
D: A little.	1																		
E: Not at all.	2																		
NA	0																		
Total Num.	70																		
18	Is the lecture understandable?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: Yes, very much.</td><td>37</td></tr><tr><td>B: Almost always.</td><td>23</td></tr><tr><td>C: To some extent.</td><td>9</td></tr><tr><td>D: A little.</td><td>0</td></tr><tr><td>E: Not at all.</td><td>1</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>70</td></tr></table>	Answer	Num.	A: Yes, very much.	37	B: Almost always.	23	C: To some extent.	9	D: A little.	0	E: Not at all.	1	NA	0	Total Num.	70	□ A: Yes, very much. □ B: Almost always. □ C: To some extent. □ D: A little. □ E: Not at all. ■ NA
Answer	Num.																		
A: Yes, very much.	37																		
B: Almost always.	23																		
C: To some extent.	9																		
D: A little.	0																		
E: Not at all.	1																		
NA	0																		
Total Num.	70																		
19	Does the instructor speak English understandably?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: Yes, very much.</td><td>40</td></tr><tr><td>B: Almost always.</td><td>21</td></tr><tr><td>C: To some extent.</td><td>8</td></tr><tr><td>D: A little.</td><td>0</td></tr><tr><td>E: Not at all.</td><td>1</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>70</td></tr></table>	Answer	Num.	A: Yes, very much.	40	B: Almost always.	21	C: To some extent.	8	D: A little.	0	E: Not at all.	1	NA	0	Total Num.	70	□ A: Yes, very much. □ B: Almost always. □ C: To some extent. □ D: A little. □ E: Not at all. ■ NA
Answer	Num.																		
A: Yes, very much.	40																		
B: Almost always.	21																		
C: To some extent.	8																		
D: A little.	0																		
E: Not at all.	1																		
NA	0																		
Total Num.	70																		
20	Is the class conducted in accordance with the syllabus?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: Yes, very much.</td><td>50</td></tr><tr><td>B: Almost always.</td><td>15</td></tr><tr><td>C: To some extent.</td><td>5</td></tr><tr><td>D: A little.</td><td>0</td></tr><tr><td>E: Not at all.</td><td>0</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>70</td></tr></table>	Answer	Num.	A: Yes, very much.	50	B: Almost always.	15	C: To some extent.	5	D: A little.	0	E: Not at all.	0	NA	0	Total Num.	70	□ A: Yes, very much. □ B: Almost always. □ C: To some extent. □ D: A little. □ E: Not at all. ■ NA
Answer	Num.																		
A: Yes, very much.	50																		
B: Almost always.	15																		
C: To some extent.	5																		
D: A little.	0																		
E: Not at all.	0																		
NA	0																		
Total Num.	70																		
21	Does the instructor answer appropriately to the questions that students have?	<table><tr><th>Answer</th><th>Num.</th></tr><tr><td>A: Yes, very much.</td><td>47</td></tr><tr><td>B: Almost always.</td><td>16</td></tr><tr><td>C: To some extent.</td><td>6</td></tr><tr><td>D: A little.</td><td>1</td></tr><tr><td>E: Not at all.</td><td>0</td></tr><tr><td>NA</td><td>0</td></tr><tr><td>Total Num.</td><td>70</td></tr></table>	Answer	Num.	A: Yes, very much.	47	B: Almost always.	16	C: To some extent.	6	D: A little.	1	E: Not at all.	0	NA	0	Total Num.	70	□ A: Yes, very much. □ B: Almost always. □ C: To some extent. □ D: A little. □ E: Not at all. ■ NA
Answer	Num.																		
A: Yes, very much.	47																		
B: Almost always.	16																		
C: To some extent.	6																		
D: A little.	1																		
E: Not at all.	0																		
NA	0																		
Total Num.	70																		

22	Let us know your opinion on the amount of reading and assignments (inside and outside of class).	Answer	Num.	☐ A: Too much. ☐ B: Much. ☐ C: Adequate. ☐ D: A little. ☐ E: Too little. ☐ NA
		A: Too much.	4	
		B: Much.	11	
		C: Adequate.	48	
		D: A little.	6	
		E: Too little.	1	
		NA	0	
		Total Num.	70	
23	Did the instructor explain the grading method and policy sufficiently?	Answer	Num.	☐ A: Yes, very much. ☐ B: Almost always. ☐ C: To some extent. ☐ D: A little. ☐ E: Not at all. ☐ NA
		A: Yes, very much.	43	
		B: Almost always.	21	
		C: To some extent.	5	
		D: A little.	1	
		E: Not at all.	0	
		NA	0	
		Total Num.	70	
24	Does the instructor think out a method or way to improve the education effect?	Answer	Num.	☐ A: Yes, very much. ☐ B: Almost always. ☐ C: To some extent. ☐ D: A little. ☐ E: Not at all. ☐ NA
		A: Yes, very much.	30	
		B: Almost always.	16	
		C: To some extent.	19	
		D: A little.	5	
		E: Not at all.	0	
		NA	0	
		Total Num.	70	
25	Is the lecture interactive (e.g. between instructor and students, among students)?	Answer	Num.	☐ A: Yes, very much. ☐ B: Almost always. ☐ C: To some extent. ☐ D: A little. ☐ E: Not at all. ☐ NA
		A: Yes, very much.	26	
		B: Almost always.	23	
		C: To some extent.	14	
		D: A little.	5	
		E: Not at all.	2	
		NA	0	
		Total Num.	70	
26	Did you develop global awareness and learn different cultures and values through taking this class?	Answer	Num.	☐ A: Yes, very much. ☐ B: Almost always. ☐ C: To some extent. ☐ D: A little. ☐ E: Not at all. ☐ NA
		A: Yes, very much.	32	
		B: Almost always.	16	
		C: To some extent.	12	
		D: A little.	4	
		E: Not at all.	5	
		NA	1	
		Total Num.	70	
27	Did you develop global awareness and learn different cultures and values through taking this class?	Answer	Num.	☐ A: Yes, very much. ☐ B: Almost always. ☐ C: To some extent. ☐ D: A little. ☐ E: Not at all. ☐ F: There are no TAs/TFs. ☐ NA
		A: Yes, very much.	18	
		B: Almost always.	11	
		C: To some extent.	10	
		D: A little.	4	
		E: Not at all.	1	
		F: There are no TAs/TFs.	26	
		NA	0	
		Total Num.	70	

28 (Only for international students) Do you intend to transfer the credit to your home institution?	Answer	Num.	☐ A: I'll transfer the credit. ☐ B: I can transfer, but I don't need credits. ☐ C: I cannot transfer. ☐ D: I'm an Osaka University student. ☐ NA
	A: I'll transfer the credit.	27	
	B: I can transfer, but I don't need credits.	5	
	C: I cannot transfer.	16	
	D: I'm an Osaka University student.	21	
	NA	1	
	Total Num.	70	
29 (Only for international students) To what extent have you had opportunities to talk to Japanese students through attending this class so far?	Answer	Num.	☐ A: Very much. ☐ B: Almost always. ☐ C: To some extent. ☐ D: A little. ☐ E: Not at all. ☐ F: There are no Japanese students. ☐ G: I'm a Japanese student. ☐ NA
	A: Very much.	1	
	B: Almost always.	5	
	C: To some extent.	11	
	D: A little.	16	
	E: Not at all.	16	
	F: There are no Japanese students.	6	
	G: I'm a Japanese student.	14	
	NA	1	
	Total Num.	70	
30 (Only for international students) Can you recommend this class to other international students and students of your home university?	Answer	Num.	☐ A: Yes, very much. ☐ B: Almost always. ☐ C: To some extent. ☐ D: A little. ☐ E: Not at all. ☐ F: I'm a Japanese student. ☐ NA
	A: Yes, very much.	18	
	B: Almost always.	18	
	C: To some extent.	17	
	D: A little.	1	
	E: Not at all.	2	
	F: I'm a Japanese student.	13	
	NA	1	
	Total Num.	70	
31 (Only for Osaka University students) Do you take this class to get the credit for graduation? 卒業要件単位取得の目的で受講していますか？	Answer	Num.	☐ A: Yes, I'll get the credit for graduation. ☐ B: No, I'm an auditor. ☐ C: No, I'll get the credit, however the credit is not necessary for graduation. ☐ D: I'm not a regular student. ☐ NA
	A: Yes, I'll get the credit for graduation.	16	
	B: No, I'm an auditor.	2	
	C: No, I'll get the credit, however the credit is not necessary for graduation.	12	
	D: I'm not a regular student.	30	
	NA	10	
	Total Num.	70	
32 (Only for Osaka University students) To what extent have you had opportunities to talk to international students in this class? この授業で留学生との交流はできましたか？	Answer	Num.	☐ A: Yes, very much. ☐ B: Almost always. ☐ C: To some extent. ☐ D: A little. ☐ E: Not at all. ☐ F: I'm not a regular student. ☐ NA
	A: Yes, very much.	8	
	B: Almost always.	5	
	C: To some extent.	4	
	D: A little.	7	
	E: Not at all.	3	
	F: I'm not a regular student.	31	
	NA	12	
	Total Num.	70	
33 (Only for Osaka University students) Do you have more opportunities to communicate with international students outside classes through taking this class? 授業に参加することで授業以外で留学生と話をする機会が増えましたか？	Answer	Num.	☐ A: Yes, very much. ☐ B: Almost always. ☐ C: To some extent. ☐ D: A little. ☐ E: Not at all. ☐ F: I'm not a regular student. ☐ NA
	A: Yes, very much.	2	
	B: Almost always.	6	
	C: To some extent.	4	
	D: A little.	2	
	E: Not at all.	13	
	F: I'm not a regular student.	31	
	NA	12	
	Total Num.	70	

34	(Only for Osaka University students) Have you ever studied abroad before? あなたはこれまでに留学したことがありますか？	Answer	Num.	□ A: I have studied abroad for 6 months or more. □ B: I have studied abroad for 3 months or more. □ C: I have studied abroad for less than 3 months. □ D: I haven't studied abroad, however I'm thinking about it in the future. □ E: I haven't studied abroad, and don't plan to do so in the future. ■ F: I'm not a regular student. ■ NA
		A: I have studied abroad for 6 months or more.	10	
		B: I have studied abroad for 3 months or more.	0	
		C: I have studied abroad for less than 3 months.	4	
		D: I haven't studied abroad, however I'm thinking about it in the future.	7	
		E: I haven't studied abroad, and don't plan to do so in the future.	4	
		F: I'm not a regular student.	33	
		NA	12	
Total Num.		70		
35	(Only for Osaka University students) Did you become interested in studying abroad through taking this class? 授業に参加することであなたは海外留学に興味を持ちましたか？	Answer	Num.	□ A: Yes, very much. □ B: Almost always. □ C: To some extent. □ D: A little. □ E: Not at all. ■ F: I have already studied abroad before. ■ G: I'm not a regular student. ■ NA
		A: Yes, very much.	7	
		B: Almost always.	4	
		C: To some extent.	3	
		D: A little.	3	
		E: Not at all.	2	
		F: I have already studied abroad before.	7	
		G: I'm not a regular student.	32	
NA	12			
Total Num.		70		
36	(Only for Osaka University students) Is this class helpful in preparing for studying abroad? 海外留学のための準備としてこの授業に参加することは、役に立つと思いますか？	Answer	Num.	□ A: Yes, very much. □ B: Almost always. □ C: To some extent. □ D: A little. □ E: Not at all. ■ F: I'm not a regular student. ■ NA
		A: Yes, very much.	12	
		B: Almost always.	3	
		C: To some extent.	9	
		D: A little.	1	
		E: Not at all.	1	
		F: I'm not a regular student.	32	
		NA	12	
Total Num.		70		
37	(Only for Osaka University students) Can you recommend this class to other students? 後輩や他の学生にこの授業を受講することを勧められますか？	Answer	Num.	□ A: Yes, very much. □ B: Almost always. □ C: To some extent. □ D: A little. □ E: Not at all. ■ F: I'm not a regular student. ■ NA
		A: Yes, very much.	8	
		B: Almost always.	7	
		C: To some extent.	9	
		D: A little.	1	
		E: Not at all.	0	
		F: I'm not a regular student.	32	
		NA	13	
Total Num.		70		
38	Do you think that the class should keep being conducted online?	Answer	Num.	□ A: Yes, very much. □ B: Almost always. □ C: To some extent. □ D: A little. □ E: Not at all. ■ NA
		A: Yes, very much.	7	
		B: Almost always.	9	
		C: To some extent.	21	
		D: A little.	15	
		E: Not at all.	17	
		NA	1	
		Total Num.		
39	It is easier to take part in the classes regardless my schedule. It can be done anywhere I want and flexible.			Attendance from everywhere possible, time was appropriate. I can remember other's faces and names. Very convenient because I did not have to commute for two hours to school. The student is not made to study something compulsory but based on individual learning To be able to interact with students living both here in Japan and abroad (e.g. Russia, Malaysia, etc). Screen sharing when having conversations with the class mates.

	We can communicate with other students in breakout room in each lesson.
	As I was still locked in France, this class being online allowed me to follow almost every lesson.
	I liked the structure of the lectures, that we had a warm-up discussion and then at the end another discussion session. Even though the class was online, this helped create some interaction between students.
	Saving money on public transportations, and similar to face-to-face classes
	Breakout rooms are often very effective.
	There is almost any difficulty to take the online course. That is a good point because I imagined that this remote-style would not be somewhat understandable for some reasons.
	Lecture topics are quite diverse, the online class sometimes have discussion, but it depends with the lecturer.
40	Let us know what difficulties you have in this online class?
	Attendance mail is pointless.
	often no real classes, so no discussion was possible, and that is essential for philosophy classes
	discussing and talking with other students is more difficult. need more chances to communicate teacher and students
	Some professors don't let students into the lecture if they're even a little bit late, because they forget to check if people have joined.
	Hard to do rigorous presentation and communication is limited due to occurring internet connectivity problems.
	Direct interaction was not possible and discussion was more difficult.
	It was sometimes awkward for me to talk with students who I barely know, but you made up teams so it was comfortable for me to always discuss with the same member
	Difficult to keep track some times. Couldn't attend at least 1 class because of internet problems.
	The exchanges between students and with the teacher can become weird sometimes due to the online aspect of the class, students are not as involved as they would be in a normal class.
	It is too slow I feel like I learned really few in one semester.
	The requirements weren't always clear in particular for some assignments where it was not possible for me to access the material, sometimes the zoom session was to some extent unreachable as well.
	To connect at the beginning and then to stay focus sometime it was hard.
41	Let us know if there are any favorable methods of teaching or class organization that you think the instructor should continue to maintain. (e.g. audio-visual material, field trip, discussions, quizzes, etc.)
	Discussions and group debates are much appreciated. Guest speakers are always a rich experience, which was a very interesting side of this class.
	The method of teaching shows a lot of commitment and support for students. I mainly appreciated the short time to answer questions and the synthesis in slides over the lecture.
	The media and books are a great addition. Also, the group discussions allow us to share opinions and go deeper on the topics.
	Audi-visual material, discussions, lecture videos, Watching a film during the class.
	The assignment to write paper and to prepare presentation is very excellent method for students to learn.
	I think audio-visual materials are quite helpful to understand historical events in Japan and the ideas of ideologists, like Mishima.
	discussion in class, field trip
42	Let us know if you have any suggestions or advice to improve the class.
	More breakout session for discussion among students maybe helpful to broaden the mindset of students. More In-Depth Readings -Less different teachers and deeper focus on a few topics.
	It was sometimes boring when you just read up the script of presentation.
	Maybe, if discussion group members changed besides the group for final presentation, we would have been able to interact with one another more.
	To be in real life and not online.
	Want some written summary for the topics discussed.
	I think more interactions, as group presentations would be a way to improve the class, however it seems pretty difficult to reach this goal online.
	Want some written summary for the topics discussed.
43	Please freely write any other comments and opinions.
	I am very satisfied my experience in the class including having discussion with international students.
	Thank you for providing us interesting class! Thank you for your informative and interesting lecture.
	Amazing experience
	I'm very satisfied with this class. I wish I could meet my teacher and classmates some day.
	I learnt many things and discovered new thinkers. I feel that I now have a better understanding of the Japanese society, and this helps me to have a more critical and balanced approach of what I consume from Japan, and to some extent, in my everyday life. The book excerpts made me want to read more of certain authors on certain topics, and I discovered some movies I'm now interested in seeing. It was a great and engaging opportunity overall, thank you very much!
	Thank you so much for teaching us. I will join the other class on fall.

2020 年度 年 報

2021 年 6 月 30 日 発行

編集・発行者：大阪大学国際教育交流センター

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号

電話：06-6879-7118 FAX：06-6879-7077

印刷所：株式会社 遊 文 舎

